上田市文化財調査報告書

上田市の原始・古代文化

埋蔵文化財分布調査報告書

上田市教育委員会

1974年3月

20
203
35

＊正誤表＊

地図の部分略付号の（製鉄址・子持勾玉出土地・居館跡推定地）の赤印刷は緑印刷です。
ご訂正をお願いします。

〈誤〉	〈正〉
◎ 製鉄址	◎ 製鉄址
● 子持勾玉出土地	● 子持勾玉出土地
居館跡推定地	居館跡推定地

先土器
縄 文
弥 生
土 師
須 恵
縄文、弥生、土師、須恵
縄文、弥生、土師
縄文、弥生、須恵
縄文、土師、須恵
縄文、弥生
縄文、土師
縄文、須恵
弥生、土師、須恵
弥生、土師
弥生、須恵
土師、須恵
中世
古 墳
古墳とは認められない高塚
家事址
廃寺址(含布目瓦出土地 国宝・重文塔)
五輪塔、宝篋印塔(含指定石造文化財)
墳墓址
製鉄址
子持勾玉出土地
城 跡
居館跡推定地
＊正誤表＊
地図の部分略付号の（製鉄址・子持勾玉出土地・居館跡推定地）の赤印刷は緑印刷です。
ご訂正をお願いします。
（誤）
（正）
製鉄址
製鉄址
子持勾玉出土地
子持勾玉出土地
居館跡推定地
居館跡推定地

はじめに

上田市教育長　山極真平

近年、道路の新設や拡張、宅地の造成、構造改善事業等、社会開発が急速に進み、埋蔵文化財の分布調査は喫緊な事態に当面したのであります。上田市といたしましては、今まで一般に周知されている遺跡は３００件程度でありましたが、過去３年間に亘り、１８０日にのぼる調査の日子をかけ約８００件の遺跡の分布実態を握ることが出来ました。この間、文化財調査委員の方々には多大なご尽力を頂き、当該事業の担当を上田染谷丘高校の小林幹男先生にお願いしたのであります。先生は終始、献身的に仕事にあたられ、大きな成果をおさめられ、分布調査報告書の完成を見、今回発表の段階にいたりましたことはご同慶に堪えないところであります。埋蔵文化財は、庭先の遺跡も知らないままに開発されたりするような危険度の高いものであります。これを防ぎ護る為には、所詮この遺跡の位置を誰にも見安く示されてゆくことが、最も大切でありまして、行政だけの力では、到底果されないところであります。なんとしても住民皆さんのご理解によらなければならないのであります。将来残すべきものは、発掘した上でないとわからない事ではありますが、まず生活圏周辺に在る遺跡を周知して頂くことが、埋蔵文化財保護の出発点であろうと考えます。地上に顕在する実体をもった文化財にとどまらず、地下に埋没している遺跡にまでゆきわたる愛護の心情をお互いが培ってゆかねばならないと思います。今や、埋蔵文化財に対する住民皆さんの意識の高揚をはかるべく、市内各自治会の大きなご協力を得なければならない時点に立っております。この調査報告書が、「足もとをまず知る。」ことの拠りどころとなることを念願いたすものであります。

終りに本調査にご協力くださった地域の皆さんに又、関係の皆さんに深甚なる謝意と敬意を表し、ごあいさつといたします。

目　　次

はじめに　　上田市教育長　山極真平 …… 1

例　　言 …… 4

図　　版 …… 5

Ⅰ 上田市の遺跡 …… 11

1. 上田市の地理的・歴史的環境 …… 11
2. 上田市の遺跡分布 …… 13
3. 土器編年表 …… 20
4. 上田市遺跡地名表 …… 22
5. 地区別・年代種別遺跡数 …… 51
6. 遺跡の現況 …… 52

Ⅱ 調査の概要 …… 53

1. 殿城・豊里地区の遺跡 …… 53
2. 神科・神川地区の遺跡 …… 64
3. 上田・塩尻地区の遺跡 …… 75
4. 城下・川辺地区の遺跡 …… 83
5. 泉田・室賀・浦里地区の遺跡 …… 91

◇ 塩田平の遺跡 …… 102

6. 中塩田地区の遺跡 …… 104
7. 別所・西塩田地区の遺跡 …… 111
8. 東塩田地区の遺跡 …… 120

Ⅲ 調査のまとめ …… 129

付録　上田市関係考古学文献目録 …… 131

「上田市埋蔵文化財分布調査報告書」によせて …… 138

図 版 目 次

図版 1　上田盆地北東部（川東平野）の景観と遺跡 …… 5
図版 2　川西盆地の景観と遺跡 …… 6
図版 3　殿城・常入・古里・神川地区の遺跡 …… 7
図版 4　神宮寺古墳と明神前遺跡出土の土器 …… 8
図版 5　塩田平の遺跡 …… 9
図版 6　他田塚古墳（東塩田）・皇子塚古墳（西塩田） …… 10

挿 図 目 次

第 1 図　西町田遺跡の土器出土状態 …… 19
第 2 図　赤坂地区の遺跡景観 …… 54
第 3 図　氷沢第 4 号墳の石室 …… 61
第 4 図　墨書土器「八」明神前遺跡出土 …… 66
第 5 図　平安時代の石組かまど …… 70
第 6 図　新屋第 1 号墳の石室 …… 72
第 7 図　塩尻地区の遺跡景観 …… 81
第 8 図　舟窪第 4 号墳 …… 89
第 9 図　浦野広谷の遺跡景観 …… 92
第10図　才光坊遺跡の住居址（土師後期） …… 108
第11図　西塩田・中塩田地区の遺跡景観 …… 112
第12図　東安曾岡遺跡と東塩田の遺跡景観 …… 124

例　　言

○本書は昭和４６年の春から昭和４９年の１月にわたって、上田市教育委員会が主体となって実施した、上田市全域の表面採集による埋蔵文化財分布調査に関する報告書である。

○この調査は、調査主体である上田市教育委員会が、上田市文化財調査委員会に委託して実施し、上田市教育委員会の協力のもとに主として小林が担当して行なった。

○調査の方法は、「信濃史料」第１巻の遺跡名表、および「全国遺跡地図（長野県）」、「上田市史」、「小県郡史」などの文献・資料等を参考にして、既知の遺跡の現状を点検し、併せて、全地域を踏査・表面採集を行い、未知の遺跡の発見に努めた。この結果、上田市内の遺跡数は、「信濃史料」遺跡名表に記載されたもののおよそ２倍以上にもおよび、更に今後も追加が予想される。

○遺跡の名称は、古墳等のように、既に固有の名称があるものを除いて、すべて小字名によることにした。しかし、この方法は、文化財の保護等には便利であるが、反面学術的には、１個の遺跡が数筆に分けて登録されるなどの問題が残る。そこで、このような場合には、文中にその旨を記して、遺跡の範囲を明確にするように努めた。

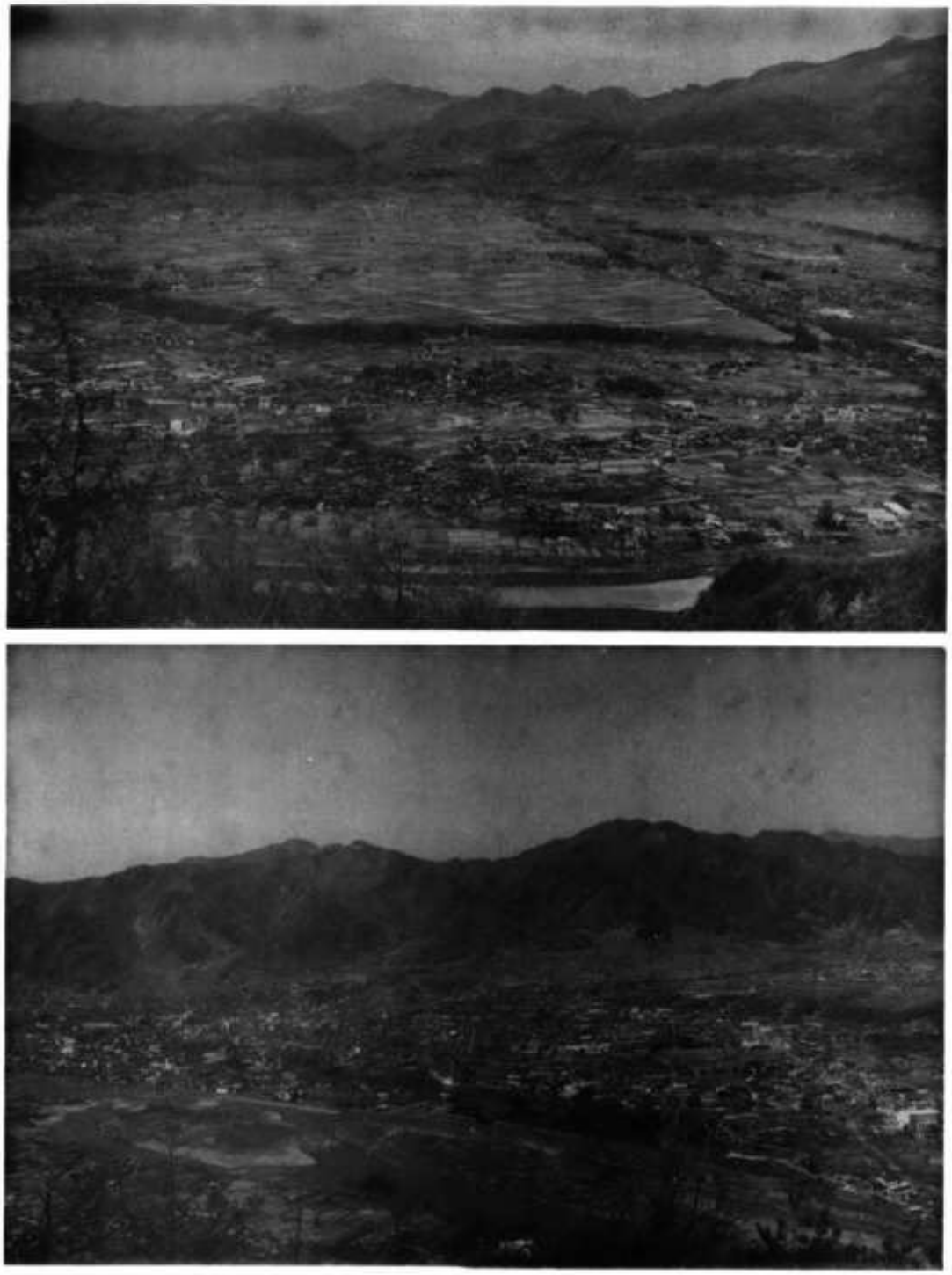
○本書に採用した遺跡の登録番号は、「信濃史料」遺跡名表の遺跡番号と対比しながら、上田市独自の番号を採用することにした。登録番号は、今後の追加を予想して、上田市を殿城・豊里地区（地区別整理番号１００、以下同じ）、神科・神川地区（２００）、上田・塩尻地区（３００）、城下・川辺地区（４００）、泉田・室賀・浦里地区（５００）、中塩田地区（600）、別所・西塩田地区（７００）、東塩田地区（８００）の８地区に分けた。

例　殿城・豊里地区　１０１……１５４　　東塩田地区　８０１……８６１

○今回の調査に際しては、上田市当局と上田市教育委員会事務局の文化財係長原昌孝氏をはじめ係の皆さんに、調査の計画・準備・連絡など、並み並みならぬご努力とご配慮をいただいた。また、各地の調査では、多くの皆さんからご教示や案内をいただき、塩田と川西地区の調査には、上小考古学研究会員・上田高校郷土班・上田染谷丘高校歴史班・丸子実業高校地歴班、明治大学学生篠原若枝さん、東洋大学学生林和男君にも参加・ご協力をいただき、本調査をほぼ完了することができた。

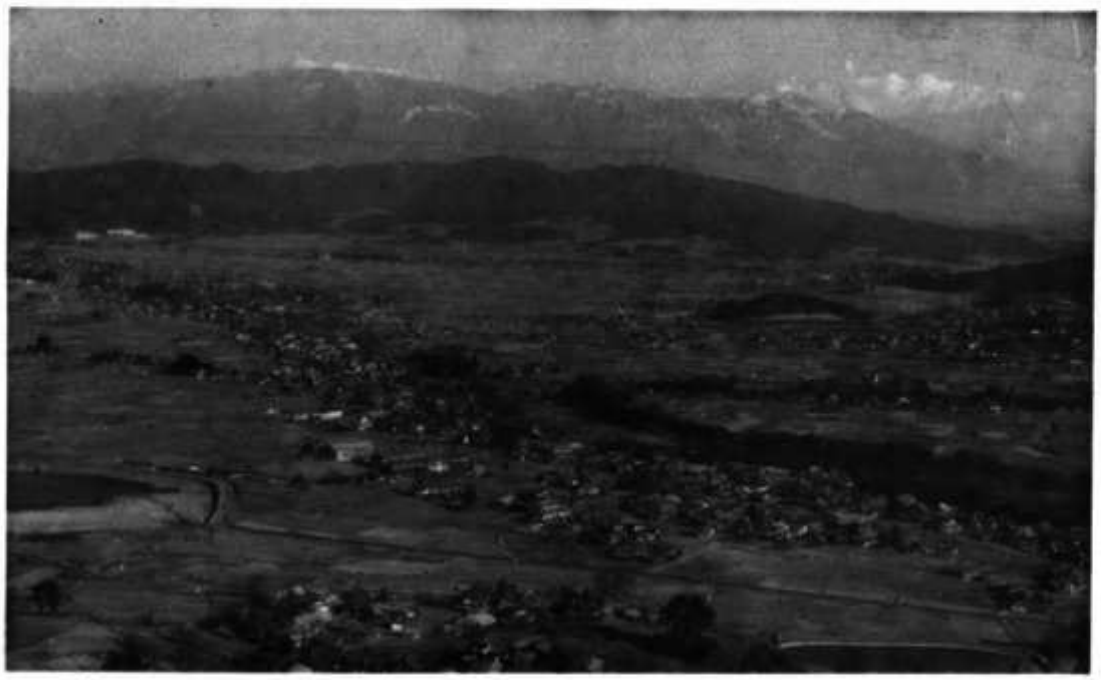
東西およそ２０Km、南北およそ１２Kmの上田市全域を、地下に眠る文化遺産を求めて現実に踏査してみると、その責務は必ずしも容易ではなかった。しかし、多くの皆さんの温いご協力によって、無事調査を完了し、ここに報告書を作成する運びとなったことを喜び、併せてこれらの多くの皆さんに、心から敬意と謝意を表する次第である。

（小　林　幹　男）



図版1　上田盆地北東部(川東平野)の景観と遺跡

（上）小牧から神川両岸の段丘面を望む（下）市街地と常磐城方面を望む



図版2　川西盆地の景観と遺跡

（上）野倉から塩田平・川西方面を望む（下）上田原付近を望む

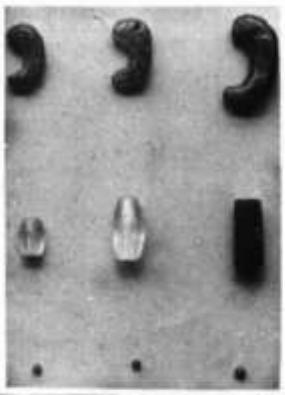
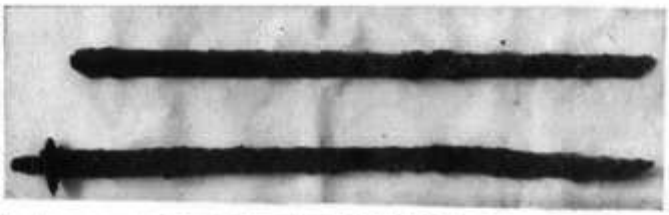
図版３　上右 塚穴古墳　上左 将軍塚古墳　中左 西町田遺跡土器出土状態

右下 信濃国分僧寺金堂発掘風景　下左 染屋焼不動の沢１号窯址

図版4　上 神宮寺古墳と円文

下 明神前遺跡出土土器

図版5　上 天神遺跡の住居址と土器(弥生)の出土状態
中右 天神遺跡の井戸跡　中左 同 土拡墓
下右 検田見遺跡出土土器　下左 枠木遺跡の住居址

図版6　上 他田塚古墳の石室と出土遺物(中上)

中･下 皇子塚古墳と出土遺物

I　上田市の遺跡

1.　上田市の地理的・歴史的環境

上田市は長野県の東北部に位し、東は東経１３８°２１′付近の殿城地籍を東端として、小県郡東部町、および丸子町に接し、西は東経１３８°０８′付近の上室賀地籍を西端として、東筑摩郡坂井村、および小県郡青木村に接している。そして、南は北緯３６°１８′付近の塩田地籍を南端として、小県郡丸子町に接し、北は北緯３６°２６′付近の東太郎山（標高１３００.７ｍ）を北端として、小県郡真田町、および埴科郡坂城町・更級郡上山田町などに接している。

行政区劃としての上田市は、１５８３（天正１１）年真田真幸の上田城築城によって形成された城下町を中心にして発達した上田藩が、１８７１（明治４）年の廃藩置県によって７月１４日に上田県となり、更に１１月２０日には長野県に合併され、その後、上田町が山口・房山両村を合併した上田町になった。そして、１８８９（明治２２）年には、常磐城村（１８７６年に西脇・生塚・鎌原・諏訪部・新町の５村を統合したもの）と常入村（同年に常田・踏入２村を統合したもの）が合併され、１９１９（大正８）年から全国で２７１番目、県下で３番目の市制を施行することになった。その後の上田市は、戦後になって、塩尻村・川辺村（１９５４年）、泉田村・神川村（１９５６年）、神科村（１９５７年）、豊殿村（１９５８年）などを合併し、更に１９７０年には塩田町と合併し、１９７３年４月には川西村とも合併して、東西およそ２０Km、南北およそ１２Km、面積１７６.４８Km²、人口１０２,２１０人（昭和４８.４.１現在）の一大田園都市に発展した。そして、いまや上田市の範囲は、上田盆地のほぼ全域に及ぶこととなった。(1)

上田盆地の平担部は、標高およそ５００ｍ以内（上田市市街地付近は標高４５５ｍ）のそら豆状の湖盆を形成し、千曲川の北岸には、塩尻の岩鼻から太郎山・虚空蔵山の南麓を通って、殿城山西南麓の瀬沢川に至るほぼ三角形の川東平野が広がっている。この平野は、神川の大扇状地面と千曲川に沿った段丘面、崖下の氾濫原、太郎山南麓の谷口に形成された扇状地からなり、遺跡は多く山麓の扇頂部と扇端部、あるいは河川に沿った段丘面と崖下の氾濫原に集中している。この遺跡の分布を時代別に概観すれば、縄文期の遺跡は、概して山地に近い扇状地の扇頂や扇端部に多く、しだいに河川沿いに下降して、弥生期の遺跡は、太郎山南麓の扇端部付近や神川沿いの段丘面、千曲川沿いの崖下の氾濫原、および第二段丘面上に形成された常入付近の微高地上などに多く認められる。そして、古墳時代から歴史時代の平安期末にかけては、灌漑技術の向上による生活面の拡大によって、低地から再び縄文期の遺跡とその周辺にまで、遺跡分布が広がり、密度も急速に大きくなっている。そして、その土師器や須恵器を伴なう遺跡群の周辺には、終末期

の群集墳が各地に点在している。こうした古代文化の発展と東方経営の必要性から国府が置かれ、国家権力による土地区画としての条里遺構がつくられ、東山道に面した南面の好所・国分の地に、鎮護国家の祈願をこめて、信濃国分寺、すなわち「金光明四天王護国之寺」（僧寺）と「法華滅罪之寺」（尼寺）が建立されたものであろう。

さて、眼を千曲川南岸に転ずれば、盆地の北西から西へ、城山（９３３ｍ）・三ツ頭山（923ｍ）・飯綱山（９３２.３ｍ）・子檀嶺岳（１,２２３.１ｍ）などの北部山地や、夫神岳（１,２５０ｍ）・女神岳（９２６ｍ）・大明神岳（１,２３２ｍ）などの西部山地が丘陵状に、あるいはピラミッドや帽子状に続いている。そして、南には富士山（１,０２９ｍ）・独鈷山（１,２６６ｍ）・富士岳（１,０３４ｍ）などの鋸歯状を呈する独鈷山脈が壮年期の荒々しい山脈を連ね、東には奇岩の景勝地「鴻の巣」や、松茸山で知られる東山・紅平山などの連なる丘陵性の小牧山塊が、上田盆地の中央に、島のようにそびえている。

これらの川西山地に四方を囲まれた盆地性の平野が、川東平野の対岸に広がる川西盆地である。この盆地は、川西丘陵によって、産川がつくった塩田平と、浦野川の育てた浦野平野に分けられ、再び下流の福田・築地地籍で結合し、東側の段丘上には上田原台地が広がり、下流の千曲川沿いには、帯状に続く広い氾濫原が展開する。

塩田平は、水源となる山地が浅い上に、降水量が年平均１,０００㎜程度と少ない[2]ため、１００にもおよぶ大小の溜池がつくられている。しかし、この盆地には、縄文期から弥生・古墳、歴史時代へと続く遺跡が濃密に分布し、遺跡数は縄文期６９・弥生９０・土師１４７・須恵１４１を数えることができる。また、盆地の北東に連なる小牧山塊、特に東山一帯には、この地方で最も規模の大きい群集墳が点在し、また、信濃国造他田氏に関する伝承が各地に残されている。中世の塩田は、「信州の鎌倉」とも呼ばれ、国宝安楽寺八角三重塔をはじめ、全国的にも知られた文化財が多い。

上田盆地は、千曲川とこれに注ぐ大小の河川によってはぐくまれ、川筋は文化の伝播の動脈となった。大屋地籍で千曲に注ぐ依田川は、和田峠から発した和田川と大門峠に発する大門川が合してつくられ、下流で武石川や内村川を合流し、依田窪の文化をはぐくみ、八ケ岳山麓や西日本の文化を上田盆地に伝えた。そして、和田峠や大門峠は、原始社会の鋭利な石器をつくった黒曜石の産地であり、また、旧石器時代の遺跡の多い高原でもある。

千曲川を少し下ると、国分寺の東方で神川が合流している。神川は菅平に源を発し、上小文化黎明の動脈であった。菅平の原始文化は、第４紀洪積世に属する後期旧石器時代のブレイド[3]文化にはじまり、北信濃から北陸を中心に発達した杉久保系文化と、東北地方を中心にする東山系文

化、関東・中部の茂呂系文化を摂取して発達した。そして、唐沢付近には、晩期の神子柴文化が導入され、縄文期の文化へと発展する。縄文期の文化は、既に草創期から認められ、早期には南関東系の撚糸文系文化と、東北系の沈線文系文化、西日本系の押型文系文化を受容して発達した。前期以後になると、縄文文化は上田盆地の各地に展開し、更に弥生期から古墳時代になると、川東平野と川西盆地に急速に発展して、信濃国分寺に代表される古代文化の華を咲かせるのである。

註1　長　野　県　「長野県政史」第1巻・別巻

　　長野県図書館協会　「長野県市町村変遷表・地名索引」などによる

註2　広瀬　幸男　「気候」（上田小県誌第4巻自然篇）上田小県誌刊行会

註3　菅平研究会　「菅平の古代文化」

2. 上田市の遺跡分布

(1) 旧石器時代の文化

岩宿遺跡（群馬県）が、昭和24年の調査によって、第4紀洪積世に属する旧石器文化のものであることが確認されて以来、北は北海道紋別郡オコッペから、南は鹿児島県の川内市付近まで、およそ500カ所以上の遺跡の分布が知られている。そして、最近ではわが国にも、大陸と同じように、下部旧石器時代の文化が存在するのではないかという問題も提起されている。しかし、わが国の旧石器文化は、確実な資料に関する限り、岩宿Ⅰ文化に代表される敲打器文化終末期からはじまり、刃器文化・尖頭器文化・細石器文化へと着実に発展する。

この文化の源流については、多くの学者によって論及されているが、各地域との文化的関連性が、周辺地域の調査資料の不足、製作技法の検討の不足等もあって明確にされていない。例えば、上部（後期）旧石器文化については、バイカル湖付近の調査が、かなりの程度に進んでいる反面、中国東北部や沿海州など、わが国との関連を知るうえに重要な地域の調査は遅れている。湧別技法の名で知られる北海道白滝の剝片石器の技法は、バダイ・ヴエルホレンスク段階に属するシベリアのアンガラ河流域の遺跡群の石器文化、カムチヤツカ半島のウシユキ遺跡、中国東北部の赤峰の紅山後や顧郷屯などの遺跡の石器文化と類似することが認められている。

この旧石器後・晩期の文化は、わが国の旧石器文化を代表し、北海道を中心にする白滝系文化、東北地方中心の東山系文化、北信濃から北陸を中心にする硬質頁岩製の素材に加工した石器・杉久保系文化、関東と東北・中部の一部に分布する茂呂系文化、瀬戸内沿岸のサヌカイトを材料とした国府系文化、九州の幾何学的細石器文化などのローカルカラーが認められる。

上小文化の峯明地・菅平は、この茂呂・東山・杉久保などの諸文化を受容して、後期旧石器文

化の華を開き、ヴュルム氷期の後半ごろには、新たに神子柴系文化を受容して発展したものと思われる。しかし、その時期の上田盆地とその周辺山麓には、旧石器文化の痕跡は認められていない。

(2) 縄文時代の文化

縄文文化の黎明は、長崎県の福井洞穴や愛媛県の上黒岩岩陰などから発見された細隆線文土器にはじまると考えられている。このわが国最古の土器文化は、伴出した木炭の C^{14} の測定値から、およそ1万2千年前にさかのぼるといわれる。この時期は、ヴィルムの第3亜氷期から、ようやく暖期にむかった直後のころで、海水面は今より少なくとも300mほど低く、日本列島はユーラシア大陸と陸続きであったといわれる。

そして、温帯化が更に進んだアトランテイック階程の縄文早期のころには、気温が現在より少なくとも2℃ほど高くなり、海水面も現海水面より10～15m上昇して、広範な海進現象が起り、海岸線は現在の内陸深くまで入り組んで、日本列島は大陸から断絶した孤島と急変した。

原日本人は、このような自然環境の急激な変化の中で、土器や石器に代表される道具を創造して発展した。縄文人は、形質人類学的に、三ケ日人や浜北人などの洪積世人類を祖型とするものと考えられているが、考古学的にも、晩期旧石器文化と考えられる神子柴系石器と縄文草創期の細隆線文系土器の伴出する遺跡の調査報告が続き、晩期旧石器から縄文文化、すなわち土器文化創生の様相を示唆している。この時期の文化も、上田盆地では認められないが、有舌尖頭器の製作技法等の類似から、菅平の向組A遺跡などで、その所在が推考されている。[1][2]

そして、これに続く縄文早期の文化は、南関東系の撚糸文系土器、中部地方から近畿・九州地方などの西日本に広く分布する押型文系土器、関東から東北地方に中心をもつ沈線文系土器などの地方色をつくりながら、縄文文化を確立してゆくのである。しかし、この時期の生活は、石鏃・石槍・石斧などの発達はみられるが、定住性のないキャンプ的狩猟・採集の経済段階であったものと考えられる。そして、この時期の後半ごろから、しだいに定住性をもち、ストーンサークル状の祭祀的集石遺構なども伴ってくることが、最近の調査によって明らかになってきた。この時期の終末期・茅山期には、一辺の長さが5mをこえる長方形の竪穴式住居址がつくられ、上田盆地にも、上室賀の谷鬼・別所の塩水などに、縄文文化の足跡が認められるようになる。

前期に入ると、谷鬼や中塩田の神戸などの有尾期にはじまり、南大原期の北浦（別所）、塚原・中島（上田原）、上原期の宮原（秋和）・和合、下島期の塚原・中島、城山（矢沢）と、山麓の台地や河川沿いの台地などに、急速な広がりと発達を示し、縄文中期の華麗な文化の開花期へ

と展開する。前期の文化は、東北・北海道に分布する円筒深鉢型土器、関東から中部にわたる羽状縄文系や半截竹管文系土器、西日本の半截竹管文系土器、九州の沈線文あるいは条痕文系土器などの地方色と共に、長方形や楕円形竪穴式住居址の発達、竪穴住居址群の出現（上伊那郡宮田村中越遺跡）、土器形態のセット化が進行してくる。

この傾向は、中期になると一層明確になるが、同時に関東地方西南部から八ケ岳山麓に広がる勝坂式土器の文化圏から、蛇のモチーフの把手をもつ土器の出現、狩猟的石器（石鏃・石槍など）の減少と打製石斧や石皿、土偶・大形石棒などの増加、環状集落の発達など、前期とはかなり異質的な文化の様相が認められ、これらを理由に縄文中期原初農耕説なども唱えられているが、解明する段階には至っていない。この時期の遺跡は、扇状地の扇頂（大日ノ木・常盤城）扇端（小井田・下大郷）谷口（石矢・氷沢・下半過山）河川沿いの台地（漆戸・中村・浦沖・風呂川・神戸・上田原・諏訪畑・手塚・前山）など、上田盆地のほぼ全域にわたり、遺物も豊富で規模の大きいものが多くなっている。

しかし、後期になると、土器文様の退化に象徴される衰退が認められ、扇頂（常盤城）や河川沿いの台地（浦沖・日向小泉・神戸・梨ノ木）に点在するが、遺跡数も減少し、西日本では、既にこのころから、原初的農耕文化への移行が明らかにされつつある。

晩期の縄文文化は、東北を中心に東日本に分布する入念な彫刻文や朱漆で飾られた亀ケ岡系土器と、わずかに口縁部付近に刻目をつけ、一本の突帯をめぐらす簡素な西日本の突帯文系土器の二文化圏に対比されるが、関東の安行系文化、東海の条痕文系文化も、それぞれの地方色を内包して息づいている。上田盆地のこの時期の文化は、まだ十分調査されていないので、わずかに下郷の神林に、その所在を確認したのみである。

註1　鈴木尚　「浜北人骨の形質」　人類学雑誌第74巻第3・4号（1966）

註2　川上元　「菅平の縄文式時代文化」　菅平の古代文化　（1970）

(3) 彌生時代の文化

彌生文化は、金属器を伴う稲作農耕文化である。この文化は、北九州にはじまり、たちまちにして、中部地方の西縁にまで発展した。すなわち、前期の彌生文化は、古く中山平次郎博士によって注目された「遠賀川式土器」に代表されるもので、板付式土器が最も古い形式とされている。この土器の分布は、福岡・長崎・佐賀・熊本県北部・山口県西部・宮崎県中部など、およそ北九州を中心にした地域で、その他の地方からは、ほとんど発見されていない。畿内地方への発展は、立屋敷式のころにはじまり、唐古遺跡に代表される土器文化をつくり、そして前期後半の下伊田

式の時期には、伊勢湾付近にまで進出して、東日本文化圏との境界に接している。

そして弥生時代中期のころに、伊勢湾沿岸地方を越えて、しだいに東方へと文化圏を拡大したが、南関東から東北地方にかけては、土器文化の手法に、色濃く縄文的手法を残している。この縄文的手法を残す弥生式土器も、後期に向かうに従って、しだいに装飾的要素を失い、地方色も薄れて、全国的に画一化の方向をたどり、次の土師器・古墳文化へと発展してゆく。上田盆地へ弥生文化が展開するのは、この後期の初頭ころと考えられる。

弥生時代中期の北九州を中心にする地方では、地方的な政治権力の形成・組織化が進み、部落国家の誕生・地方的小国家の形成が行われ、その支配権力の墳墓と考えられるカメ棺には、朝鮮半島から輸入された細形銅剣・銅鉾・銅戈、中国から舶載された白銅鏡やガラス製品が副葬されている。

その後、この銅利器は、しだいに広形となって実用性を失い、祭祀的要素を強めて、支配的権力のシンボルとなっていくものと考えられる。反面、銅利器にかわる鉄器の発達と普及が、中期の後半ごろから急速に進み、地方的政治権力の統合を推進する役割を果した。かくして、北九州を中心にする銅鉾・銅戈、畿内を中心にする銅鐸、瀬戸内沿岸を中心にする銅剣などの祭祀的文化圏を形成する。もちろん、この文化圏が、政治的権力を投影するものであろうことは、十分伺えるところである。そして、この文化圏は、畿内の政治権力によって、究極的には統一されるが、この間３Ｃから４Ｃ初頭にかけて、畿内の政治権力に大きな変化のあったことが推考される。すなわち、国土の統一段階で畿内に登場するのは、従来の銅鐸祭祀に象徴される政治権力ではなく、北九州、あるいは瀬戸内の銅剣・銅鉾・銅戈の祭祀に象徴される政治権力が、畿内に進出したものと思われる。いわゆる邪馬台国論争も、この史的背景のもとで推考しなければならないだろう。

信濃における弥生文化は、中期ごろに伝播し、天龍川や千曲川などの河川に面した微高地上に集落を営み、低湿田で農耕をはじめたと考えられるが、遺構は確認されていない。

弥生文化は、後期に入ると飛躍的に発展して、従来の低湿田から半乾田へ、更に灌漑技術の進歩によって乾田へと、農耕地は急激に拡大し、分村が行われ、支配権力の成長と統合が進められた。中期の文化は、現在のところ上田盆地では明らかでない。しかし、後期の遺跡は、縄文早期の茅山期以後、全時期の遺跡数が、１５８個所であるのに比して、１８１個所と多く、わずか２００年前後の年代に比定される遺跡数とすれば、まさに驚異的数である。その分布の中心は、神川沿いの下郷・塩戸・林之郷・蒼久保、西岸の上野、古里、千曲川に面した国分・常入・御所・上田原と産川流域の手塚・新町・十人・前山・上本郷・五加・古安曾などの塩田平である。この文化は、ほとんど後期の箱清水期に属し、土器形式や施文技法から、更に今後の細分・編年が

可能のように思われる。

(4) 古墳時代の文化

古墳時代は、弥生時代に継続した、高塚式墳墓に象徴される、３Ｃ末ないしは４Ｃのはじめごろから７Ｃにわたる時代である。古墳の発生については、従来墓制という側面と、豪族の発生という社会構造上の側面からのアプローチがみられる。しかし、本来これらは有機的に考察すべきものと思われる。

初期古墳は、統一的政治権力の発生と関連しながら、畿内および吉備地方に出現し、民衆墓とは隔絶した支配階級の墳墓として形成される。しかし、後期古墳になると、被葬者には、支配階級の首長や豪族のほかに、農民や海人・手工業工人などの一部が含まれてくる。これは社会構造の変化に伴って、送葬イデオロギーにも変化を生じ、被支配階級の墓制に浸透したものである。この時期の墳墓は、小円墳が群集し、古墳群を形成する場合が多い。しかし、７Ｃに入ると、仏教思想が招来した火葬の出現が、しだいに古墳に象徴される古代墓制に一大転期をもたらし、古墳の消滅へとむかわせる。

信濃の古墳は、５Ｃごろ善光寺平に出現した更埴市森将軍塚・土口将軍塚・長野市川柳将軍塚が最古のものである。これらは山頂に築かれた前方後円墳で、沖積平野に広がる支配地を眺望する位置に造営された国造的豪族の墳墓と考えられる。

上田盆地の古墳は、これに続く６Ｃごろに出現する。秋葉裏の二子塚、秋和の大蔵京古墳が、この時期のものである。新町の王子塚は、ほぼ同期のものと考えられるが、もし、報告書のごとく帆立貝式前方後円墳[1]とすれば、形態上の編年から、やや疑問点が残る。いわゆる前方部と推定される地積の精査が望まれる。その他の古墳は、およそ後期のⅡ期に属するもので、大部分は７Ｃ初頃ごろから後半にかけて築造された円墳である。

石室の内部構造からみれば、塩田平に袖無型横穴式石室、その他の地域に片袖のやや狭くなった両袖型横穴式石室か、あるいは片袖を全く失って、玄門部の側壁石積を一部せり出させて、両袖型にみせかけるものや片袖型横穴式石室が分布している。更に袖無型の石室は、奥壁幅対全長の比が１：６前後の狭長型と、１：３前後の箱形の短幅な形式があり、前者は側壁と奥壁が、上上に向うに従って、しだいに持ち出して縮約する古い形式を示し、およそ７Ｃ初頃ごろの築造と考えられる。また、後者は７Ｃの中ごろから後半にわたるものと推定される。

上田盆地の古墳の分布は、佐久および善光寺平に比して、少ないといわれてきた。しかし、今回の調査で確認されたもの１９９基（２１１基のうち１２基は、修験塚・供養塚等と推定される）

と、「小県郡史」などに記載されていて、既に所在が確認できないものおよそ２０数基を加えれば、決して少ない数とはいえない。

古墳の分布は、前述３基を最古として、７０の群集墳が多く、殿城の赤坂・矢沢・氷沢・下郷、上野の新屋、秋和、諏訪形、上田原の塚原、小泉の半過・日向小泉、下之郷の東山・蚕雀地籍に群集墳が分布している。

古墳時代の遺跡は、これらの古墳の前面や、周辺に濃密に分布し、歴史時代のものを加えれば、土師器を出土する遺跡が３３６個所、須恵器を出土する遺跡が２６１個所である。これらの遺跡は、河川沿いの台地や微高地、扇状地・谷口・山麓などにかなり濃密に分布し、低地から再び高地への進出が認められる。

註１　滝沢武登他　「王子塚」　上田市指定文化財調査報告書７

(5)　歴史時代の文化

中央集権的律令体制は、大化の改新（６４５）を出発点として、唐制に学びながら、大宝律令の制定（７０１）によって、法制的にはほぼ完成した。土師器の編年で晩期Ⅰ（関東編年の真間式）というのは、およそこの時期から、平安遷都（７９４）の前後ごろまでである。

このころ、上田盆地の一角には、信濃国府が置かれ、天平１３（７４１）年の国分寺創建の発願によって、国分に信濃国分寺、すなわち、金光明四天王護国之寺（僧寺）と法華滅罪之寺（尼寺）の二寺が、槌音高く建立された。創建の時期は詳かでないが、数次にわたる発掘調査の結果、およそ奈良時代末葉ごろまでには、ほぼ完成したものと考えられている。この信濃国分寺跡は、多くの人びとの努力によって、ほぼ伽藍の配置と規模が解明され、史蹟公園として永く保存されることになった。

反面、国分寺の解明によって、当然付近にあるものと考えられる国府の位置が、今後の研究の大きな課題となった。およそ国府は、古代信濃における政治・文化の中心であり、信濃国と越・東北の蝦夷との位置関係を考えれば、軍事的にも非常に重要な意義をもつものである。国府の設定地については、一般的に大化前代における文化・政治の中心地であり、経済的にも豊熟な生産の場であり、水陸交通の要衝・あるいは結節点であったといわれている。(1) このことは、前述の軍事的意義とともに、千曲川・神川・産川や浦野川などに沿った地域の濃密な遺跡の分布によっても説明される。

そして、律令体制の下では、農民が班田制によって、口分田を収授されたが、そのための条里制は、まず国府周辺の地から着手され、しだいに縁辺に及ぼそうとしたことは、容易に想像され

る。条理遺構は、神科・上田・常磐城・御所などにみられるとして、現在朝査が進められている。

第1図　西町田遺跡の土器出土状態（土師）

律令体制下の地方行政区画には、国郡里の制度が採用された。　しかし、当時の郡里は、史料の散失によって詳らかではない。従って、一般的には平安時代前期ごろの郡郷名を載せた「和名類聚抄」が利用されている。「和名抄」によると、信濃国には、水内・高井・更級・埴科・小県・佐久・安曇・筑摩・諏訪・伊那の10郡が置かれていた。大化の改新により、各郡には郡家が設けられ、国造らの在地土豪が、世襲的に郡司に任ぜられている。この小県郡家の位置も、いまのところ解明されていない。

「倭名抄」[(2)]には、この小県郡に、童女・山家・須波・跡部・安宗・福田・海部・余戸の8郷が記され、「日本霊異記」にも、宝亀4年に、跡目里・嬢里などの里名が載っている。

このうち須波郷は、諏訪部・諏訪形などを中心にする地域と考えられ、現在の常磐城・秋和・対岸の御所・上田原地籍にわたって、大化前代からおよそ晩期Ⅱの平安時代におよぶ遺跡が、かなり濃密に分布している。そして、常磐城の唐臼には、塔心礎ともいわれる礎石があり、瓦塔・布目瓦・晩期Ⅱの土師器・須恵器などが出土している。この地籍は、古代寺院跡、古代東山道の亘理の駅跡などとも推考される重要な遺跡である。

福田郷は、地名から推定して、福田・小泉あたりを中心にする地域と考えられる。この地籍と宮島・築地・吉田には、土師後・晩期の遺跡が多く、塩田の小島・保野、すなわち湯川沿いと北岸の遺跡も、この郷に関係するのではあるまいか。

浦野は古代東山道の駅家が置かれ、遺跡の分布から、浦野・当郷、あるいは青木を含めて1郷と考えられよう。

安宗郷は、古安曽・安曽本郷などから、古安曽・五加・本郷地籍を中心に、富士山・前山、更に、西塩田の大部分を含む地域が考えられる。この地は国造他田氏が、阿蘇氏一族ということから関連させて、伝承・諸説が多く、古代史研究の上に重要な地域である。

この他、山家郷は現真田町地域に比定されるが、殿城・豊里地籍の遺跡がどこに比定されるか。常入地籍の彌生後期から土師晩期にわたる豊富な遺物を包含する遺跡の問題。国分付近の遺跡など、文献史学との関連で、上田盆地の古代史研究には、幾多の問題が残されている。

註1　藤岡謙二郎　「国府」　日本歴史叢書25　　吉川弘文館

註2　池辺　　彌　「和名類聚抄郷名考証」増訂版　吉川弘文館

3. 土器編年表

絶対年代	文化階程		C'⁴測定年代	関東	信濃	上田
A.D. 800	歴史時代	晩期 II		国分	+	明神前 堂浦
		晩期 I		真間	+	各地
700	古墳時代	後期		鬼高 II I	+ +	才光坊 各地
500		中期		和泉	+	西町田
400		前期		五領 II I	+ +	才光坊 仁王堂
300	弥生時代	後期		前野町 II 弥生町 I 久ケ原	柳町 箱清水	枠木・各地 堀ノ内
100		中期		宮ノ台 (II 小田原 I 須和田	百瀬 聚林 庄ノ畑	
B.C. 100		晩期	640 ±150	千網 + 安行 III {c b a	氷+ 佐野	神林
1,000		後期	1122 ±180 1680 ±90 1830 ±150	安行 I・II 加曾利B {III II I 堀之内 {III II I	+ + + + + 大安寺	浦沖・各地 浦沖 梁ノ木
2000						

	縄文時代	中期	2563 ±300	加曾利E {Ⅲ Ⅱ Ⅰ 阿玉台・勝坂 五領ヶ台	加曾利E Ⅲ Ⅱ Ⅰ 阿玉台・勝坂 梨久保	松ノ木 大木・思川 石矢・立石
3,000 4,000 5,000		前期	3150 ±400	十三菅提 諸磯 {C B A 黒浜 関山 花積下層	下ヶ峯 下島 上原 南大原 有尾 神ノ木 ＋	塚原・城山 宮原 北浦・塚原 谷鬼・神戸
6,000 7,000 8,000		早期	5750 ±200 6443 ±350 7290 ±500	茅山 子母口 田戸 {上層 下層 三戸 平坂 大浦山 稲荷台 夏島 井草・大丸	＋ ＋ ＋ 細久保 ＋ 押型文 ＋ ＋ ＋ ＋	谷鬼・塩水
9,000 10,000		草創期		押圧・縄文 爪形文 隆線文	曾根 稲取 柳又 B Ⅱ 矢出川	
	旧石器時代			茂呂 岩宿 権現山Ⅰ	杉久保	

4. 上田市遺跡地名表

A 遺　跡

(1) 殿城・豊里地区

遺跡番号	信濃史料遺跡番号	遺跡名	遺物	所在地	価値
101	811	小玉原	㊀打石鏃㊁磨石鏃	殿城字小玉原	B
102		塚穴	㊉晩期㊂後期	〃 塚穴	B
103		山越	㊉晩期㊂後期	〃 山越	B
104	812	日向	㊀加曾利E式㊁箱清水式㊉前～晩期㊂後期	〃 日向	B
105		上組	㊉中・後期㊂後期	〃 上組	B
106		日影	㊉後期	〃 日影	B
107	813	十貫	㊀中期？	〃 十貫	B
108		山崎	㊉晩期㊂後期	〃 山崎	B
109	815	石矢	㊀勝坂式・加曾利E式 ㊁箱清水式㊉後・晩期㊂後期	〃 石矢 〃	B
110		托田	㊀加曾利E式㊉後期	〃 托田	B
111	816	北屋敷	㊀加曾利E式㊉前・中期	〃 北屋敷	B
112	817	下左口	㊀石鏃	〃 下左口	B
113	818	城山	㊃下島式	〃 城山	B
114		上組	㊂後期	〃 上組	B
115		宿組	㊉後・晩期㊂後期	〃 宿組	B
116		平沢	㊉後期㊂後期	〃 平沢	B
117		石坪	㊁箱清水式	〃 石坪	B
118		下樋口	㊉後期㊂後期	〃 下樋口	B
119	819	岩清水	㊀石鏃	〃 岩清水	B
120	820	氷沢	㊀加曾利E式㊉後期	〃 氷沢	B
121	821	中村	㊁箱清水式㊉後期	〃 中村	B
122	822	神林	㊀佐野式㊂箱清水式㊉後・晩期㊂後期	〃 神林	B
123		長沢	㊁箱清水式㊉後・晩期㊂後期	〃 長沢	B
124		法楽寺	㊃磨石斧㊉後期㊂後期	〃 法楽寺	B

125		北ノ平	㊥後期	漆戸字北ノ平	B
126	824	堂下	㊦加曾利E式・堀之内式㊨箱清水式㊥後期	〃 堂下	B
127	825	ヤチ原	㊦磨石斧・石棒	〃 ヤチ原	B
128		西ノ平	㊦箱清水式	〃 西ノ平	B
129		茅御堂	㊦箱清水式	〃 茅御堂	B
130	827	境田	㊦打石斧㊨箱清水式	林之郷字境田	B
131		貝戸	㊥後・晩期㊩後期	〃 貝戸	B
132	828	池田	㊨箱清水式㊥前～晩期㊩後期	〃 池田	B
133		太田	㊥後・晩期㊩後期	〃 太田	B
134	830	狐塚	㊦石鏃㊨箱清水式	〃 狐塚	B
135	826	松ノ木	㊦石鏃㊥後・晩期	〃 松ノ木	B
136		下ノ畑	㊨箱清水式	〃 下ノ畑	B
137	831	木ノ上	㊦勝坂式㊨箱清水式㊥後期	芳田字木ノ上	B
138	832	大木	㊦勝坂式・加曾利E式・堀之内式 ㊨箱清水式㊥後期㊩後期	〃 大木	B
139	833	大日ノ木	㊥中期	〃 大日ノ木	B
140	834	長入	㊦石鏃	〃 長入	B
141	835	井戸田	㊦加曾利E式㊨箱清水式㊥中～晩期㊩後期	〃 井戸田	B
142	838	尾無	㊦加曾利E式㊥後期	〃 尾無	B
143	836	北沖	㊦石鏃	〃 北沖	B
144	837	戎田	㊥後期	〃 戎田	B
145		横石	㊥後期	〃 横石	B
146		南裏	㊦中期㊥後期㊩後期	〃 南裏	B
147		前田	㊥後期㊩後期	〃 前田	B
148		日向畑	㊥後・晩期㊩後期	〃 日向畑	B
149		下宿	㊥後期㊩後期	〃 下宿	B
150		荒神田	㊥後期㊩後期	〃 荒神田	B
151		治郎淵	㊦勝坂式㊨箱清水式㊥後・晩期㊩後期	〃 治郎淵	B
152	839	無量寺	㊦加曾利E式㊨箱清水式㊥前～晩期㊩後期	〃 無量寺	B
153		今井	㊥後・晩期㊩後期	〃 今井	B

154		訳口上	㊦後期㊧後期	芳田字訳口上	B

(2) 神科・神川地区

201	841	内小屋	㊧石鏃㊦後期	伊勢山字内小屋	B
202	840	上野東	㊧石鏃	〃 上野東	B
203		蔵王	㊧石鏃・打石斧	住吉字蔵王	B
204	844	上テ村	㊨箱清水式㊧後期	〃 上テ村	B
205	843	入詰	㊧石鏃	〃 入詰	B
206	842	中道	㊧石鏃㊨箱清水式㊦晩期	〃 中道	B
207	845	熱泰寺	㊧石錐	〃 熱泰寺	B
208	849	矢花	㊨箱清水式㊦後・晩期㊧後期	上野字矢花	B
209	850	篠井久保	㊨箱清水式㊦後期	古里字篠井久保	B
210	851	神ノ嶽	㊦後・晩期㊧後期	〃 神ノ嶽	B
211		掛ノ宮	㊧加曾利E式㊦前・中期	〃 掛ノ宮	B
212		社宮	㊦後期㊧後期	〃 社宮	B
213		東ノ手	㊦後・晩期㊧後期	〃 東ノ手	B
214	852	西ノ手	㊨箱清水式㊦中・晩期㊧後期	〃 西ノ手	B
215		篠井原	㊦後・晩期㊧後期	〃 篠井原	B
216		富士見台	㊧加曾利E式㊦後・晩期㊧後期	〃 富士見台	B
217		松ノ木	㊧加曾利E式㊨箱清水式 ㊦後・晩期㊧後期・中世	〃 松ノ木 〃	B
218	853	英	㊧石鏃㊦後期㊧後期	〃 英	B
219		愛染	㊨箱清水式㊦後期㊧後期	〃 愛染	B
220	855	中村Ⅰ	㊧加曾利E式・加曾利B式	蒼久保字中村Ⅰ	B
221	854	中村Ⅱ	㊨箱清水式	〃 中村Ⅱ	B
222		村前	㊧加曾利E式	〃 村前	B
223	856	イナゴ坂	㊧石鏃	大屋字イナゴ坂	B
224		上沢沖	㊨箱清水式㊦後・晩期㊧後期	国分字上沢沖	B
225	857	滝沖	㊧加曾利E式・堀之内式・加曾利B式 ㊨箱清水式㊦後・晩期㊧後期	〃 滝沖	B

226		前　田	㊃加曾利E式	国分字前田	B
227		大　沢	㊂箱清水式㊉後期	〃　大沢	B
228		古　城	㊉後期	〃　古城	B
229		堂　浦	㊉後・晩期㊂後期	〃　堂浦	B
230		屋　敷	㊉後・晩期㊂後期	〃　屋敷	B
231		仁王堂	㊂箱清水式㊉前～晩期㊂後期	〃　仁王堂	B
232	858	明神前	㊉晩期㊂後期	〃　明神前	B
233	859	堀	㊂箱清水式㊉後期	〃　堀	B
234		西　沖	㊂箱清水式㊉後・晩期㊂後期	〃　西沖	B
235	860	堂　西	㊃石棒㊂箱清水式㊉後期㊂後期	〃　堂西	B
236	861	赤　塚	㊂箱清水式㊉前～後期	〃　赤塚	B

(3)　上田・塩尻地区

301	846	金井裏	㊂箱清水式㊂後期	上田字金井裏	B
302	847	東奥山原	㊂箱清水式㊉後・晩期	〃　東奥山原	B
303		饗　原	㊂箱清水式㊉後期	〃　饗原	B
304	848	桜　林	㊂箱清水式	〃　桜林	B
305		西　丘	㊉後期	〃　西丘	B
306	1298	雹　田	㊂箱清水式	〃　雹田	B
307	1299	雁　掘	㊂箱清水式㊉中期	〃　雁掘	B
308		秋葉裏	㊉中期	〃　秋葉裏	B
309		大星西	㊃加曾利E式	〃　大星西	B
310	1300	思　川	㊃加曾利E式・堀之内式・加曾利B式	〃　思川	B
311	1300	大星前	㊃加曾利E式	〃　大星前	B
312	1300	海禅寺裏	㊃加曾利E式・堀之内式㊂箱清水式㊉中期	〃　海禅寺裏	B
313	1300	新　田	㊉中・後期	〃　新田	B
314	1300	道祖神	㊃加曾利E式㊉中期	〃　道祖神	B
315	1300	八幡東	㊉中・後期	〃　八幡東	B
316	1300	八幡裏	㊉中・後期	〃　八幡裏	B

317	1302	日蔭田	㊀磨石斧	上田字日蔭田	B
318		下房山	㊂箱清水式	〃 下房山	B
319	1303	海野	㊉晩期	〃 海野	B
320		鎌原	㊂箱清水式	〃 鎌原	B
321		中常田	㊂箱清水式㊉後・晩期	常入字中常田	B
322		堀ノ内	㊂箱清水式	〃 堀ノ内	B
323		上町田	㊂箱清水式㊉前～晩期㊁後期	〃 上町田	B
324	1301	西町田	㊂箱清水式㊉前～晩期㊁後期	〃 西町田	B
325	1301	下町田	㊂箱清水式㊉後・晩期㊁後期	〃 下町田	B
326		中村	㊂箱清水式㊉後・晩期㊁後期	〃 中村	B
327	1301	手筒山	㊂箱清水式㊉後・晩期㊁後期	〃 手筒山	B
328	1301	東町田	㊂箱清水式㊉後・晩期㊁後期	〃 東町田	B
329	1301	藤ノ森	㊂箱清水式㊉後・晩期㊁後期	〃 藤ノ森	B
330		上平	㊂箱清水式㊉後・晩期㊁後期	常磐城字上平	B
331		横畑	㊉中・後期	〃 横畑	B
332		仁王田	㊉中・後期	〃 仁王田	B
333		殿田	㊉中・後期	〃 殿田	B
334		七反田	㊉中・後期	〃 七反田	B
335		堂平	㊁後期	秋和字堂平	B
336		寺山	㊉中・後期	〃 寺山	B
337		亀田	㊉中・後期	〃 亀田	B
338		山道	㊉後・晩期㊁後期	〃 山道	B
339		大明神	㊉中・後期	〃 大明神	B
340		堂屋敷	㊉中・後期・中世	〃 堂屋敷	B
341		唐臼	㊉後・晩期㊁後期	常磐城字唐臼	B
342		甲彌陀平	㊉後・晩期	秋和字甲彌陀平	B
343	1293	六句	㊀石鏃㊉後・晩期	〃 六句	B
344	1294	風呂川	㊀勝坂式・加曾利E式 ㊂箱清水式㊉後・晩期㊁後期	〃 風呂川	B
345	1295	宮原	㊀上原式㊂箱清水式㊉後・晩期㊁後期	〃 宮原	B
346	1296	姥石	㊉前～晩期㊁前～後期・中世	〃 姥石	B

347		彌勒堂	㊥後期	上塩尻彌勒堂	B
348		越畑	㊦後・晩期	〃 越畑	B
349		広見	㊦中・後期	〃 広見	B

(4) 城下・川辺地区

401		六句	㊦後期	小牧字六句	B
402		高町	㊦後期	諏訪形字高町	B
403		中沢	㊦中～晩期㊥後期	〃 中沢	B
404		木ノ下	㊦中～晩期㊥後期	御所字木ノ下	B
405		横堰	㊦中～晩期㊥後期	〃 横堰	B
406	1297	東町	㊦中～晩期㊥後期	中之条字東町	B
407	1297	西町	㊦中～晩期㊥後期	〃 西町	B
408		宮方	㊦中～晩期㊥後期	〃 宮方	B
409		上前田	㊦中～晩期㊥後期	〃 上前田	B
410	1297	中前田	㊦中～晩期㊥後期	〃 中前田	B
411		下前田	㊦中～晩期㊥後期	〃 下前田	B
412		西前田	㊦中～晩期㊥後期	〃 西前田	B
413		関石	㊦中～晩期㊥後期	〃 関石	B
414		額面	㊦中～晩期㊥後期	〃 額面	B
415	1297	柳堂	㊥箱清水式㊦前～晩期	〃 柳堂	B
416	1297	六工	㊦前～晩期	〃 六工	B
417	1297	金敷田	㊥箱清水式㊦前～晩期	〃 金敷田	B
418	1297	大畑	㊥箱清水式㊦前～晩期	〃 大畑	B
419	1297	三反田	㊥箱清水式㊦前～晩期	〃 三反田	B
420	1297	緑川	㊥箱清水式	〃 緑川	B
421	1297	天神堂	㊥箱清水式	〃 天神堂	B
422	1306	赤坂	㊥箱清水式	上田原字赤坂	B
423	1306	殿海道	㊥箱清水式㊦後・晩期	〃 殿海道	B
424	1306	塚田	㊦後・晩期㊥後期	〃 塚田	B

425	1306	丁　田	㊉後・晩期㊂後期	上田原字丁田	B
426	1306	中　島	㊁南大原式・下島式・勝坂式・加曾利E式 ㊃箱清水式㊉後・晩期㊂後期	〃　中島	B
427		前　田	㊉後・晩期㊂後期	〃　前田	B
428	1306	塚　原	㊁南大原式・下島式・勝坂式・加曾利E式 ㊉後・晩期㊂後期	〃　塚原	B
429	1306	本　町	㊉後・晩期㊂後期	〃　本町	B
430	1306	宮　本	㊁勝坂式・加曾利E式㊉後・晩期㊂後期	〃　宮本	B
431		堀之内	㊉後・晩期㊂後期	築地字堀之内	B
432	1307	浦　田	㊁勝坂式・加曾利E式 ㊃箱清水式㊉後・晩期㊂後期	〃　浦田	B
433		蔵之台	㊃箱清水式　㊉後・晩期	〃　蔵之台	B
434	1307	屋　敷	㊁勝坂式・加曾利E式 ㊃箱清水式㊉後・晩期㊂後期	〃　屋敷	B
435		西　沖	㊉後期㊂後期	〃　西沖	B
436	1307	鵜籠田	㊁加曾利E式	〃　鵜籠田	B
437	1307	箕　輪	㊁加曾利E式㊃箱清水式㊉後期㊂後期	〃　箕輪	B
438	1308	向　村	㊉前・中期	神畑字向村	B
439	1309	堀　切	㊉後・晩期㊂後期	〃　堀切	B
440	1310	惣　明	㊁勝坂式㊃箱清水式	〃　惣明	B
441		宮　脇	㊃箱清水式㊉前～晩期㊂後期	宮島字宮脇	B
442	1007	宮　島	㊀打石斧㊃箱清水式㊉前～晩期㊂後期	〃　宮島	B
443		下　田	㊉前～晩期㊂後期	福田字下田	B
444		反　田	㊉前～晩期㊂後期	〃　反田	B
445	1008	迎湯川	㊉前～晩期㊂後期	〃　迎湯川	B
446		東　村	㊉前～晩期㊂後期	〃　東村	B
447		新　屋	㊉前～晩期㊂後期	〃　新屋	B
448	1009	原　田	㊃箱清水式㊉前～晩㊂後期	吉田字原田	B
449		中　村	㊉前～晩期㊂後期	福田字中村	B

(5) 泉田・室賀・浦里地区

501		下半過山	㊁加曾利E式	小泉字下半過山	B
502	988	清水下	㊁加曾利E式㊂箱清水式㊃後期㊄後期	〃 清水下	B
503	989	矢坂	㊃後期㊄後期	〃 矢坂	B
504		中ノ沢	㊃後期㊄後期	〃 中ノ沢	B
505		滝ノ沢	㊃後期㊄後期	〃 滝ノ沢	B
506		駒場	㊃後期㊄後期	〃 駒場	B
507	1305	古屋敷	㊃前・中期	下之条字古屋敷	B
508	1001	八幡山	㊂箱清水式㊃後・晩期㊄後期	小泉字八幡山	B
509		早稲田	㊂箱清水式	〃 早稲田	B
510	995	飯縄山	㊀石鏃	〃 飯縄山	B
511		宮ノ入	㊀打石斧㊄後期	〃 宮ノ入	B
512		寺住平	㊁加曾利E式㊂箱清水式㊃後期㊄後期	〃 寺住平	B
513	994	蛇川原入	㊀打石斧	〃 蛇川原入	B
514	1002	朝日山	㊀打石斧㊃後期	〃 朝日山	B
515	999	東寺畑	㊂箱清水式㊃中・後期	〃 東寺畑	B
516	998	西寺畑	㊂箱清水式㊃中・後期	〃 西寺畑	B
517		西ノ入	中世	〃 西ノ入	B
518		東村	㊀石鏃㊃後・晩期	〃 東村	B
519	996	中村	㊀石鏃	〃 中村	B
520	992	西村	㊀打石斧㊃後・晩期	〃 西村	B
521	991	横道下	㊁堀之内式㊂箱清水式	〃 横道下	B
522	993	旗鉾	㊀石鏃・磨石斧㊂箱清水式㊃前～晩期㊄後期	〃 旗鉾	B
523	1003	鍛冶山	㊀磨石斧㊃中・後期	〃 鍛冶山	B
524	1004	和合	㊀上原式㊂箱清水式㊃前～晩期㊄後期	〃 和合	B
525		皮麦田	㊂箱清水式㊃前～晩期㊄後期	〃 皮麦田	B
526	997	琵琶塚	㊂箱清水式㊃前～晩期㊄後期	〃 琵琶塚	B
527		町裏	㊂箱清水式㊃前～晩期㊄後期	〃 町裏	B
528		桜町	㊄後期	〃 桜町	B
529		藤ノ木	㊃後・晩期㊄後期	〃 藤ノ木	B

530		中田	㊈箱清水式	小泉字中田	B
531	1000	高田	㊈加曾利E式㊉箱清水式㊉後・晩期㊊後期	〃 高田	B
532	1006	長谷田	㊉箱清水式	〃 長谷田	B
533	1010	岳之里	㊉前～後期㊊後期	上室賀字岳之里	B
534		岳之鼻	㊈石鏃㊉中期	〃 岳之鼻	B
535		岳之本	㊉前～晩期	〃 岳之本	B
536	1011	樋之詰	㊉後期	〃 樋之詰	B
537	1013	神宮寺	㊈石鏃㊉後期	〃 神宮寺	B
538	1012	寺前	㊈勝坂式・加曾利E式㊉中期㊊後期	〃 寺前	B
539		押切前	㊉後・晩期㊊後期	〃 押切前	B
540	1014	日影	㊈石棒	〃 日影	B
541	1015	原	㊉前～後期㊊前期	下室賀字原	B
542		日向	㊉前・中期	〃 日向	B
543	1016	三ッ頭	㊈中期	〃 三ッ頭	B
544		中畑	㊉中～後期	〃 中畑	B
545		山脇	㊉中～後期	〃 山脇	B
546		上洞	㊉中～後期	〃 上洞	B
547		中島	㊉後・晩期㊊後期	〃 中島	B
548		片山	㊈石鏃	〃 片山	B
549	1017	藤庄	㊉箱清水式	〃 藤庄	B
550	1020	谷鬼	㊈茅山式・有尾式・加曾利E式 ㊉箱清水式㊉後・晩期㊊後期	〃 〃 谷鬼	B
551	1019	屋野	㊈石鏃	〃 屋野	B
552	1018	宮原	㊈石鏃	〃 宮原	B
553	1021	原	㊈石鏃㊉後期㊊後期	浦野字原	B
554	1022	滝	㊈石鏃㊉後期㊊後期	〃 滝	B
555	1023	城	㊉前～晩期㊊前期	〃 城	B
556		久保	㊉中・後期	〃 久保	B
557	1024	古城	㊉後・晩期㊊後期	〃 古城	B
558	1030	東之宮	㊉箱清水式㊉後期	〃 東之宮	B

559	1031	西之宮	㊥後期㊦後期	浦野字西之宮	B
560		中馬越	㊦打石斧	〃 中馬越	B
561	1032	入馬越	㊦打石斧㊥前～後期㊦後期	〃 入馬越	B
562	1027	下前沖	㊧箱清水式㊥前～後期㊦後期	〃 下前沖	B
563	1028	前沖内堀	㊦打石斧・磨石斧	〃 前沖内堀	B
564	1029	上前沖	㊥後・晩期	〃 上前沖	B
565		藤之木	㊧箱清水式㊥前期	〃 藤之木	B
566	1026	本村	㊥後期	〃 本村	B
567		西沢	㊥後期	〃 西沢	B
568		長谷塚	㊥後期	下室賀字長谷塚	B

(6) 中塩田地区

601	1078	菱池	㊦打石斧㊧箱清水式㊥後期㊦後期	小島字菱池	C
602	1078	樋田	㊥後期㊦後期	〃 樋田	C
603	1079	前田	㊥後期	〃 前田	C
604	1083	起	㊥後・晩期	本郷字起	B
605		塘田	㊧箱清水式㊥後・晩期㊦後期	〃 塘田	B
606	1082	道添	㊦石鏃・石皿㊧箱清水式㊥後期㊦後期	〃 道添	B
607		下川原	㊥後期㊦後期	〃 下川原	C
608		下窪	㊥後期㊦後期	〃 下窪	C
609	1081	金鉾	㊥後期㊦後期	〃 金鉾	C
610	1080	善明	㊦磨石斧	〃 善明	B
611	1090	神戸	㊦有尾式・勝坂式・加曾利E式・堀之内式 ㊧箱清水式㊥後・晩期㊦後期	五加字神戸	B
612		下川原	㊥後期㊦後期	〃 下川原	B
613	1095	宮原	㊧箱清水式㊥前～後期㊦後期	〃 宮原	B
614		梅ノ木	㊥後・晩期㊦後期	〃 梅ノ木	B
615	1097	内堀	㊧箱清水式㊥後・晩期㊦後期	〃 内堀	B
616	1098	北股	㊥後・晩期㊦後期	〃 北股	B

617	1099	梨ノ木	堀之内式箱清水式㊉後・晩期後期	五加字梨ノ木	B
618	1092	富在家	箱清水式㊉前～後期後期	〃 富在家	B
619	1100	北在家	打石斧㊉後期後期	〃 北在家	B
620	1091	吹上	勝坂式㊉後・晩期後期	〃 吹上	B
621		南股	㊉後・晩期後期	〃 南股	C
622		池下	㊉後・晩期後期	〃 池下	B
623	1093	石原	箱清水式㊉後・晩期後期	〃 石原	C
624		水口在家	箱清水式㊉後・晩期後期	〃 水口在家	C
625	1094	南在家	打石斧箱清水式㊉後期後期	〃 南在家	B
626		八丁	㊉後・晩期後期	〃 八丁	B
627	1087	宮浦	箱清水式㊉後期	上本郷字宮浦	B
628	1084	長畝	打石斧箱清水式㊉前～晩期後期	〃 長畝	B
629	1085	西村	石劍・石棒	〃 西村	B
630	1086	諏訪畑	加曾利E式箱清水式㊉前～晩期後期	〃 諏訪畑	B
631		枠木	箱清水式㊉前～晩期後期	〃 枠木	B
632		長丁	箱清水式㊉前～晩期後期	〃 長丁	B
633		才光坊	箱清水式㊉前～晩期後期	〃 才光坊	B
634		幅合	箱清水式㊉後・晩期後期	〃 幅合	C
635	1088	中井	箱清水式㊉前・中期後期	保野字中井	B
636	1088	青木	箱清水式㊉前・中期後期	〃 青木	B
637	1088	下宿	箱清水式㊉前・中期後期	〃 下宿	B
638		上宿	㊉前・中期後期	〃 上宿	B
639	1089	元屋敷	㊉後期後期	〃 元屋敷	B
640	1102	久保	箱清水式・太形蛤刃石斧	中野字久保	B
641	1104	新田	㊉後期後期	〃 新田	B
642	1101	鍛冶屋敷	石劍	〃 鍛冶屋敷	B
643	1103	和手	㊉後・晩期後期	〃 和手	B
644	1105	飯縄腰	石鏃	〃 飯縄腰	B
645	1106	塩野入	石鏃㊉後期	〃 塩野入	B
646	1107	上平	㊉後期後期	〃 上平	B

647	1107	柳　堂	㊥後期㊦後期	八木沢字柳堂	B
648	1108	上丸田	㊦石鏃・石錐	〃　上丸田	B
649	1108	中丸田	㊦石鏃	〃　中丸田	B
650	1110	表田中	㊥前～後期㊦後期	〃　表田中	B
651		塚　田	㊥後・晩期㊦後期	〃　塚田	B
652	1110	砂　畑	㊧箱清水式㊥前～後期㊦後期	〃　砂畑	B
653	1110	馬　場	㊧箱清水式㊥前～後期㊦後期	〃　馬場	B
654	1109	池田口	㊥後期㊦後期	〃　池田口	B
655	1083	北山越	㊥後・晩期㊦後期	本郷字北山越	B
656		上　原	㊥後期㊦後期	〃　上原	B
657		屋　敷	㊥後期㊦後期	小島字屋敷	B

(7)　別所・西塩田地区

701	1165	宮ノ前	㊦石鏃㊥後期㊦後期	別所字宮ノ前	B
702	1166	中曾根	㊥後期	〃　中曾根	B
703	1167	比丘樹	㊦繊維土器・打石斧・磨石斧	〃　比丘樹	B
704		欠　下	㊦打石斧	〃　欠下	B
705		北　谷	㊦後期・中世	〃　北谷	B
706	1168	弁　財	㊦後期	〃　弁財	B
707	1171	北　浦	㊦南大原式	〃　北浦	B
708	1169	塩　水	㊦茅山式・石鏃	〃　塩水	B
709	1170	嶽之尾	㊦石鏃	〃　嶽之尾	B
710		宮ノ上	㊦石鏃	野倉字宮ノ上	B
711		湯小路	㊦石鏃・中世	〃　湯小路	B
712		荒　井	㊦石鏃・打石斧㊦後期・中世	〃　荒井	B
713		中ノ洞	㊦石鏃㊥後期	〃　中ノ洞	B
714		穴　平	㊥後期㊦後期	〃　穴平	B
715		池　下	㊥後期㊦後期	十人字池下	B
716	1136	下　村	㊧箱清水式㊥後期㊦後期	〃　下村	B

717	1136	中　村	弥箱清水式㊉後期㊇後期	十人字中村	B
718		前　田	㊉後期㊇後期	〃　前田	B
719	1138	古屋敷	縄加曾利E式㊉後期㊇後期	〃　古屋敷	B
720	1139	玉　影	縄打石斧弥石庖丁㊉後・晩期㊇後期	〃　玉影	B
721		軒　民	縄勝坂式弥箱清水式㊉後・晩期㊇後期	〃　軒民	B
722	1137	加　生	縄石匙弥箱清水式	〃　加生	B
723		西　沖	㊉後・晩期㊇後期	〃　西沖	C
724		深　町	弥箱清水式㊉後・晩期㊇後期	新町字深町	C
725	1145	細江場	縄勝坂式弥箱清水式㊉後・晩期㊇後期	〃　細江場	C
726	1146	中　村	縄磨石斧弥箱清水式㊉後・晩期㊇後期	〃　中村	C
727	1147	王　子	弥箱清水式㊉後・晩期㊇後期	〃　王子	B
728		加　坂	弥箱清水式㊇後期	手塚字加坂	B
729	1158	東長畑	縄打石斧㊉後・晩期㊇後期	〃　東長畑	B
730		縄　手	㊉後・晩期㊇後期	〃　縄手	B
731	1159	五反田	縄下島直後型式・加曾利E式弥箱清水式	〃　五反田	B
732	1160	堰口ノ一	縄勝坂式・加曾利E式 弥箱清水式㊉後・晩期㊇後期	〃　堰口ノ一	B
733	1160	堰口ノ二	縄中期初頭型式・勝坂式・加曾利E式 弥箱清水式㊉後・晩期㊇後期	〃　堰口ノ二	B
734	1160	堰口ノ三	弥箱清水式㊉後・晩期㊇後期	〃　堰口ノ三	B
735	1160	立　石	縄勝坂式・加曾利E式 弥箱清水式㊉後・晩期㊇後期	〃　立　石	B
736	1160	東紺屋村	縄勝坂式・加曾利E式 弥箱清水式㊉後・晩期㊇後期	〃　東紺屋村	B
737	1162	樋ノ口	縄加曾利E式弥箱清水式㊉後・晩期㊇後期	〃　樋ノ口	B
738	1163	滝　沢	㊉後・晩期㊇後期	〃　滝沢	B
739		西紺屋村	縄勝坂式・加曾利E式弥箱清水式㊉後・晩期	〃　西紺屋村	B
740	1161	金　井	弥箱清水式	〃　金井	B
741	1164	塚　田	弥箱清水式㊉後期㊇後期	〃　塚田	C
742	1157	沢　山	縄石劍	前山字沢山	B

743	1145	検田見	鞭勝坂式㊙箱清水式㊥後・晩期㊗後期	前山字検田見	B
744	1148	甲田	㊥後期	〃 甲田	B
745	1149	下城戸	鞭打石斧㊙箱清水式㊥後期	〃 下城戸	B
746	1150	藤ノ木	鞭加曾利E式㊙箱清水式㊥後期㊗後期	〃 藤ノ木	B
747	1151	道成	鞭加曾利E式㊙箱清水式㊥後期㊗後期	〃 道成	B
748	1152	箱田	㊙箱清水式㊥後期㊗後期	〃 箱田	B
749	1153	上神戸	鞭石鏃㊙箱清水式㊥後期㊗後期	〃 上神戸	B
750	1154	立町	鞭磨石斧㊙箱清水式㊥後期㊗後期	〃 立町	B
751	1155	上町	鞭磨石斧㊙箱清水式㊥後期㊗後期	〃 上町	B
752		中島	㊙箱清水式㊥後期	〃 中島	B
753		入海道	㊥後期	〃 入海道	B
754		塩野間	㊥後期	〃 塩野間	B
755	1140	銀杏木	㊙箱清水式㊥後・晩期㊗後期	〃 銀杏木	B
756	1141	下原	鞭石鏃㊙箱清水式㊥後・晩期㊗後期	〃 下原	B
757	1142	宮原	㊙箱清水式㊥後期㊗後期	〃 宮原	B
758	1143	中原	㊙箱清水式㊥後・晩期㊗後期	〃 中原	B
759		上原	㊥後・晩期㊗後期	〃 上原	B
760	1144	東馬場	鞭打石斧㊙箱清水式㊗後期	〃 東馬場	B
761		西馬場	㊥後期㊗後期	〃 西馬場	B
762	1156	前矢ノ倉	鞭石鏃・打石斧㊙箱清水式	〃 前矢ノ倉	B
763		西村	㊥後期	山田字西村	B
764		塚田	㊙箱清水式㊥後期㊗後期	〃 塚田	B
765		原田	㊙箱清水式㊗後期	〃 原田	B
766		竹ノ裏	鞭磨石斧㊗後期	〃 竹ノ裏	B
767		槻ノ木	鞭石鏃㊥後期	〃 槻ノ木	B
768		上打越	鞭石鏃	〃 上打越	B
769		西大湯	㊥後期	別所字西大湯	B
770		日影	㊥後期㊗後期	〃 日影	B

(8) 東塩田地区

801	1111	小森山	㊀太形蛤刃石斧	下之郷字小森山	B
802	1113	塚穴原	㊀打石斧㊁箱清水式㊂後期	〃 塚穴原	B
803		十火矢	㊉後期㊂後期	〃 十火矢	B
804		下迎原	㊉後期㊂後期	〃 下迎原	B
805		東原田	㊉後期㊂後期	〃 東原田	B
806		一本木	㊉後・晩期㊂後期	〃 一本木	B
807		絵堂	㊉後・晩期㊂後期	〃 絵堂	C
808		西沖	㊁箱清水式㊉後・晩期㊂後期	〃 西沖	B
809	1114	下居守沢	㊁箱清水式	富士山字下居守沢	B
810		塚原	㊉後期	〃 塚原	B
811	1112	入雲雀	㊀打石斧㊁箱清水式㊂後期	〃 入雲雀	B
812		中雲雀	㊉後期	〃 中雲雀	B
813	1116	笹塚	㊂後期	〃 笹塚	B
814		下川原	㊉後期㊂後期	〃 下川原	B
815		山田屋敷	㊁箱清水式㊉前～晩期㊂後期	〃 山田屋敷	B
816		天神	㊁箱清水式㊉前～晩期㊂後期	〃 天神	B
817		西又	㊉後・晩期㊂後期	〃 西又	B
818		東村	㊉後・晩期㊂後期	〃 東村	B
819		下大吹	㊉後期㊂後期	〃 下大吹	B
820	1115	源方	㊀打石斧㊁箱清水式㊉後期㊂後期	〃 源方	B
821	1121	下刈又	㊀中期㊉後期㊂後期	〃 下刈又	B
822	1117	中村	㊀加曾利E式㊁箱清水式㊉後・晩期㊂後期	〃 中村	B
823	1119	三門寺	㊀勝坂式・加曾利E式・加曾利B式 ㊁箱清水式㊉後・晩期㊂後期	〃 三門寺	B
824	1118	下節月	㊁箱清水式㊉後・晩期	〃 下節月	B
825		中二ッ木	㊉後期㊂後期	〃 中二ッ木	B
826		東又六	㊉後期㊂後期	〃 東又六	B
827	1120	馬場	㊉後期㊂後期	〃 馬場	B
828	1122	町屋二	㊀打石斧・磨石斧㊉後・晩期㊂後期	〃 町屋二	B

829		上節月	㊥後・晩期㊦後期	〃 上節月	
830	1123	郷士田	㊤石鏃・打石斧㊧箱清水式㊥後期㊦後期	〃 郷士田	
831	1124	下大郷	㊤中期初頭型式・勝坂式・加曾利E式 ㊧箱清水式㊥後期㊦後期	〃 下大郎	B
832	1125	西奈良尾	㊧箱清水式㊥後期㊦後期	〃 西奈良尾	
833	1126	城光寺	㊤石鏃㊧箱清水式	〃 城光寺	
834	1127	栗尾	㊤打石斧・石棒	古安曾字栗尾	
835	1128	神田	㊧箱清水式㊥後期㊦後期	〃 神田	
836		下宿在家	㊥後期㊦後期	〃 下宿在家	
837	1129	大六	㊤加曾利E式㊧箱清水式㊥後・晩期㊦後期	〃 大六	
838		中池東	㊥後期	下之郷字中池東	
839		下絵堂	㊥後・晩期㊦後期	古安曾字下絵堂	
840		上絵堂	㊥後・晩期㊦後期	〃 上絵堂	
841		中田	㊥後・晩期㊦後期	〃 中田	
842		麗原	㊥後・晩期㊦後期	〃 麗原	
843		戸一丁	㊥後・晩期㊦後期	〃 戸一丁	
844		穴田	㊥後・晩期㊦後期	〃 穴田	
845		酒開	㊧箱清水式	〃 酒開	
846		下向田	㊧箱清水式㊥後・晩期㊦後期	〃 下向田	
847		中向田	㊧箱清水式㊥後・晩期㊦後期	〃 中向田	
848		上向田	㊧箱清水式㊥後・晩期㊦後期	〃 上向田	
849		飯塚	㊧箱清水式㊥後・晩期㊦後期	〃 飯塚	
850		横滝	㊧箱清水式㊥後・晩期㊦後期	〃 横滝	
851		北亦	㊧箱清水式㊥後・晩期㊦後期	〃 北亦	
852	1131	宮下	㊥後期	〃 宮下	
853	1130	下吉沢	㊤打石斧㊧箱清水式㊥前・中期㊦後期	〃 下吉沢	
854	1130	東吉沢	㊤中期㊧箱清水式㊥前・中期㊦後期	〃 東吉沢	
855	1130	西吉沢	㊤中期㊧箱清水式㊥前・中期㊦後期	〃 西吉沢	
856	1135	浅間	㊤石鏃㊧箱清水式	〃 浅間	
857		東畑	㊥後期	〃 東畑	

858		下久根	㊦後期	古安曾字下久根	B
859	1133	西畑道下	㊧石鏃㊨箱清水式	〃 西畑道下	B
860		大道上	㊦後期㊨後期	〃 大道上	B
861	1134	東安曾岡	㊧石鏃・打石斧㊨箱清水式	〃 東安曾岡	B
862		上清水	㊧加曾利E式㊨箱清水式㊦後・晩期㊨後期	〃 上清水	B
863		下清水	㊧加曾利E式㊨箱清水式㊦後・晩期㊨後期	〃 下清水	B

B 古　墳

(1) 殿城・豊里地区

古墳番号	信濃史料古墳番号	古墳名	墳丘	石室の構造・遺物	所在地	価値
101		氷沢第1号	(円墳)	(横)半壊	殿城字下日向	A
102	1330	氷沢第2号	(円墳)	(横)僅かに残る	〃 下日向	A
103	1329	氷沢第3号	(円墳)	(横)僅かに残る	〃 下日向	A
104	1331	氷沢第4号	(円墳)	(横)僅かに残る	〃 下日向	A
105	1328	氷沢第5号	(円墳)	(横)全壊	〃 下日向	C
106		氷沢第6号	(円墳)	(横)全壊	〃 氷沢	C
107	1327	氷沢第7号	(円墳)	(横)全壊	〃 日向	C
108		氷沢第8号	(円墳)	(横)全壊	〃 日向	C
109		氷沢第9号	(円墳)	(横)全壊	〃 下日向	C
110		氷沢第10号	(円墳)	(横)全壊	〃 下日向	C
111		城山	(円墳)	(横)全壊・勾玉	〃 城山	B
112	1332	赤坂将軍塚	(円墳)	(横)ほぼ完全	〃 石矢	A
113		塚穴	(方墳)?	(横)ほぼ完全	〃 塚穴	A
114		下郷第1号	(円墳)	(横)僅かに残る 直刀・金環	〃 〃 神林	B
115		下郷第2号	(円墳)	(横)僅かに残る	〃 神林	B
116		下郷第3号	(円墳)	(横)僅かに残る	〃 神林	B
117		下郷第4号	(円墳)	(横)僅かに残る	〃 神林	B

118		下郷第5号	(円 墳)	(横)僅かに残る	殿城字神林	B
119		下郷第6号	(円 墳)	(横)全壊	〃 神林	C
120		下郷第7号	(円 墳)	(横)全壊	〃 神林	C
121		下郷第8号	(円 墳)	(横)全壊	〃 長沢	C
122		下郷第9号	(円 墳)	(横)全壊 直刀・鉄鏃	〃 長沢	C
123		下郷第10号	(円 墳)	(横)全壊鏡	〃 長沢	C
124		下郷第11号	(円 墳)	(横)全壊	〃 神林	C
125		下郷第12号	(円 墳)	(横)全壊	〃 神林	C
126		下郷第13号	(円 墳)	(横)全壊	〃 神林	C
127		下郷第14号	(円 墳)	(横)全壊・直刀	〃 中村	C
128		柴崎	(円 墳)	(横)全壊・直刀 ・金環	芳田字柴崎	C
129		大日ノ木	(円 墳)	(横)ほぼ完全	〃 大日ノ木	A
130		日井ノ	(円 墳)	(横)半壊	林之郷字塚田	A
131		矢沢第1号	(円 墳)	(横)僅かに残る	殿城字上組	B
132		矢沢第2号	(円 墳)	(横)僅かに残る	〃 上組	B

(2) 神科・神川地区

201	1338	新屋第1号	(円 墳)	(横)ほぼ完全	上野字鴻呂館	A
202	1337	新屋第2号	(円 墳)	(横)半壊	〃 矢花	B
203	1336	新屋第3号	(円 墳)	(横)半壊	〃 矢花	B
204	1339	新屋第4号	(円 墳)	(横)全壊・勾玉 ・直刀	〃 矢花	B
205	1340	新屋第5号	(円 墳)	(横)全壊	〃 矢花	B
206	1341	新屋第6号	(円 墳)	(横)半壊・金環 馬具	〃 矢花	B
207	1347	新屋第7号	(円 墳)	(横)全壊	〃 矢花	B
208	1346	新屋第8号	(円 墳)	(横)半壊	〃 矢花	B
209	1348	新屋第9号	(円 墳)	(横)僅かに残る	〃 矢花	B
210		新屋第10号	(円 墳)	(横)全壊・直刀	〃 矢花	B

211		新屋第11号	(円 墳)	(横)僅かに残る	上野字矢花	B
212	1349	塚田(カンカン塚)	(円 墳)	(横)半壊	〃 塚田	A
213	1335	陣 場 場	(円 墳)	(?)半壊	住吉字横山	A
214		玄 蕃 塚	(円 墳)	(?)全壊	〃 横山	A
215		熱 泰 寺	(円 墳)	(横)全壊	〃 熱泰寺	C
216	1342	向 田	(円 墳)	(横)半壊	古里字向田	A
217	1344	笹 井 塚	(円 墳)	(?)僅かに残る直刀	古里字篠井久保	B
218	1345	野 竹 塚	(円 墳)	(?)僅かに残る	〃 久保	B
219	1343	掛ノ宮塚	(円 墳)	(横)僅かに残る	〃 掛ノ宮	B
220	1351	社 宮 寺	(円 墳)	(?)半壊	国分字社宮	A
221	1350	道場第1号	(円 墳)	(横)僅かに残る直刀	〃 道場	A
222		道場第2号	(円 墳)	(横)全壊・環・玉	〃 道場	C
223		道場第3号	(円 墳)	(横)全壊	〃 道場	C
224		西沖第1号	(円 墳)	(横)全壊	〃 西沖	C
225		西沖第2号	(円 墳)	(横)僅かに残る直刀	〃 西沖	A
226		高寺第1号	(円 墳)	(横)全壊	蒼久保字中村	C
227		高寺第2号	(円 墳)	(横)全壊	〃 中村	C
228		高寺第3号	(円 墳)	(横)僅かに残る土器	〃 中村	B
229		生 地 場	(円 墳)	(横)僅かに残る	〃 生地場	B
230	1352	下青木吉田原	(円 墳)	(横)ほぼ完全	〃 吉田原	A
231		旗 鉾 塚	(円 墳)	(横)全壊	吉田原	C
232		寺 沢	(円 墳)	(横)全壊	大屋字寺沢	C
233		尾 無	(円 墳)	(横)全壊・直刀・鉄鏃	〃 尾無	C

(3) 上田・塩尻地区

301		桜林	(円墳)	古墳？全壊	上田字桜林	C
302	1443	二子塚	(前方後円墳)	(竪？)ほぼ完全 埴輪	〃 秋葉裏	A
303	1444	二子塚陪塚第1号	(円墳)	(？)ほぼ完全	〃 秋葉裏	A
304		二子塚陪塚第2号	(円墳)	(？)全壊	〃 秋葉裏	B
305		二子塚陪塚第3号	(円墳)	(僅)僅かに残る	〃 秋葉裏	B
306		藤ノ森	(円墳)	(横)全壊・土器	常入字藤ノ森	C
307	1446	彌陀平	(円墳)	(？)ほぼ完全	秋和字彌陀平	A
308	1447	八幡大蔵京	(方墳)	(？)ほぼ完全	〃 大蔵京	A
309		風呂川	(円墳)	(横)全壊・直刀	〃 風呂川	C
310		宮原	(円墳)	(横)全壊・直刀 土器・鉄鏃	〃 宮原	C
311		東山	(円墳)	(横)全壊・勾玉	上塩尻字東山	C
312		彌勒堂	(円墳)	(横)全壊・勾玉 ・切子玉・金環	〃 彌勒堂	C
313		持越	(円墳)	(横)全壊・直刀 ・鉄鏃	〃 持越	C

(4) 城下・川辺地区

401		坂下	(円墳)	(？)全壊	小牧字坂下	C
402		六句	(円墳)	(横)全壊・直刀 ・土器	〃 六句	C
403		初太郎	(円墳)	(横)全壊	〃 初太郎	C
404	1433	タタラ塚	(円墳)	(横)ほぼ完全	諏訪形字東山	A
405	1434	舟窪第1号	(円墳)	(横)半壊	〃 西山	A
406	1435	舟窪第2号	(円墳)	(横)半壊	〃 西山	A
407	1436	舟窪第3号	(円墳)	(横)半壊	〃 西山	A
408	1437	舟窪第4号	(円墳)	(横)半壊	〃 西山	A
409	1438	舟窪第5号	(円墳)	(横)半壊	〃 西山	A

410	1439	森ノ木第1号	(円　墳)	(横)全壊・直刀・銀環	諏訪形字森ノ木	C
411	1440	森ノ木第2号	(円　墳)	(横)僅かに残る	〃　森ノ木	A
412		上　　平	(円　墳)	(?)ほぼ完全	〃　上平	A
413	1441	日　天　塚	(円　墳)	(横)僅かに残る	御子字原堰上	B
414	1442	月　天　塚	(円　墳)	(横)全壊・直刀・鉄鏃・金環	〃　原堰上	C
415		原　　峠	(円　墳)	(横)僅かに残る	〃　原峠下	B
416		下　河　原	(円　墳)	(?)墳没	築地字下河原	B
417		塚原第1号	(円　墳)	(横)全壊	上田原字塚原	B
418		塚原第2号	(円　墳)	(横)僅かに残る勾玉・金環	〃　塚原	B
419		塚原第3号	(円　墳)	(横)全壊	〃　塚原	B
420		塚原第4号	(円　墳)	(横)全壊	〃　塚原	B
421		塚原第5号	(円　墳)	(横)全壊・直刀・鉄鏃	〃　塚原	B
422	1445	手矢塚第1号	(円　墳)	(横)僅かに残る	神畑字手矢塚	A
423		手矢塚第2号	(円　墳)	(?)ほぼ完全	〃　手矢塚	A
424		手矢塚第3号	(円　墳)	(横)全壊・金環・直刀	〃　手矢塚	C
425		扇　　田	(円　墳)	古墳?僅かに残る	吉田字扇田	B

(5)　泉田・室賀・浦里地区

501	1383	半過第1号	(円　墳)	(横)僅かに残る金環・鉄鏃・小玉	小泉字清水下	A
502	1384	半過第2号	(円　墳)	(横)全壊・鏡	〃　駒場	B
503	1385	半過第3号	(円　墳)	(横)半壊	〃　北沢	A
504		半過第4号	(円　墳)	(横)全壊	〃　矢坂	A
505		半過第5号	(円　墳)	(横)全壊・直刀・鉄鏃	〃　影通	C

506		半過第6号	(円 墳)	(横)半壊	小泉字中ノ沢	A
507		半過第7号	(円 墳)	(横)全壊・直刀・鍔	〃 中ノ沢	B
508		半過第8号	(円 墳)	(横)全壊・直刀・鍔	〃 中ノ沢	B
509		半過第9号	(円 墳)	(横)全壊	滝沢	C
510	1386	八幡山	(円 墳)	(横)半壊・直刀・鉄鏃	〃 八幡山	A
511	1387	日向小泉第1号	(円 墳)	(横)全壊	〃 宮ノ入	C
512	1388	日向小泉第2号	(円 墳)	(横)僅かに残る	〃 東村	A
513	1389	日向小泉第3号	(円 墳)	(横)僅かに残る	〃 西村	A
514	1390	日向小泉第4号	(円 墳)	(横)半壊	〃 寺住平	A
515	1391	日向小泉第5号	(円 墳)	(横)全壊	〃 蛇川原入	C
516	1392	日向小泉第6号	(円 墳)	(横)僅かに残る	〃 旗鉾	A
517		日向小泉第7号	(円 墳)	(横)全壊	〃 琵琶塚	B
518	1393	将軍塚	(円 墳)	(?)ほぼ完全 剣2	〃 和合	A
519	1394	神宮寺	(円 墳)	(横)ほぼ完全	下室賀字神宮寺	A
520		長谷塚	(円 墳)	(横)全壊・直刀	〃 長谷塚	C
521		塚田	(円 墳)	(横)全壊・?	上室賀字塚田	C
522		五位塚	(円 墳)	供養塚・半壊	〃 原田	A
523		城	(円 墳)	(横)全壊・勾玉・全環	浦里字城	B
524		浦野塚	(円 墳)	(横)ほぼ完全	〃 峻岨林	A

(6) 中塩田地区

601		神戸	(円 墳)	(横)全壊・勾玉	五加字神戸	B
602	1397	西行塚	(円 墳)	(古墳?)半壊	中野字槻ノ木	A
603	1398	池田山第1号	(円 墳)	(横)ほぼ完全	八木沢字向池田	A
604		池田山第2号	(円 墳)	(横)半壊	〃 向池田	B

605		池田山第3号	(円　墳)	(横)全壊	八木沢字向池田	C
606	1399	口　明　塚	(円　墳)	(横)半壊	保野字口明塚	A
607	1400	富　士　塚	(円　墳)	(古墳？)半壊	〃　富士塚	A
608		入　山　塚	(円　墳)	(修験塚)半壊	八木沢字入山	B

(7)　別所・西塩田地区

701	1408	六部塚第1号	(円　墳)	(古墳?)ほぼ完全	野倉字ジッカブ	A
702	1409	六部塚第2号	(円　墳)	(古墳?)ほぼ完全	〃　ジッカブ	A
703	1410	六部塚第3号	(円　墳)	(古墳?)ほぼ完全	〃　ジッカブ	A
704	1411	六部塚第4号	(円　墳)	(古墳?)ほぼ完全	〃　ジッカブ	A
705	1412	六部塚第5号	(円　墳)	(古墳?)ほぼ完全	〃　ジッカブ	A
706		六部塚第6号	(円　墳)	(古墳?)半壊	〃　ジッカブ	A
707	1413	宮原第1号	(円　墳)	(？)ほぼ完全	前山字宮原	A
708	1414	宮原第2号	(円　墳)	(横)全壊・勾玉・管玉	〃　銀杏木	B
709	1415	上ノ山塚第1号	(円　墳)	(？)僅かに残る	山田字下打越	B
710		上ノ山塚第2号	(円　墳)	(？)僅かに残る	〃　下打越	C
711		北　ノ　沢	(円　墳)	(横)全壊	〃　北ノ沢	B
712		横　山　塚	(円　墳)	(？)半壊	〃　竹ノ裏	A
713	1417	皇　子　塚	(円　墳)	(横)ほぼ完全 小玉	手塚字王子塚	A
714		クチアケ塚	(円　墳)	(横)全壊	〃　滝沢	C
715	1418	王　子　塚	(前方後円墳？)	(？)ほぼ完全	新町字王子	A
716		東　紺　屋　村	(円　墳)	(横)僅かに残る	手塚字東紺屋村	B
717	1419	将　軍　塚	(円　墳)	(横)半壊	別所字東大湯	A
718	1420	上　　塚	(円　墳)	(横)全壊 鉄製壺鐙	〃　東町	B
719		大　　塚	(円　墳)	(横)全壊	〃　大塚	C
720		上平第1号	(円　墳)	(？)全壊・直刀	山田字上平	C
721		上平第2号	(円　墳)	(？)全壊・直刀	〃　上平	C
722		ヒ　ワ　塚	(円　墳)	(古墳？)全壊	〃　下打越	C

(8) 東塩田地区

801	1405	紅平山第1号	(円　墳)	(？)半壊	下之郷字紅平	B
802		紅平山第2号	(円　墳)	(？)半壊	〃　紅平	B
803		紅平山第3号	(円　墳)	(？)半壊	〃　紅平	B
804	1406	下　堂　寺	(円　墳)	(？)半壊	〃　下堂寺	B
805	1407	東　　山	(円　墳)	(？)半壊	〃　東山	B
806		他　田　塚	(円　墳)	(横)ほぼ完全・直刀・玉・鉄鏃他	〃　塚穴原	A
807		塚穴原第1号	(円　墳)	(横)ほぼ完全	〃　塚穴原	A
808		塚穴原第2号	(円　墳)	(横)半壊	〃　塚穴原	A
809		塚穴原第3号	(円　墳)	(横)全壊	〃　塚穴原	C
810		塚穴原第4号	(円　墳)	(横)全壊	〃　塚穴原	C
811		明神平第1号	(円　墳)	(横)半壊	〃　東山	A
812		明神平第2号	(円　墳)	(横)半壊	〃　東山	A
813		明神平第3号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
814		明神平第4号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
815		明神平第5号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
816		明神平第6号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
817		明神平第7号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
818		明神平第8号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
819		明神平第9号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
820		明神平第10号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
821		明神平第11号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
822		明神平第12号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
823		明神平第13号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
824		明神平第14号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
825		明神平第15号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
826		明神平第16号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
827		明神平第17号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
828		明神平第18号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C

829		明神平第19号	(円　墳)	(横)全壊	下之郷字東山	C
830		明神平第20号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
831		明神平第21号	(円　墳)	(横)僅かに残る	〃　東山	C
832		明神平第22号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
833		明神平第23号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
834		明神平第24号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
835		明神平第25号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
836		明神平第26号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
837		明神平第27号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
838		明神平第28号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
839		明神平第29号	(円　墳)	(横)全壊	〃　東山	C
840	1403	宮原第1号	(円　墳)	(古墳?)半壊	〃　宮原	B
841		宮原第2号	(円　墳)	(古墳?)半壊	〃　宮原	B
842	1404	上雲雀第1号	(円　墳)	(横)僅かに残る	〃　上雲雀	A
843		上雲雀第2号	(円　墳)	(横)僅かに残る	〃　上雲雀	B
844		上雲雀第3号	(円　墳)	(横)僅かに残る	〃　上雲雀	B
845		中雲雀	(円　墳)	(古墳?)半壊	〃　中雲雀	B
846		浅間原	(円　墳)	(横)全壊	〃　浅間原	C
847		笹塚	(円　墳)	(横)全壊	富士山字笹塚	C
848		塚原第1号	(円　墳)	(横)全壊	〃　塚原	C
849		塚原第2号	(円　墳)	(横)全壊・土器	〃　塚原	C
850		三門寺	(円　墳)	(横)僅かに残る	〃　三門寺	B
851		町屋	(円　墳)	(?)全壊・勾玉	〃　町屋一	C
852	1402	平井寺	(円　墳)	(横)半壊	古安曾字神外	A
853	1401	向山	(円　墳)	(横)僅かに残る	〃　向山	A
854		三ッ井	(円　墳)	(横)僅かに残る	〃　三ッ井	A

C 特殊遺跡

a 窯業址

遺跡番号	信濃史料遺跡番号	遺跡名	時代	所在地	価値
001		信濃国分寺瓦窯址	平安	国分寺仁王堂	A
002		上平窯址	平安	常磐城字上平	B
003		清水下窯址	奈良	小泉字清水下	B
004		不動沢窯業址	近世～	古里字前城	A
005		窯元分家窯業址	近世～	〃 英	A
006		窯元屋敷内窯業址	明治～	〃 英	B
007		染屋区公会堂脇窯業址	明治～	〃 英	B
008		坂井田窯業址	明治	上田字坂井田	B
009		幅田窯業址	明治	古里字幅田	B
010		下郷窯業址	近世	殿城字中村	B
011		平井寺窯業址	近世	古安曾字神明前	A

b 廃寺址（含布目瓦出土地・国宝・重文塔

遺跡番号	信濃史料遺跡番号	遺跡名	年代	所在地	価値
012		信濃国分寺廃寺跡	奈良	国分字仁王堂	A
013		信濃国分寺廃寺跡	平安	〃 堂浦	A
014		道場廃寺跡	中世	〃 道場	B
015		唐臼廃寺跡	？	常磐城字唐臼	A
016		東村（布目瓦出土地）	奈良？	福田字東村	A
017		北谷（布目瓦出土地）	？	別所字北谷	A
018		穴平（布目瓦出土地）	奈良？	野倉字穴平	A
019		堰ノ口三（布目瓦出土地）	奈良？	手塚字堰ノ口三	A

〔付　録〕

(1) 墳墓址（含五輪塔・宝篋印塔所在地・指定石造文化財）

遺跡番号	遺跡名・塔名	種別	年代	所在地	価値
020	清水寺塔	五輪塔・宝篋印塔	中・近世	厳城字岩清水（清水寺）	B
021	洞源寺塔	宝篋印塔	貞治8 永和5	住備字荻久保（金剛寺）	A
022	矢花塔	五輪塔群	中・近世	上野字矢花	B
023	十王堂塔	五輪塔群	中・近世	古里字竹代	B
024	薬師堂塔	五輪塔群	中・近世	〃 篠井久保	B
025	寒松院（真田昌幸室）墓	宝篋印塔1	江戸	上田字新田（大輪寺）	A
026	小松姫墓	宝篋印塔1	江戸	常磐城（芳泉寺）	A
027	千人塚	墳墓址	江戸	秋和（昌福寺）	A
028	薬師堂五輪塔	五輪塔2	鎌倉	下塩尻字薬師堂	A
029	板垣信方墓	五輪塔1	戦国	下之条字下在家	A
030	雨宮刑部墓	五輪塔1	戦国	〃 吹田	B
031	屋代源吾墓	五輪塔1	戦国	〃 物見塚	A
032	塚原墳墓址	五輪塔群	中世	上田原字塚原	A
033	上田原五輪塔	五輪塔1	鎌倉	〃 大越	A
034	東村墳墓址	五輪塔群	中世	福田字東村	A
035	室賀氏墳墓址	五輪塔	中世	上室賀字塚田	A
036	前松寺塔	五輪塔・宝篋印塔	戦国	〃 大門（前松寺）	A
037	西沢氏塔	五輪塔・宝篋印塔	中世	〃 （西沢敬雄）	B
038	宮原五輪塔	五輪塔	中世	〃 宮原	A
039	浦野氏宝篋印塔	宝篋印塔	天正10 慶長2 永禄5 1112年	浦里寺寺山（東昌寺）	A
040	金王五輪塔	五輪塔	鎌倉	舞田字金王山	A
041	堂楽寺塔	五輪塔群・多宝群	中世	別所（常楽寺）	A
042	倉沢氏宝篋印塔	宝篋印塔1	室町	〃	A
043	大島氏塔	宝篋印塔1	室町	〃（大島屋旅館）	A

044	中禅寺五輪塔	五輪塔群	中世	前山字宮本町（中禅寺）	A
045	手塚太郎光盛五輪塔	五輪塔 1	中世	手塚字下原	A
046	安曾基太夫五輪塔	五輪塔 2	中世	古安曾字東安曾岡	A
047	西光寺五輪塔	五輪塔群	中世	富士山字三門寺(西光寺)	A
048	巴山吹五輪塔	五輪塔	中・近世	〃 町屋一	A
049	久保墓地内塔	五輪塔	中世	〃 久保	A

(2) 製鉄址

遺跡番号	遺跡名	年代	所在地	価値
050	明神前	平安	国分字明神前	B
051	金井平	?	上田字金井平	A

(3) 子持勾玉出土地

遺跡番号	信濃史料遺跡番号	遺跡名	年代	所在地	価値
052	32	治郎溜	古墳	芳田字治郎溜	B

(4) 城跡（「小県郡史」による）

遺跡番号	遺跡名	年代	所在地	価値
053	殿城山城跡		殿城字殿城	A
054	矢沢氏支城跡		〃 古城	A
055	矢沢城跡		〃 城山	A
056	戸石・米山城跡		上野字城山他	A
057	伊勢崎城跡		〃 上野原	A
058	柏山城跡		住吉字柏山	A
059	岩門城跡		国分字本城	A
060	上田城跡	天正11年	上田字二の丸	A
061	小泉曲輪城跡		〃 上田城廻り	A

062	牛伏城跡		常磐城字虚空蔵	A
063	アラ城跡		〃 太郎山	A
064	北林城跡		〃 上平	A
065	飯網城跡		秋和字飯網山	A
066	虚空蔵山城跡		上塩尻字虚空蔵	A
067	燕城跡		〃 原	A
068	高ツヤ城跡		下塩尻字裏山	A
069	和合城跡		〃 岩鼻	A
070	小牧城跡		小牧字城山	A
071	中尾城跡		〃 中尾	A
072	須々貴城跡		下之条字須々貴山	A
073	小泉城跡		下室賀字日向山	A
074	伊勢崎城跡		上室賀字三ツ頭	A
075	跡部城跡		〃 三ツ頭	A
076	笹洞城跡		〃 下洞山	A
077	原畑城跡		〃 原畑	A
078	岡城跡		浦里字城	A
079	浦野城跡		〃 古城	A
080	塩田城跡		前山字上町	A
081	峰小屋城跡		〃 滝沢	A
082	古城跡		野倉字城	A
083	海部野城跡		富士山字砂原山	A
084	吉沢城跡		古安曾字吉沢入	A

(5) 居館跡推定地

遺跡番号	遺跡名	年代	所在地	価値
085	堀ノ内		常入字堀ノ内	A
086	堀ノ内		築地字堀ノ内	A
087	前沖内堀		浦里字前沖内堀	A
088	内堀		五加字内堀	A

5. 地区別・年代種別遺跡数一覧表

(1) 遺　跡（遺物包蔵地）

地区＼時代	遺跡数	縄　文	弥　生	土　師	須　恵	中　世	地区小計
殿城・桑里	54	26	17	39	27	1	110
神科・神川	36	16	15	26	19	1	77
上田・塩尻	49	9	21	37	16	2	85
塩尻・川辺	49	9	17	39	30	0	95
泉田・室賀・浦里	68	29	21	48	28	1	127
中　塩　田	57	16	24	50	46	0	136
別所・西塩田	70	33	36	47	47	3	166
東　塩　田	63	20	32	50	48	0	150
小　計	446	158	183	336	261	8	946

(2) 特殊遺跡・古墳

種別＼地区	特殊遺跡								古墳
	窯業址	廃寺址	墳墓址	製鉄址	子持勾玉	城　跡	居館跡	地区計	
殿城・桑里	1	0	1	0	0	3	0	5	32
神科・神川	6	3	5	1	1	4	0	20	33
上田・塩尻	2	1	5	1	0	12	1	22	13
城下・川辺	0	1	6	0	0	3	1	11	25
泉田・室賀・浦里	1	0	7	0	0	9	1	18	24
中　塩　田	0	0	1	0	0	0	1	2	8
別所・西塩田	0	3	10	0	0	4	0	17	22
東　塩　田	1	0	4	0	0	2	0	7	54
小　計	11	8	39	2	1	37	4	102	211

6. 遺跡の現況

種別 / 地区 ＼ 現況	遺跡（遺物包蔵他）			古墳とその他の高塚			
	保存良好	一部破壊	殆ど破壊	ほぼ完全	半　壊	僅かに残る	全　壊
厳城・豊里	53	1	0	3	2	11	16
神科・神川	24	2	0	2	8	10	13
上田・塩尻	31	15	3	4	0	1	8
城下・川辺	41	18	0	3	5	6	11
泉田・室賀・浦里	67	1	0	3	5	4	12
中　塩　田	36	3	18	1	5	0	2
別所・西塩田	55	4	11	8	3	3	8
東　塩　田	46	2	15	2	12	7	33
小　計	353	46	47	26	40	42	103

Ⅱ 調 査 の 概 要

1. 殿城・豊里地区

殿城・豊里地区は、上田盆地の北半部にあたる川東平野の東部に位置し、神川扇状地の新町面（第1段丘面）・青木面（第2段丘面）・久保林面（第3段丘面）、および赤坂の谷口扇状地などから構成されている。現在の神川は、およそ25mほど下刻しながら西偏し、山麓の押出しと共に、この段丘面を形成しているが、第1段丘面の大日ノ木付近は、行沢川と瀬沢川の扇状地によって覆われ、大日ノ木は現在その扇頂部に位し、またこの押出しが第2段丘面にも、新扇状地をつくっている。

この地区は、旧豊殿村の全域にあたり、昭和33年4月に上田市に合併した。このうち殿城村は、幕藩時代の矢沢村が、矢沢・赤坂・岩清水・下郷など4ヵ村に分かれ、その後明治9年に再び合併して殿城村となり、明治22年に漆戸村を合併、昭和31年に豊里村と合併して豊殿村となった。豊里村は幕藩時代の吉田村が、中吉田・小井田・森・下吉田4ヵ村に分村したが、明治8年再び合併して、この村名となった。なお、林之郷村は、林之郷が上田城附・矢沢采地2ヵ村に分かれたものが、再び合併してつくられた。

(1) 縄文時代の遺跡

縄文時代の遺跡は、計25を数えるが、矢沢の城山に前期の下島式が発見されたのみで、主体は中期以後である。中期の遺跡は、赤坂の谷口に日向・十貫・石矢・托田の5遺跡と矢沢の北屋敷、行沢川谷の氷沢、その扇頂部と木之上・大木、瀬沢川扇状地の扇端の井戸田、成沢川の押出し扇状地の尾無・無量寺、青木面の堂下などである。後・晩期の遺跡は、この面の堂下・神林と行沢川扇状地の大木などに分布している。

(2) 彌生時代の遺跡

この地区の彌生文化は、後期の箱清水期に属し、赤坂の日向・石矢、神川東岸段丘面の石坪、行沢川扇状地の木之上・大木、瀬沢川扇状地の井戸田、成沢川扇状地の無量寺、青木面の中村・神林・長沢・堂下・西ノ平・茅御堂・境畑・池田・狐塚・下ノ畑などの17遺跡が発見されている。

(3) 古墳および歴史時代の遺跡

土師器や須恵器を出土する遺跡は、赤坂地籍、矢沢川の扇状地、行沢川の谷と扇状地、瀬沢川の扇状地、成沢川の扇状地、新町面、青木面など全域の各種地形上に分布している。そのうち土師器のみ出土１４遺跡、須恵器のみ出土１遺跡、併出２６遺跡の計４１遺跡で、出土遺物の所見から、概して併出遺跡は後・晩期、土師器のみ出土の遺跡は前・中期に属するものが多い。

古墳はこれらの遺跡の周辺にあたる山麓や、段丘縁に接する台地上に分布し、時期的には終末期の群集墳がほとんどであり、形態的には、片袖のやや縮小した両袖型横穴式石室の円墳が主体であり、赤坂の塚穴古墳は、片袖型横穴式石室で墳丘は積石段築の方墳と思われる。主な群集墳は、氷沢古墳群（１３基、但し３基不明）・下郷古墳群（１４基）・赤坂（９基、但し８基全壊不明）古墳などで、踏査の所見では、矢沢城山古墳付近にも、数基の古墳の所在が推定される。その他、子持勾玉を出土した芳田の治郎堀遺跡、下郷窯業址（江戸時代後期）などがある。

A 遺 跡（遺物包蔵地）

○１０１ 小玉原遺跡 上田市大字殿城字小玉原

赤坂の集落の東端から、北東に小道を登った山麓の傾斜地で、現在は桑畑などに利用されている。出土遺物は縄文期の黒曜石製石鏃と、彌生期と推定される磨製の石鏃少量である。

○１０２ 塚穴遺跡 上田市大字殿城字塚穴

赤坂の集落から、菅平有料道路に向う道路の南側、塚穴古墳の周辺約１０,０００㎡が包蔵地で、土師国分期の内黒・糸切底の杯片やかめ、須恵器の杯片などが表採される。一帯は一部が畑、大部分が水田に利用されている。保存状態は良好と思われる。

○１０３ 山越遺跡 上田市大字殿城字山越

塚穴遺跡の南西に、農道をはさんで所在する水田地帯の遺跡で、分布範囲はおよそ5,０００㎡、塚穴遺跡と同期一体の遺跡と推定され、土師国分期の杯・かめの破片、須恵器片が表採される。保存状態は良好と思われる。

第２図 赤坂地区の遺跡景観（塚穴古墳より）

○１０４　日向遺跡　上田市大字殿城字日向

赤坂集落の北側に伸びる台地の南斜面で、大部分が畑、一部が宅地に利用されている。包蔵地の範囲は、およそ１５,０００㎡にわたり、縄文中期の加曾利Ｅ式土器、彌生後期箱清水式土器、古墳時代から歴史時代におよぶ広範な遺物を出土する。

○１０５　上組遺跡　上田市大字殿城字上組

赤坂集落東端付近から集落内にかけて分布し、一部畑、大部分は宅地内に分布し、範囲は明確でないが、およそ分布範囲は５,０００㎡にわたり、西側には同時期の山崎遺跡が展開する。出土遺物は古墳時代中・後期の坏片やかめの破片で、保存状態は宅地内が悪い。

○１０６　日影遺跡　上田市大字殿城字日影

赤坂集落の南側に伸びる台地の麓に、帯状に広がる遺跡で、古墳時代後期の坏片などを検出し、現状は大部分が畑で、保存状態は良好と思われる。

○１０７　十貫遺跡　上田市大字殿城字十貫

殿城山西麓の台地西南斜面に位し、畑に利用されている地籍の遺跡である。出土遺物は、縄文中期と推定される無文の土器片で、分布範囲はおよそ５,０００㎡と思われる。

○１０８　山崎遺跡　上田市大字殿城字山崎

赤坂集落中央部に位する遺跡で、歴史時代（奈良・平安）の遺物を出土し、分布範囲はおよそ５,０００㎡にわたり、大部分が宅地内に位している。

○１０９　石矢遺跡　上田市大字殿城字石矢

赤坂集落西部の畑、および宅地内に分布し、遺物が豊富で、この地域を代表する遺跡である。採集された遺物は、縄文中期の初頭型式・勝坂式・加曾利Ｅ式などの土器、石鏃・打製石斧・磨製石斧・石皿、彌生後期の箱清水式土器、施釉陶器を伴なう古墳時代後期から平安時代にわたる土師器などで、遺跡内に赤坂将軍塚古墳がある。分布範囲はおよそ３０,０００㎡で、保存状態も比較的良好である。

○１１０　托田遺跡　上田市大字殿城字托田

赤坂集落西端の畑および水田地帯の遺跡である。縄文中期加曾利Ｅ式・土師後期の遺物が、およそ４,０００㎡にわたって散布し、保存状態は良好と思われる。

○１１１　北屋敷遺跡　上田市大字殿城字北屋敷

良泉禅寺周辺から城山北方にわたる畑地の遺跡で、一部が宅地に利用されている。縄文中期の加曾利Ｅ式土器・石鏃・凹石・砥石、土師前・中期の坏・甕・かめの破片などが出土している。

○１１２　下左口遺跡　上田市大字殿城字下左口

城山から岩清水に登る道路の北側の畑地で、縄文期の黒曜石製石鏃が少量出土している。

○１１３　城山遺跡　上田市殿城字城山

矢沢城跡のある城山緑辺の畑地から、縄文前期の下島式土器・石鏃・打製石斧・凹石などが検出されている。殿城地籍で前期の遺物を出土する唯一の遺跡で、保存状態は良好である。

○１１４　上組遺跡　上田市大字殿城字上組

伊勢山方面から矢沢集落に入る地籍の畑および水田内の遺跡で、晩期に属する須恵器の杯破片などが出土している。分布範囲はおよそ2,５００㎡で、保存状態は良好である。

○１１５　宿組遺跡　上田市大字殿城字宿組

神川に面した矢沢川南岸の遺跡で、矢沢集落の西裏畑地内に後・晩期の土師・須恵器の坏片などが微量検出される。分布範囲は、およそ３,０００㎡にわたっているが、更に、住宅地域も含まれるものと思われる　保存状態は概ね良好である。

○１１６　平沢遺跡　上田市殿城字平沢

城山西麓の神川に面した樋ノ口沢扇状地上に、土師・須恵器後期の坏片が微量散布する。大部分が畑地で、およそ３,０００㎡にわたり、保存状態は良好と思われる。なお、この地籍に古墳が所在したものと推定される。石積等数個所が点在している。

○１１７　石坪遺跡　上田市大字殿城字石坪

神川に面した下郷集落の北端畑地内に所在する弥生後期箱清水期の遺跡である。出土遺物は少ないが、およそ２,５００㎡にわたって分布し、保存状態は良好である。

○１１８　下樋口遺跡　上田市大字殿城字下樋口

矢沢集落南端の第１段丘端に位置し、大部分が水田、一部が畑地に利用され、後期の土師・須恵器を微量出土する。水田地帯のため、範囲は明確でないが、およそ３,０００㎡にわたるものと推定される。

○１１９　岩清水遺跡　上田市大字殿城字岩清水

殿城山山麓の内堀神社付近に所在する縄文時代の遺跡で、黒曜石製石鏃・石屑などが出土している。遺物が微量のため、範囲は明確でない。

○１２０　氷沢遺跡　上田市大字殿城字氷沢

行沢川の東岸、氷沢集落の西南端の畑地と水田地帯にある遺跡で、工事の際に大量の縄文中期加曾利Ｅ式土器、土師後期の坏・台付甕などが出土した。遺跡は水田地帯のため、範囲は明確でないが、保存状態は良好と思われる。

○１２１　中村遺跡　上田市大字殿城字中村

下郷集落のほぼ中央にある遺跡で、弥生後期の箱清水式土器片、後・晩期の土師・須恵器の坏片などが出土する。分布範囲は宅地と畑地などにわたるおよそ１０,０００㎡で、宅地内の一部破壊が予想される。

○１２２　神林遺跡　上田字大字殿城字神林

神川にかかる下郷橋を東岸に渡って、段丘崖の急坂を登ると、左（北）右に　畑地が広がっている。この第２段丘面上の台地が遺跡であり、およそ１５,０００㎡にわたって、縄文晩期の佐野式、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器の坏・かめの破片などが濃密に散布している。しかし、遺跡の南半分は、上田市農協の選果場建設等によって破壊された。また、この遺跡から鎌倉期の灰釉四耳壺が出土した。

○１２３　長沢遺跡　上田市大字殿城字長沢

神林遺跡の南側に続く水田地帯の遺跡で、神林遺跡とほぼ同期一体の遺跡と考えられる。遺物は弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器の破片が、５,０００㎡にわたって濃密に出土する。

○１２４　法楽寺遺跡　上田市大字殿城字法楽寺

漆戸の北西にあたる神川東岸第２段丘端の遺跡である。大部分が水田地帯で、範囲はおよそ１５,０００㎡にわたり、縄文中期の土器片・磨製石斧・石棒、後期の土師・須恵器の破片などが出土している。

○１２５　北ノ平遺跡　上田市大字漆戸字北ノ平

下郷集落の南方にあたる第１段丘崖下の畑地の遺跡で、後期の土師器が少量表採された。範囲はおよそ２,５００㎡にわたり、保存状態は良好と思われる。

○１２６　堂下遺跡　上田市大字漆戸字北ノ平

漆戸集落の西方に続く、第２段丘面の水田地帯の遺跡である。およそ１０,０００㎡にわたって、縄文中期の加曽利Ｅ式、後期の堀之内式の土器片・打製石斧・石棒・土偶、弥生後期の箱清水式土器片、後期の土師器片などが出土している。

○１２７　ヤチ原遺跡　上田市大字漆戸字ヤチ原

堂下遺跡の北方に位置するブドウ畑内の遺跡で、縄文中期の土器片・磨製石斧・石棒が出土し、分布範囲はおよそ２,５００㎡である。

○１２８　西ノ平遺跡　上田市大字漆戸字西ノ平

神川東岸の第２段丘面上の微高地にあり、広域農道の路線工事によって、遺跡の西南端が切

断される。遺跡は水田地帯の4,000㎡にわたり、弥生後期の箱清水式土器片が表採されている。

○129 茅御堂遺跡　上田市大字漆戸字茅御堂

漆戸から林之郷に至る農道と、広域農道が交わる地点の水田地帯に所在する遺跡である。分布範囲はおよそ3,000㎡で、箱清水期の弥生後期の土器を出土し、西ノ平遺跡と同期一体の遺跡と考えられる。

○130 境田遺跡　上田市大字林之郷字境田

林之郷集落の北端から東方へ向う道路を、およそ150mほど進むと、漆戸へ通ずる農道と交わるが、この地点の北西畑地に所在する遺跡である。分布範囲はおよそ2,500㎡で、縄文中期の土器片、打製石斧、弥生後期の箱清水期の遺物が出土している。保存状態は良好である。

○131 貝戸遺跡　上田市林之郷字貝戸

境田遺跡の南側に、道路を境にして接する遺跡である。分布範囲はおよそ2,500㎡で、畑地に利用され、後・晩期の土師・須恵器を出土する。保存状態は良好と思われる。

○132 池田遺跡　上田市大字林之郷字池田

林之郷集落のほぼ中央南寄り地域の東方畑地内に所在する遺跡で、弥生後期の箱清水式土器片や前期から晩期の土師器、後期の須恵器などが、およそ3,000㎡にわたって散布している。

○133 太田遺跡　上田市大字林之郷字太田

神川東岸の第2段丘面の畑地や水田地帯に所在する遺跡で、広域農道がほぼ中央を切断する。遺物は後・晩期の土師器と須恵器が、およそ3,000㎡にわたって散布している。

○134 狐塚遺跡　上田市大字林之郷字狐塚

林之郷集落のほぼ南端東部地域の畑地内に所在する遺跡で、縄文期の石鏃、弥生後期の箱清水式土器が、およそ3,500㎡にわたって出土している。

○135 松ノ木遺跡　上田市大字林之郷字松ノ木

笹井から神川を渡った地点の段丘端に近い第2段丘面上の遺跡で、縄文期の石鏃、後・晩期の土師器などが出土している。分布範囲は、およそ5,000㎡にわたり、大部分が畑地で、保存状態は良好と思われる。

○136 下ノ畑遺跡　上田市大字林之郷字下ノ畑

松ノ木遺跡と道路を隔てて東方に接する遺跡で、およそ5,000㎡にわたって、弥生後期の箱清水式土器が散布している。大部分が畑地で、保存状態は良好と思われる。

○１３７　木ノ上遺跡　上田市大字芳田字木ノ上

行沢川扇状地の扇頂部に位置し、大日霊神社の周辺畑地が遺跡である。包蔵地の範囲はおよそ8,０００㎡で、縄文中期の勝坂式土器・石鏃・打製石斧・磨製石斧・石匙・擦石・凹石、弥生後期の箱清水式の土器片、土師後期の坏・かめの破片など、多様な遺物が出土している。

○１３８　大木遺跡　上田市大字芳田字大木

木ノ上遺跡の西側に続く、行沢川南岸の畑地が遺跡である。遺物は縄文中期の勝坂式・加曽利Ｅ式、縄文後期の堀之内式などの土器片・石鏃・打製石斧・石匙、弥生後期の箱清水式土器の破片、後期の土師・須恵器の坏片などが出土している。遺跡の範囲は、およそ１０,０００㎡である。

○１３９　大日ノ木遺跡　上田市大字芳田字大日ノ木

瀬沢川の扇状地の扇頂部にあたる大日ノ木集落の南端にあり、土師中期の坏・かめの破片が少量出土する。包蔵地の範囲は、5,０００㎡と推定され、畑に利用されている。

○１４０　長入遺跡　上田市大字芳田字長入

瀬沢川に沿った長入集落西端の畑地で、縄文期の石鏃が微量出土している。

○１４１　井戸田遺跡　上田市大字芳田字井戸田

瀬沢川扇状地の扇端部にあたる豊里農協南面の畑および水田地帯のおよそ1,０００㎡が遺跡である。遺物は縄文中期の加曽利Ｅ式の土器片・石鏃・打製石斧・凹石・砥石、弥生後期の箱清水式の土器片、土師中期から晩期の坏・かめ、須恵後期のかめ・器台付皿・糸切底の杯・皿などの破片が出土している。なお、滑石製の勾玉や碧玉製の管玉なども出土しているので、全壊した古墳のあったことが考えられる。

○１４２　尾無遺跡　上田市大字芳田字尾無

小井田の中央から瀬沢川沿に２００ｍほど北方に登った地点を、更に東に折れて川を渡った付近から山麓にかけての畑地が遺跡である。縄文中期の加曽利Ｅ式の土器片、後期の土師杯片などが、およそ5,０００㎡にわたって表採されを。

○１４３　北沖遺跡　上田市大字芳田字北沖

中吉田集落の東北部果樹園内にあり、縄文期の石鏃を出土しているが、範囲は明らかでない。

○１４４　戎田遺跡　上田市大字芳田字戎田

中吉田の中央から小井田に向う道路の西方およそ5,０００㎡の果樹園内が遺跡である。土師後期の坏・甑の破片などが出土している。

○１４５　横石遺跡　上田市大字芳田字横石

中吉田の中央から東深井に向って、およそ３００ｍほど進んだ地点の東側の傾斜地が遺跡である。包蔵地の範囲は、およそ3,０００㎡の畑地で、後期の土師坏片などが表採された。

○１４６　南裏遺跡　上田市大字芳田字南裏

横石遺跡の西側に続く遺跡で、成沢川によって形成された扇状地の扇端部に位置する畑地、およそ１０,０００㎡にわたって縄文中期の土器片、後期の土師・須恵器の坏・かめの破片などが出土している。

○１４７　前田遺跡　上田市大字芳田字前田

成沢川扇状地の扇端部にあり、南裏遺跡の西方に続く水田および一部畑地が遺跡である。出土遺物は後期の土師・須恵器の坏片などで、範囲はおよそ2,５００㎡にわたっている。

○１４８　日向畑遺跡　上田市大字芳田字日向畑

中吉田集落の西端付近から、東深井に向う農道を２００ｍほど進んだ地点の西南緩斜面の畑地、およそ１０,０００㎡が遺跡である。後・晩期の土師・須恵器の坏片などが表採される。

○１４９　下宿遺跡　上田市大字芳田字下宿

中吉田集落の西端から、町吉田中央と南端の双方へ向う２本の道路が走っているが、この道路の内側の畑地から、後期の土師・須恵器が表採された。大部分が水田のため範囲は明確でない。

○１５０　荒神田遺跡　上田市大字芳田字荒神田

下宿遺跡と同じ道路に囲まれたその西側に続く遺跡で、ほとんどが水田であり、僅かな畑地の中から、後期の土師・須恵器が少量表採された。

○１５１　治郎淵遺跡　上田市大字芳田字治郎淵

西深井から北へ登った東部町との境界に接する遺跡で、果樹園や水田内に広く遺物が散布している。遺物は縄文中期の勝坂式の土器片、弥生後期の箱清水式土器の破片、前期から晩期に至る各種土師器片、後期の須恵器片などが出土している。なお、特殊遺跡の項にあげた子持勾玉も、この遺跡から出土している。分布範囲は、およそ１５,０００㎡である。

○１５２　無量寺遺跡　上田市大字芳田字無量寺

治郎淵遺跡の北西から、下宿遺跡の南側にわたる果樹園、桑畑などに分布する縄文中期の加曽利Ｅ式、弥生後期の箱清水式、土師の前期から晩期、後期の須恵器など、多様な遺物を出土する遺跡である。遺物の種類から、治郎淵遺跡と一体をなすものと考えられ、分布範囲は、およそ１０,０００㎡である。

○１５３　今井遺跡　上田市大字芳田字今井

治郎淵・無量寺両遺跡の西側畑地内にある遺跡で、後・晩期の土師・須恵器を出土する。範囲は更に西側の水田地帯へ伸びるものと考えられるが、確認されたのは、畑地内のおよそ5.０００㎡である。

○１５４　訳口上遺跡　上田市大字芳田字訳口上

町吉田集落の南端から南東の水田地帯にわたる遺跡で、後期の土師・須恵器が、北部の畑地内から僅かに表採された。分布範囲は水田地帯のため確認できなかった。

Ｂ　古　墳

○１０１～１１０　氷沢古墳群　上田市大字殿城字日向・下日向・氷沢

氷沢集落の北端から、岩清水へ向って小道を３００ｍほど登ると、大きく「逆くの字形」に道路が屈折する。このカーブを曲りきって、４０ｍほど進んだ左手（南側）のブドウ畑内に、まず１号墳がある。墳丘は全壊し、石室はほぼ原形を保っている。この標高７５０ｍ地点の古墳を最高部として、「くの字形」カーブから南東に１５０ｍほど下った急斜面の水田地帯の標高２１５ｍ付近に、２・３号墳が東西に並んでいる。２号墳は僅かに玄室の一部を残し、奥壁幅2.7ｍで大石を上下に2枚重ね、側壁には基礎の大石の上に小口積をしている。西壁の残存部は奥行1.7ｍ、東壁の残存部は、奥行6.1ｍである。

３号墳は耕作時の材料置場に利用されているらしく、実測は困難をきわめた。奥壁は大石を2枚上下に重ね、幅約1.2ｍ、側壁は１ｍ×0.5ｍ前後の大石を基礎に、上部にも比較的大きな石を乱積状の小口積にしている。羨道部は完全に破壊されているが、玄室部の側壁は、西壁の奥行2.5ｍ、東壁の奥行２ｍが残り、上部を持ち出しにして、天井に2枚の平石を残している。

４号墳は、そこから５０ｍほど南に下がった畦畔にあり、ここも農耕時の物置にされている。墳丘と羨道部は、原形をとどめないが、玄室の一部が残り、奥壁幅が1.1ｍ、高さ（現状）が

第３図　氷沢第４号墳の石室

1.3m、大石を上下に2枚重ねている。側壁は東西とも2.3mほど残り、大石を乱積状に小口積にし、上部を持ち出して、上に天井石を2枚残している。

5号墳は、氷沢集落北端の道路脇西段丘上のくるみの根元にあったが、最近破壊されて、全く原形をとどめない。6号墳は集落中央の庭先にあったが破壊。7～10号墳は、2・3号墳の北方に3基、4号墳の東方に1基、僅かに大石を残して、その面影をとどめる程度である。

この古墳群は、かつて13基の小円墳が点在したといわれる。しかし、村の人びとの記憶をたどって追究したが、遂に10基しか確認できなかった。時期的には7c前半から後半にわたる後期の群集墳と考えてよかろう。

○111　城山古墳　上田市大字殿城字城山

城山にあり、勾玉などを出土したといわれるが、全壊し僅かに大石を残すのみである。大正期には、玄室幅1.2m、奥行2.4mほどと計測されているから、既にそのころには、玄室の一部を残して破壊されていたものと思われる。

○112　赤坂将軍塚古墳　上田市大字殿城字石矢1340番地

矢沢方面から赤坂の集落に入って200mほど北東に進んだ道路の右（南）側、およそ20mの山麓台地上にあり、この地方の代表的古墳として、市指定文化財となっている。墳丘の規模は、東西径18m、南北径17mの円墳であり、石室は片袖のやや狭くなった両袖型横穴式で、奥壁部幅1.9m、高さ2.9m、玄室の奥行5m、最大幅2.35m、羨道部奥行3.5m、玄門幅1.5m、羨門幅1.3m、玄門高さ1.6mで南西15°に向けて開口している。奥壁は大石を2枚重ねて築き、側壁は基礎に3個の大石を配し、その上部と羨門部は平石を小口積にして、天井には玄室部に3枚、羨道部に3枚の平石をのせている。

○113　塚穴古墳　上田市大字殿城字塚穴

赤坂集落の東北端から、菅平有料道路の方向に、およそ100mほど登った台地の斜面にあり、南東部は水田面で大きく削られ、北西部が比較的よく残っている。墳丘の構造は、およそ60cm間隔の葺石によって段築され、現状の規模は、南北径が7.5m、東西径が7m、高さが2.8mで、各葺石の稜線がほぼ直線的にとおり、東西・南北両稜線の交わるところに、稜角が認められるところから、葺石段築の方墳と考えてよいのではないか。なお、今後の精査によって確認されることを期待する。石室の内部構造は、片袖型横穴式で、奥壁部幅が173cm、高さが146cm、大きな平石を2枚立てて重ね、側壁は基部に平石を立て、上部で平石を横に用いて小口積にしている。玄室東壁の奥行は2.6m、西壁の奥行は2.3m、右袖幅が82cm、玄門幅が80cm、高さが75cm、羨道西壁の奥行が1.1m、東壁は全壊している。玄室の天井石

には大きな平石を２枚、羨道には１枚が使われている。玄室の床面は、玄門部で楣石を境に42㎝ほど地下に堀り下げ、右袖に箱形石棺の一部と思われる平石が１枚残っている。

○１１４～１２７　下郷古墳群　上田市大字殿城字神林・長沢・中村

下郷古墳群は、大正期ごろまでは墳丘の形態が明らかなもの３基を含めて、計１４基の所在がほぼ明らかであったといわれる。しかし、現在その痕跡をとどめるもの８基、３基は昨年工事によって湮滅され、更に３基は土地の人の記憶によって、ようやく所在が明らかにされた程度である。

１号墳は、下郷橋から東岸へ段丘崖を登った地点から、神川沿いに下郷集落中央へ向う農道の岐点より約１００ｍ地点の東側の桑畑の約１５ｍのところにある。わずかに奥壁と西側壁の１枚を残し、上には祠と五輪塔の風空・火輪がのっている。かつて直刀・玉類・金環等を出土した。

２号墳は、１号墳の東方約５０ｍのところにあり、僅かに積石の大石２個を残している。

３号墳は、１号墳の東南南約３０ｍのところにあり、奥壁と石積の石塊が山をなしている。４号墳は３号墳の東方約３０ｍ、５号墳は更にそこから約３０ｍほどの地点にあったといわれ、現在は石塊のみを残している。

６号と７号は、下郷橋から登った道路の南側、すなわち農協選果場の西北段丘崖上に１基、そこから５０ｍ南の地点に１基、かなりの石積の石塊が墳丘状をなしていたが、工事で２基とも湮滅された。

８・９・１０号墳の３基は、選果場の南方水田の中にあり、８号墳は最近まで石塊が残り、９号墳からは直刀２振と鉄鏃等、１０号墳からは鏡が出土している。

１１・１２・１３号墳は、７号墳の南方にあったといわれるが、１１号墳がおよそ７号墳の４０ｍ南に山積の石塊を認めた他は、現在全く痕跡をとどめない。更にこの古墳も最近の工事で完全に湮滅された。

１４号墳は、１号墳から更に北東へ１００ｍほど進んだ地点の南側にあり、直刀を出土した古墳で、現在は石塊のところに墓石がおかれている。

○１２８　柴崎古墳　上田市大字芳田字柴崎

豊里農協の東方から大日ノ木方面へ向う道路の北西約１００ｍの桑畑内に僅かに石塊を残している。かつて直刀・金環などを出土した。なお、農協東南方の井戸田地籍からも、勾玉・管玉を出土しているので、古墳の所在が推定される。

○１２９　大日ノ木古墳　上田市大字芳田大日ノ木

大日靈神社脇から５０ｍほど宮之上方面へ進んだ道路の北側の社地裏手にあり、径１２ｍ・高さ７ｍの円墳で、墳頂には雑木が密生している。一度発掘して埋戻したといわれるが、墳丘はおよそ原形を保っている。

○１３０　日ノ井古墳　上田市大字林之郷字塚田

笹井から境橋を渡って、段丘崖を南へ登りつめた地点の右（西）側段丘端墓地内にあり、墳丘が破壊されて、石室が露出している。径およそ９ｍ、円墳と推定される。

○１３１～１３２　矢沢１・２号墳　上田市殿城字矢沢

殿城農協の北と南にあり、いずれも破壊されて、僅かに積石の一部を残している。

c　特殊遺跡

○０１０　下郷窯業址　上田市大字殿城字中村５７９

下郷集落のほぼ中央から神川沿いの農道を１００ｍばかり進んだ段丘端にあり、昭和４８年２月に上田市教育委員会が行った調査の結果、江戸後期の半地下式登り窯と判明した。

○０５２　治郎淵遺跡　上田市大字芳田字治郎淵

成沢川扇状地の扇端部にあり、西深井から中吉田へ向って、東部町地籍から上田市へ入った部分の遺跡である。しかし、遺跡の範囲は、両市町にわたり、縄文・彌生・土師・須恵などの遺物とともに子持勾玉を出土している。

2.　神科・神川地区の遺跡

神科地区は、虚空蔵山（６７２ｍ）の麓の標高５８０ｍ地点を頂点として、南方に広く展開する神川扇状地の染屋面（第１段丘面）と、洗馬地方に通ずる伊勢山狭隘、矢出沢川上流の金剛寺などからなっている。

神川地区は、標高５００ｍの等高線によって終る染屋面の段丘崖下に広がる国分面（第２段丘面）と、その段丘崖下にある八日堂面（第３段丘面）、千曲川の氾濫原に広がる下堀面（第４段丘面）、そして、神川の左岸に展開する新町面（第１段丘面）と、約１０～１２ｍの段丘崖の下に続く宵木面（第２段丘面）、第３段丘面の久保林面からなり、大屋・岩下などは、この第３段丘面に立地する集落である。

この地区は、旧神科村と神川村の全域にわたる地域で、天平の姿を伝える信濃国分寺史跡公園は、旧神川村大字国分字仁王堂地籍におかれている。

神科村は、明治２２年に上野・古里・住吉などと、上田町の蛇沢・金井２地区を合併して成立し、昭和３２年８月に上田市に合併して現在に至っている。このうち、上野村は旧塚原村が幕藩時代に伊勢山・新山（寛永１）２村に分かれ、明治３（１８７０）年に再び合併して成立した。古里村は、明治１０年に染屋・笹井・岩門・野竹４か村が合併して成立し、住吉村は旧東条村が、金剛寺・長島２村に分かれ、更に金剛寺村が金剛寺村と金剛寺新田村に分かれたが、明治７年にこれらを合併して誕生した。

神川村は、明治２２年に大屋・蒼久保・岩下・国分４か村を合併して成立し、昭和３１年９月に上田市と合併した。そのうち大屋村は旧片貝村であり、蒼久保村は旧青木村が、まず上青木・下青木２村に分かれ、更に、上青木村が幕藩時代に上青木村、久保林村（寛永１）に分かれたが、明治９年にこれらを合併して成立した。岩下村は変化がなく、国分村は幕藩時代に国分寺村（寛永２）が、国分寺・上沢・堀・黒坪４か村に分かれ、再び明治９年に合併したものである。

(1) 縄文時代の遺跡

この地区の縄文期の遺跡は、戸石城の麓に内小屋・上野東、矢出沢川上流に蔵王・東条・大久保地籍に入詰・中道など、石鏃や打製石斧・石錐などの石器のみが発見された遺跡の他、中期の加曾利E式（掛ノ宮・富士見台・松ノ木・中村Ⅰ・村前・浦沖・前田）と後期の堀之内式（浦沖）・加曾利B式（中村Ⅰ・浦沖）などの土器を出土する計１６遺跡がある。その分布は、山麓付近か第１段丘面の縁辺、扇端部に近い第２段丘面、あるいは第３段丘面の浦沖などで、氾濫原の一部といわれる前田地籍にも、微量であるが磨滅のみられない中期の土器片が表採された。

(2) 弥生時代の遺跡

弥生期の遺跡は、後期の箱清水式Ⅰ・Ⅱの時期に属し、谷口の上テ村・中道と、染屋面の縁辺に分布する矢花・篠井久保・松ノ木・大沢、第２段丘面の愛染・上沢沖・堂西・赤塚・中村Ⅱ、第３段丘面の浦沖・仁王堂・堀・西沖などがある。このうち左岸の中村Ⅱと創建時の信濃国分寺跡の南東に接する仁王堂・浦沖の３遺跡は遺物が多い。また、染屋面の中央部に近い位置から、工事中に弥生後期の土器片を出土した西ノ手遺跡の存在は注目される。

(3) 古墳時代の遺跡

後期の群集墳が、矢花と左岸の中村地籍、第３段丘面の道場・西沖地籍などに分布し、更に、伊勢山狭隘の横山とその山麓、染屋面の段丘崖縁辺などに、計３基が点在する。いずれも７Cご

ろの円墳と推定される。

この時期の遺跡は、およそその古墳の周辺に分布している。

(4) 歴史時代の遺跡

創建時と再建された信濃国分寺跡の２期の塔寺跡をはじめ、信濃国分寺に関連するものと思われる注目すべき遺跡が多い。信越線の複線化に伴って、昭和４６年に発掘された明神前遺跡は、密集する遺構群とともに、タタラ址や多数の墨書土器・信濃国分寺の鐙瓦を出土し、現国分寺の北東にある堂浦遺跡も、同期の多量の遺物を出土する重要な遺跡である。

特殊遺跡としては、信濃国分寺瓦窯址や染屋焼関係の窯業址があり、いずれも後世に伝えたい貴重な文化遺産である。これらは第２・第３段丘面を中心にして広く分布している。

A 遺 跡（遺物包蔵地）

○２０１ 内小山遺跡 上田市大字伊勢山字内小屋

伊勢山の陽泰寺から、更に北西へ１００ｍほど進んだ神川の右岸段丘上の畑地にあり、縄文期の石鏃・凹石、後期の土師器などを出土している。

○２０２ 上野東遺跡 上田市大字伊勢山字上野東

神科小学校の北側に続く横山の北東台地上にあり、縄文期の石鏃を出土している。

○２０３ 蔵王遺跡 上田市大字住吉字蔵王

金剛寺集落の北端から、更に矢出沢川沿いに約５００ｍほど登った畑地にあり、縄文期の石鏃や打製石斧を出土している。

○２０４ 上テ村遺跡 上田市大字住吉字上テ村

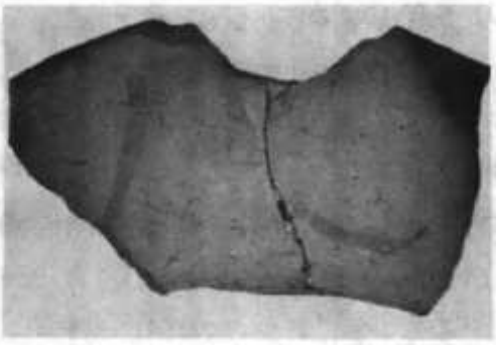
金剛寺集落のほぼ中央にあり、大部分は宅地であるが、畑地や工事中などに、弥生後期の箱清水式・後期の須恵器などが採集されている。

○２０５ 入詰遺跡 上田市大字住吉字入詰

大久保集落の北端から、更に６００ｍほど進んだ畑地から、縄文期の石鏃が出土している。

○２０６ 中道遺跡 上田市大字住吉字中道

大久保集落の中央やや東寄りの畑地と宅地内の5,000㎡にわたり、縄文期の石鏃、弥生後



第４図 墨書土器「八」明神前遺跡出土

期の箱清水式土器・晩期の土師器の破片などが採集されている。

○２０７　熱泰寺遺跡　上田市大字住吉字熱泰寺

長島の矢出沢川右岸の畑地から縄文期の石錐が採集されている。

○２０８　矢花遺跡　上田市大字上野字矢花

神川扇状地の扇頂部にあたる右岸の矢花集落南部にあり、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器の破片などが１０,０００㎡にわたって採集される。また、この一帯に後期の小円墳が点在し、新屋古墳群を形成している。

○２０９　篠井久保遺跡　上田市大字古里字篠井久保

神川の氾濫原にあり、笹井集落の公会堂から北方へ２００ｍほど進んだ畑地で、耕作中に石組遺構や弥生後期の箱清水式、後期の土師器の破片などが出土した。分布範囲は明らかでない。

○２１０　神の嶽遺跡　上田市大字古里字神ノ嶽

笹井集落の西北方にあたり、染屋面の東段丘端付近に位置する。土木工事中に、大量の後・晩期の土師・須恵器、施釉陶器の破片などが出土した。水田地帯のため、分布範囲は明らかでない。

○２１１　掛ノ宮遺跡　上田市大字古里字掛ノ宮

笹井集落の南端部の県道小諸上田線の東側水田内にあり、分布範囲はおよそ２,４００㎡である。染屋面の東段丘崖に接し、畑地を開田する際に、大量の縄文中期加曾利Ｅ式、前・中期の土師器の破片などを出土した。

○２１２　社宮遺跡　上田市大字古里字社宮

岩門神社（諏訪社）の西南の畑地内から、およそ３,０００㎡にわたって、後期の土師・須恵器の坏・かめの破片が出土する。また、その一角には、社宮寺古墳が残っている。

○２１３　東ノ手遺跡　上田市大字古里字東ノ手

野竹集落の西端部にあり、後・晩期の土師器が表採された。しかし、周辺が水田地帯のため、分布範囲は明らかでない。

○２１４　西ノ手遺跡　上田市大字古里字西ノ手

西野竹集落の中央部から北方の畑地にかけて、弥生後期の箱清水式、中期から晩期の土師器、後期の須恵器などが出土している。なお、昭和初年に作業場を建築した際にも、土師器を出土したと伝えられる。分布範囲はおよそ１０,０００㎡と推定される。

○２１５　篠井原遺跡　上田市大字古里字篠井原

笹井の南端部から３００ｍほど西方へ寄った地点で、後・晩期の土師・須恵器が出土してい

る。水田地帯のため、工事中に出土した資料を参考にしたので、分布範囲は明らかでない。

○２１６　富士見台遺跡　上田市大字古里字富士見台

染屋面の東端笹井と、西端の小岩門とのほぼ中間地点にあり、工事の際に縄文中期の加曾利E式、後・晩期の土師・須恵器などの破片を出土した。分布範囲は明らかでない。

○２１７　松ノ木遺跡　上田市大字古里字松ノ木

小岩門集落の北西部畑地を中心にして、およそ１０,０００㎡にわたって分布し、縄文中期の加曾利E式土器・打製石斧、弥生後期の箱清水式土器、後・晩期の土師・須恵器・中世の陶磁器などを出土する。更に、創建信濃国分寺跡のものと同時期の布目瓦が、工事中に出土したといわれる資料の中に混入していたが、出土状態が明らかでないので、遺跡名表には登載しなかった。

○２１８　英遺跡　上田市大字古里字英

染屋面の西端、染屋集落の南部の畑地と宅地内にあり、縄文期の石鏃、後期の土師・須恵器を出土している。分布範囲は、およそ１０,０００㎡である。

○２１９　愛染遺跡　上田市大字古里字愛染

県道小諸上田線を染屋面から、西方の上田面へ下った地点の段丘崖直下の遺跡である。ブドウ畑およそ4,０００㎡の中に、弥生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器の破片が表採される。

○２２０　中村Ⅰ遺跡　上田市大字蒼久保字中村Ⅰ

神川の左岸青木面の龍洞院北西方畑地、およそ２０,０００㎡にわたって、縄文中期の加曾利E式、後期の加曾利B式などの遺物を出土する。遺物が多く、この地区の代表的遺跡の一つである。

○２２１　中村Ⅱ遺跡　上田市大字蒼久保字中村Ⅱ

神川の左岸青木面の西端部にあり、梅が丘団地とその周辺地域が遺跡である。弥生後期の箱清水式の土器片を豊富に出土する、およそ３０,０００㎡にわたる広大な遺跡であるが、団地造成により、大部分が破壊された。

○２２２　村前遺跡　上田市大字蒼久保字村前

下青木集落の南方およそ３００ｍの水田地帯にある遺跡で、青木面の扇端部に位置している。縄文中期の加曾利E式土器の破片を微量表採したが、分布範囲は明確でない。

○２２３　イナゴ坂遺跡　上田市大字大屋字イナゴ坂

岩下からみすず台南へ登る段丘崖下の南面の畑地で、縄文期の石鏃を出土している。しかし、出土遺物が微量で、範囲は明確でない。

○２２４　上沢沖遺跡　上田市大字国分字上沢沖

国分面東南端の八幡宮国分神社の東方畑地、およそ１０,０００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器の破片が豊富に出土している。最近宅地化が進み、破壊が予想される。

○２２５　浦沖遺跡　上田市大字国分字浦沖

八日堂面の信濃国分寺跡東方に隣接する遺跡で、北半部の国道１８号線付近は、すでに大部分が破壊されている。縄文中期の加曾利Ｅ式、後期の堀之内式・加曾利Ｂ式などの土器片・石鏃・打製石斧・磨製石斧・石棒・石皿・凹石、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器の破片などの豊富な遺物を出土する。分布範囲は、およそ２０,０００㎡にわたるが、宅地化などによる破壊が進行している。

○２２６　前田遺跡　上田市大字国分字前田

上沢公民館の東南から、８０ｍほど南下した地点の西方畑地付近が遺跡である。南北が宅地化されており、範囲は明確でないが、縄文中期の加曾利Ｅ式土器の破片が表採された。

○２２７　大沢遺跡　上田市大字国分字大沢

現国分寺の東方から染屋面へのぼって、水田地帯を２５０ｍほど西北方へ寄ったところと、その段丘崖の下の畑から、弥生後期の箱清水式、後期の土師器の破片を表採した。水田地帯のため、分布範囲は明確でない。

○２２８　古城遺跡　上田市大字国分字古城

現国分寺の東北方の染屋面段丘崖の下の畑、およそ５,０００㎡にわたって、後期の土師器片が表採された。

○２２９　堂浦遺跡　上田市大字国分字堂浦

現国分寺の北方に位置し、水田地帯からは、再建信濃国分寺跡の伽藍の一部と推定される礎石群が認められ、また、その東方のおよそ１５,０００㎡の微高地は、後・晩期の土師・須恵器、施釉陶器の破片が濃密に分布している。この遺跡は、信濃国分寺跡との関係が予想される貴重なものであるが、最近上田市農協が、ここに宅地造成を開始し、一部を破壊した。

○２３０　屋敷遺跡　上田市大字国分字屋敷

現国分寺の西方にあたる国分集落内の畑と宅地、およそ２０,０００㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器が出土している。この遺跡も、堂浦遺跡と同様な重要性をもつものと考えられる。

○２３１　仁王堂遺跡　上田市大字国分字仁王堂

創建信濃国分寺跡内と、その東南方に続く遺跡である。分布範囲はおよそ４０,０００㎡におよぶ広大な遺跡で、彌生後期の箱清水式と、前期から晩期にわたる土師器、後期の須恵器などを出土し、石組かまど址が寺域から検出されている。この遺跡は、寺院関係出土品とともに、創建信濃国分寺跡の年代考証の上に、欠くことのできない重要な遺跡である。

○２３２　明神前遺跡　上田市大字国分字明神前

信濃国分尼寺跡の西方に隣接する遺跡であり、大部分は信越線の敷設、旧上田・丸子電鉄線の敷設工事によって破壊されたが、昭和４６年の発掘調査により、創建信濃国分寺跡のものと考えられる鐙瓦・平瓦そして多数の墨書土器・メタラ址、幾重にも複合する９個の方形遺構・６基の石組かまど址などが検出され、信濃国分寺跡との深い関係を示唆した。出土遺物は後・晩期の土師・須恵器、施釉陶器、鉄器などで、分布範囲はおよそ１０,０００㎡である。

○２３３　堀遺跡　上田市大字国分字堀

明神前遺跡の南方にあたる下堀集落の西部にあり、彌生後期の箱清水式、後・晩期の土師器の破片などを出土する。分布範囲はおよそ5,０００㎡である。

○２３４　西沖遺跡　上田市大字国分字西沖

下堀集落の西北方から、信越線の南北にまたがるおよそ４０,０００㎡の広大な遺跡で、中心は永井プラスチック工場付近と推定される。昭和４６年の発掘調査では、少量の彌生後期の箱清水式土器、後・晩期の土師・須恵器、施釉陶器、ほぼ完全な人骨１体等、豊富な遺物が検出された。

○２３５　堂西遺跡　上田市大字国分字堂西

現国分寺の北西方の水田地帯、およそ６０,０００㎡にわたる遺跡で、水田地帯のため、すべてが連続する１個の遺跡とされるか明確でない。出土遺物は、縄文期の石棒、彌生後

第５図　平安時代の石組かまど址　明神前遺跡

期の箱清水式、後期の土師・須恵器などである。

○２３６　赤塚遺跡　上田市大字国分字赤塚

旧上田・丸子電鉄線の線路敷をまたぐ、国分方面から上堀に至る陸橋の北西方の畑地、およそ5,０００㎡である。彌生後期の箱清水式、土師器の前期から後期にわたる土器片が出土している。

B　古　墳

○２０１～２１１　新屋古墳群　上田市大字上野字鴻呂館・矢花

新屋古墳群は、虚蔵山の麓の標高５９０ｍ付近を最高点として（１～３号墳）、神川沿いの段丘端に、１１基が分布している。しかし、標高５８０ｍ付近の畑や墓地脇にも、古墳の積石や天井石と考えられる巨石が点在し、かつては２０数基ほどあったという伝承の確かさを示しているように思う。

１号墳はこの古墳群の中で、墳丘・石室ともに現存する唯一のもので、市指定文化財になっている。この古墳は、新屋集落の北端から、神川沿いの道を更に１００ｍほど進むと、西側へ登る小道があり、岐点から３０ｍほどの北側山麓に所在する。墳丘は南北径が１２ｍ、東西径径が１３ｍ、高さが３ｍである。石室は左袖が狭くなった両袖型横穴式で、奥壁と側壁の基礎には、平石を立てて、その上に平石を乱積状に小口積にしている。

２号墳は１号墳の西方約１００ｍの畑にあり、奥壁の一部を残している。更に３号墳は、そこから８０ｍほど西方に、石室の基礎だけを残している。

４号墳は矢花集落北端の熊野社脇にあり、直刀・勾玉などを出土した。

５号墳から７号墳は、矢花集落東南端の果樹園、および水田の中に点在し、「信濃史料」[(1)]では、古墳群全体を七ツ塚と称しているが、数から考えて、この部分の７基を称して、七ツ塚と呼んだものであろう。５号墳は北側が石垣を隔てて宅地に接する北端にあり、僅かに側壁の基礎１個を残している。６号墳はそこから５０ｍほど東南の段丘崖に近い果樹園内にあり、巨石が残っている。７号墳は５号墳の南方約３０ｍにあり、昭和３年に破壊して痕跡もない。わずかに五輪塔の各部が、墓地の面影を伝えている。この古墳からは、金環・馬具などが出土している。

８号墳は墳丘を失い、石室の一部を残して、天井石の上に祠がのっている。９号墳は８号墳の北西約２０ｍ、５号墳の南西５０ｍほどのところにあり、奥壁の一部が残っている。１０号墳は昭和７年に破壊して水田化し、出土した直刀は埋戻したと伝えられる。伝承される位置は、

8号墳の南東29m、9号墳の南東44m、現在も雑木に巨石が積まれている。11号墳は8号墳の南西およそ20mのところにあり、奥壁と側壁の一部が残っている。

第6図　新屋第1号墳の石室

○212　塚田（カン（カン塚）古墳　上田市大字上野字塚田4

上田市立第五中学校敷地の北西隅にあり、天井石が露出し、墳丘は破壊されている。石室は右袖の狭くなった両袖型横穴式で、奥壁幅126cm、高さ133cm、玄室の奥行238cm、玄門幅78cm、羨門幅83cm、羨道の奥行113cmである。

○213　陣場塚古墳　上田市大字住吉字横山471

神科小学校の北北西方にあたる横山の稜線上の道脇にあり、積石と天井石の一部が露出している。墳丘の規模は9.1m×8.5m、高さ2mの円墳である。

○214　玄蕃塚古墳　上田市大字住吉字横山

横山の西端の忠霊塔の建立されている位置に、古墳があったといわれるが、全壊して確認できない。

○215　熱泰寺古墳　上田市大字住吉字熱泰寺

矢沢川北岸の旧道沿い、土屋氏宅の裏側にあり、全壊して積石の一部が庭石となっている。

○216　向田古墳　上田市大字古里字向田1861

染屋と小岩門両集落の中間にある染屋面の段丘端、水田地帯の一角にある。半壊しているが、墳丘の径7.5m、高さ1.6m、土石混合による円墳と思われる。

○217　笹井塚古墳　上田市大字古里字笹井久保1003

県道小諸上田線から笹井区の公会堂に向けて、およそ50mほど入った地点の段丘崖の下にあり、直刀2本と刀子などを出土した。しかし、現在は全壊して痕跡をとどめない。

○２１８　野竹塚古墳　上田市大字古里字久保５１６

野竹集落の南端から、段丘崖にかかる道を下って、神川の氾濫原を８０ｍほど南東に進んだ桑畑の中にある。墳丘・石室ともに全壊して、その部分が周囲より１ｍほど高い桑畑になっている。破壊された折に、直刀などが出土している。

○２１９　掛ノ宮塚古墳　上田市大字古里字掛ノ宮９７４

県道小諸上田線を笹井の南端から、およそ５０ｍほど進んだ東段丘端の桑畑にあり、玄室の基礎だけが残っている。石室は両袖型横穴式で、奥壁幅が１４０㎝、奥行が３２０㎝、左右それぞれ３枚の平石を立てて並べている。羨道の残在部は５０㎝、大部分が失われている。

○２２０　社宮寺古墳　上田市大字国分字社宮

岩門神社の西南方の畑地内にある第１段丘面の最南端の古墳である。墳丘は周裾が一部破壊され、墳丘上にもリンゴが植わり、墳頂に祠がつくられている。規模は９.５ｍ×１２.５ｍ、高さ２.５ｍの円墳である。

○２２１～２２３　道場第１・２・３号墳　上田市大字国分字道場

信濃国分寺跡の西方およそ３００ｍの八日堂面にあり、第２段丘面の段丘崖の直下にある。３基は標高４７５ｍ付近の等高線に沿って、およそ２０～３０ｍの間隔で並列している。西端の１号墳はほとんど破壊されているが、現状の径が８ｍ、高さが１.２ｍ、天井石２枚と側壁の一部が露出している。石室の内部構造は不明であるが、直刀が出土し、信濃国分寺に保管されている。破壊された２号墳は、石室の一部が庭石に使われており、金環・勾玉などが出土している。３号墳は路傍に石室の一部と思われる大石が残っている。

○２２４～２２５　西沖第１・２号墳　上田市大字国分字西沖

信濃国分寺の西辺を通って、国分から下畑に向う小道の信越線踏切付近と、その西南約２０ｍのところに、２基が並列していたという。１号墳は信越線敷設時に破壊され、２号墳は墳丘が破壊されて、天井石と側壁が露出し、また、直刀を出土している。石室のプランは、SW20°に開口した横穴式で、内部構造は不明である。墳丘の現在の規模は、径１０.６ｍ、高さ１.４ｍで、円墳と思われる。

○２２６～２２８　高寺第１・２・３号墳　上田市大字蒼久保字中村

神川左岸の青木面にある梅が丘団地の中央から南へ向けて、およそ３０ｍ前後の間隔で、南北に３基が並列している。

１・２号墳は全壊して、僅かに積石の一部が残り、３号墳もほとんど破壊され、土器などが出土している。３号墳の残存部の規模は、径が５.１ｍ×４.９ｍ、高さが約１ｍである。

○２２９　生地場古墳　上田市大字蒼久保字生地場

梅が丘団地の南端部から、南西へおよそ１００ｍの墓地内にあり、ほとんど破壊されて、僅かに積石の一部を残している。残存部の径は、5.6ｍ×4.8ｍ、高さが８０㎝ほどである。

○２３０　下青木吉田原古墳　上田市大字蒼久保字吉田原１５５７

みすず台団地の中央部にある郵便局から、更に北方へ１００ｍほど登った道路の西側にある。ほぼ完存の代表的古墳で、市指定文化財になっている。墳丘の規模は、南北径１２.９ｍ、東西径１４.９ｍ、高さ３.５ｍの円墳である。石室の規模は、玄室の奥行３.４５ｍ、幅1.8ｍ、高さ1.１５ｍ、羨道奥行３.１５ｍ、幅1.０４ｍ、高さ0.７ｍ、ＳＷ２０°に開口する右片袖型横穴式で、左側壁から立石を突出させている。

○２３１　旗鉾塚古墳　上田市大字蒼久保字吉田原

吉田原古墳と並列したといわれるが、団地の造成などで全く失われ、所在が明確でない。

○２３２　寺沢古墳　上田市大字大屋字寺沢

吉田原古墳の東南方約１５０ｍの新町面段丘端にあり、大正期までほぼ完存していた。その記録によると、墳丘の径約１３.６ｍ、高さ2.５ｍの円墳で、羨道部は破壊されていたが、玄室の奥行2.７ｍ前後の横穴式と推定される。

○２３３　尾撫古墳　上田市大字大屋字尾撫

寺沢古墳の東方約２００ｍの段丘端にあり、直刀・鉄鏃などを出土している。すでに全滅して、所在も明確でない。

註１　「信濃史料」第１巻上　遺跡地名表　信濃史料刊行会

c　特殊遺跡

○００１　信濃国分寺瓦窯址　上田市大字国分字仁王堂

国分尼寺金堂跡の北東約２００ｍ、段丘崖に接する国道沿いにある。瓦などを使って構築したロストル式平窯で、平安時代初期のものと推定される。

○００４～００９　染屋焼窯業址　上田市大字国分字前城・英・輪田

江戸時代から明治時代にかけて、染屋台地の鉄分の多い胎土を用いて、原初的手法で焼かれた染屋焼は、そのコレクション６６点が重要民俗資料に指定されて以来、一躍脚光を浴びた。その窯業址の中心は、不動の沢窯業址と分家屋敷内の窯業址である。半地下登り窯から、１９c初頭には常滑の技術を導入して、半地下連房式登り窯を築窯している。この形式の窯は、まず分家が築き、明治３６年に本家の不動の沢に築窯している。

3. 上田・塩尻地区の遺跡

北の太郎山脈の南面に、数個の小扇状地があり、もっとも大きいのは、黄金沢扇状地である。東部の扇状地では、染屋台地と等高の扇端部をつくっているが、大輪寺から以西では、第1段丘崖が破壊されて、扇状地に覆われている。各期の遺跡は、この扇頂部と扇端部、特に後者に集中している。

この他、彌生期から古墳・歴史時代の遺跡が集中しているのは、第2段丘面（上田面）の先端部に位置する常入地籍と秋和地区である。また、古墳時代から歴史時代にわたる遺跡が、常磐城から塩尻地籍にかけて、山麓線や、谷口の小扇状地に広く分布している。そして、6Cごろの政治的・経済的勢力の分布を示す代表的古墳、すなわち秋葉裏の二子塚古墳と秋和の大蔵京古墳などが、ともにこの地区にあることは注目される。そして、常磐城の唐臼付近は、東山道の亘理の駅家とも目される重要な遺跡であることは前に述べた。

上田・塩尻地区は、大正8年市制施行当時の上田市全域と、旧塩尻村・旧神科村の蛇沢・金井地区を総称している。旧上田市の成立の経過は、前にふれたのでここでは略す。

旧塩尻村は、秋和村と塩尻村が分村した上塩尻村および下塩尻村を合併して、明治22年に成立した。上田市への合併は、昭和29年4月に行われている。

(1) 縄文時代の遺跡

この地区の縄文遺跡は9個所で、秋和の宮原に前期の上原期のものがあるほかは、中・後期の遺跡が、黄金沢扇状地の西部扇端（大星西・思川・大星前・海禅寺裏・道祖神）と秋和の小扇状地の扇端（風呂川）に分布している。このうち、思川遺跡は、昭和27年11月の国立東信病院の病棟改築の折に、加曾利E式・堀之内式・加曾利B式などの土器とともに、イノシシ・ニホンジカなどの獣骨を出土して注目された。しかし、この思川遺跡をはじめ、大星前・道祖神・宮原の各遺跡は、病院・学校・工場などの建設によって大部分が破壊され、他の遺跡も、個人住宅の建設などによって蚕食されつつある。

(2) 彌生時代の遺跡

彌生期の文化は、黄金沢扇状地の扇端部にも、僅かに分布するが、最も広範に分布しているのは、上田面の扇端部に位置する常入（信州大学繊維学部敷地付近）地籍であり、東西およそ800m、南北の最大（東部）およそ250m、最小（同大学正門付近）およそ120～130mにわたって、帯状に分布している。その時期は後期の箱清水Ⅰ・Ⅱ期から、更に、古墳時代におよんでいる。

秋和地籍では、上田面の段丘端付近を中心に分布しているが、規模は小さく遺物も少ない。

(3) 古墳時代の遺跡

この地区には、上田市内で最も古い時期、すなわち６０のものと推定される２基の古墳が所在する。二子塚古墳は、上小・佐久地方における唯一の前方後円墳であり、市内最大級の規模である。また、秋和の八幡宮大蔵京古墳も、市内最大規模の方墳といえる。そして、秋和・塩尻地区では、この古墳を東端として、6基の後期円墳が太郎山と虚空蔵山麓に点在している。しかし、二子塚古墳は、４基の陪塚をもつ最大級の古墳であるが、この地区における後期古墳の所在が明らかでない。「小県郡史」には、常磐城の塚穴地籍に、２基の古墳があったことを記載している。また、同書によると、常入の藤ノ森古墳を国司塚と呼ぶとしている。

この付近から常入の信州大学繊維学部敷地付近には、古墳時代から土師器の晩期Ⅰ・Ⅱ期にわたる遺跡が、広範に分布している。その他、この時期の遺跡は、黄金沢扇状地の扇端部や太郎山の山麓縁辺に、かなりの遺跡が認められる。

(4) 歴史時代の遺跡

この時期の遺跡として、まず解明しなければならないのは、国府の所在であろう。しかし、この課題については、実証性のある所論は見当らない。こうした中で、古墳時代から歴史時代にわたって、最も広範で豊富な遺物を出土する信大繊維学部付近、すなわち、堀の内地籍を中心にする地域は、古くは「コーノ台」と呼ばれたともいい[(1)]、科野大宮社の所在、信濃国分寺址・東山道との位置関係とも関連して考察するとき、最も有力な推定候補地といえるだろう。もちろん、堀の内という字名は、国庁との関係はなく、平安期以後の荘園に関係する居館址と考証されよう。因に、上田市関係の荘園は、「東鑑」文治２（１１８６）の条に、浦野庄・塩田庄・小泉庄・常田庄とあり、常田庄は八条院御領とある。八条院とは、鳥羽天皇（１１０７～１１２２）の皇女暲子内親王のことである。

この他、特筆される遺跡は、東山道亘理駅址の推定地とされる常磐城の唐臼であり、今後の調査が期待される。この地はまた、布目瓦・瓦塔・礎石などの発見から、古代寺院址の所在が考えられる遺跡である。

A 遺 跡（遺物包蔵地）

○３０１ 金井裏遺跡 上田市大字上田字金井裏

金井集落の北方にある第１段丘面の遺跡であり、リンゴ畑内の３,０００㎡から弥生後期の箱清水式土器、後期の土師・須恵器などが出土している。

○３０２　東奥山原遺跡　上田市大字上田字東奥山原

山口集落の南東部にある黄金沢扇状地の扇頂部の遺跡である。工事中に弥生後期の箱清水式土器、後・晩期の土師器の破片などが出土している。表採はほとんどできないので、範囲は不明である。

○３０３　蟹原遺跡　上田市大字上田字蟹原

金井集落の西端部から山口へ登る道路の西側、第１段丘面の遺跡である。弥生後期の箱清水式土器、後期の土師器の破片などが、およそ５,０００㎡にわたって散布している。

○３０４　桜林遺跡　上田市大字上田字桜林

蛇沢集落の東北部の第１段丘面先端付近にあり、弥生後期の紡錘車が出土している。遺物の分布は明らかでないが、蟹原遺跡と同期一連のものと推定される。

○３０５　西丘遺跡　上田市大字上田字西丘

上田染谷丘高校敷地内にあり、新築工事中の泥土の中から、後期の土師器片が出土した。

○３０６　竈田遺跡　上田市大字上田字竈田

北上田から２００ｍほど東へ寄った大輪寺の東南方の地籍である。弥生後期の箱清水式土器を出土しているが、宅地化が進み、表採はほとんどできない。

○３０７　雁掘遺跡　上田市大字上田字雁掘

北小学校の東方に、黄金沢川を隔てて相対する遺跡である。扇状地の扇央に位置するが、黄金沢川の流れによって生成した遺跡と考えられ、弥生後期の箱清水式土器、中期の土師器の破片などを出土している。分布範囲は明らかでない。

○３０８　秋葉裏遺跡　上田市大字上田字秋葉裏

二子塚古墳の北方にあたる扇状地の畑地内に、中期の土師器片が、およそ３,０００㎡にわたって表採された。

○３０９　大星西遺跡　上田市大字上田字大星西

大星神社の西北方１５０ｍの畑地内から、縄文中期加曾利Ｅ期の土器片が、およそ５,０００㎡にわたって表採された。現在宅地化が急速に進み、破壊が憂慮される。

○３１０　思川遺跡　上田市大字上田字思川

国立東信病院敷地内を中心に分布する遺跡で、昭和２７年の改築工事の際に、縄文中期の加曾利Ｅ式・後期の堀之内式・加曾利Ｂ式などの土器片とともに、磨製石斧１、打製石斧６、ニホンジカ・イノシシなどの獣骨を出土した。整地作業のため破壊されて、分布範囲は明らかでない。

○３１１　大屋前遺跡　上田市大字上田字大屋前

北小学校の敷地付近が遺跡であり、縄文中期の加曽利Ｅ式の土器が出土している。現在は全壊状態で、分布範囲も明らかでない。

○３１２　海禅寺裏遺跡　上田市大字上田字海禅寺

字名の示すとおり、海禅寺と呈蓮寺の北方にあり、宅地の間の僅かな空地から、縄文中期の加曽利Ｅ式・後期の堀之内式、弥生後期の箱清水式、土師中期の土器片などが表採された。分布範囲は明らかでない。

○３１３　新田遺跡　上田市大字上田字新田

黄金沢川西岸の旧北上田駅東北方にあり、水道工事の際に、土師中・後期の土器片が多量に出土した。宅地内のため分布範囲は明らかでない。

○３１４　道祖神遺跡　上田市大字上田字道祖神

山洋電気上田工場の敷地内にあり、造成工事の際にほとんど破壊され、分布範囲は明らかでない。縄文中期の加曽利Ｅ式、土師中期の土器などを出土しているので、大屋前・海禅寺裏などの遺跡と一体的に把握してよかろう。

○３１５　八幡東遺跡　上田市大字上田字八幡東

国道１８号線から僅かに入ったところにある八幡宮の東方、旧上田交通鉄路敷の周辺にある遺跡で、表採できるのは、畑地4,０００㎡ほどである。すでにここも宅地化が進んでいる。表採された土器は、土師中・後期の坏片などで、八幡裏と一体の遺跡と考えられる。

○３１６　八幡裏遺跡　上田市大字上田字八幡裏

八幡宮の西北方から、昭栄製糸の敷地付近にまでわたる広範な遺跡で、少なくとも20,000㎡におよぶものと思われる。八幡東と同期の土師器片などを出土する。

○３１７　日蔭田遺跡　上田市大字上田字日蔭田

旧川原柳駅の北方にあたる矢出沢川の北岸にあり、縄文期の磨製石斧を単独出土している。

○３１８　下房山遺跡　上田市大字上田字下房山

建築工事の折に、弥生後期の箱清水式土器を少量出土している。分布範囲は不明である。

○３１９　海野遺跡　上田市大字上田字海野

市街地中央の郵便局建築工事の際に、土師晩期の坏片を少量出土した。分布範囲は不明である。

○３２０　鎌原遺跡　上田市大字上田字鎌原

旧北国街道沿いの工事の際に、弥生後期の箱清水式土器を出土した。分布範囲は不明である。

○３２１　中常田遺跡　上田市大字常入字中常田

科野大宮社の境内から、彌生後期の箱清水式土器と後・晩期の土師器の破片が表採される。この遺跡は信大繊維学部の敷地内に分布する遺跡と一連のものと考えられる。

○３２２　堀之内遺跡　上田市大字上田字堀ノ内

信大繊維学部敷地遺跡と総称される地籍の西端部およそ１０,０００㎡にわたって分布し、彌生後期の箱清水式土器を出土する。最近校舎の改築が行われて、広範囲に遺跡が破壊された。この遺跡は、国府・居館址の推定地として、重要な遺跡である。

○３２３～３２９　上町田・西町田・下町田・中村・手筒山・東町田・藤ノ森

上田市大字常入字上町田・西町田・下町田・中村・手筒山・東町田・藤ノ森

信州大学繊維学部敷地の中央部から、常田池の南方にかけて、東西およそ６５０m、南北およそ４００mの広範囲な地籍に、繊維学部敷地から常田池の西方にかけて、北部で、下町田・上町田の２遺跡、中央部で中村・西町田・東町田の３遺跡、段丘端に接する南部で手筒山・藤ノ森の２遺跡が続いている。この遺跡からは、いずれも彌生後期の箱清水式土器、前期から晩期にわたる土師・須恵器を出土し、一体の遺跡と思われる。また、西町田遺跡では、昭和４１年の発掘調査の際に、完形土器１８点を含む多量の遺物を出土し、この地方の標識的な遺跡といえるだろう。

○３３０　上ノ平遺跡　上田市大字常磐城字上ノ平

緑が丘の中央部から、６００mほど太郎山の南麓へ登った標高５５０m付近の山腹のテラス状台地にあり、昭和４３年の発掘調査の際に、彌生後期の箱清水式土器、後・晩期の土師・須恵器を出土している。なお、縄文中期の加曾利E式土器も出土するといわれるが、今回の調査では表採されなかった。

○３３１　横畑遺跡　上田市大字常磐城字横畑

常磐城団地の北方約４００mの太郎山南西山麓斜面にあり、中・後期の土師器片が、5,000㎡にわたって表採される。

○３３２　仁王田遺跡　上田市大字常磐城字仁王田

常磐城団地の北東約３００mの山麓傾斜地の畑にあり、およそ5,０００㎡にわたって中・後期の土師器が表採される。

○３３３　殿田遺跡　上田市大字常磐城字殿田

横畑遺跡の南麓斜面の先端部にあり、約１０,０００㎡にわたって中・後期の土師器を出土する。

○３３４　七反田遺跡　上田市大字常磐城字七反田

常磐城団地の工事中に、中・後期の土師器を出土した。分布範囲は明確でない。

○３３５　堂平遺跡　上田市大字秋和字堂平

秋和鉱泉の北方約３００ｍの太郎山西南麓にあり、畑地などから相当量の後期の須恵器を出土している。

○３３６　寺山遺跡　上田市大字秋和寺寺山

秋和鉱泉の北東約１００ｍにあり、南面傾斜地の畑地内およそ１０,０００㎡から、中・後期の土師器を出土する。

○３３７　亀田遺跡　上田市大字秋和字寺山

秋和鉱泉付近の南面傾斜地にあり、およそ2,５００㎡にわたって、中・後期の土師器を出土する。

○３３８　山道遺跡　上田市大字秋和字山道

秋和公会堂の東方約１００ｍ付近の宅地・畑など、およそ１０,０００㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器を出土する。

○３３９　大明神遺跡　上田市大字秋和字大明神

秋和鉱泉の西方に続く小扇状地の東南斜面扇端部、およそ１０,０００㎡にわたって、中・後期の土師器を出土する。

○３４０　堂屋敷遺跡　上田市大字秋和字堂屋敷

大明神遺跡の西方に続く扇状地の西南緩斜面扇端部にあり、約2,５００㎡にわたって中・後期の土師器、鎌倉期の陶磁器などを出土する。

○３４１　唐臼遺跡　上田市大字常磐城字唐臼

生塚から古舟橋に通ずるバイパスの西側、上田面の段丘端にあり、およそ5,０００㎡にわたって後・晩期の土師・須恵器などを出土する。

○３４２　甲彌陀平遺跡　上田市大字秋和字甲彌陀平

登秋霧原基神社から虚空蔵山東南麓の標高６２０ｍ付近へ登った地点にあり、およそ2,500㎡にわたって後・晩期の土師器を出土している。

○３４３　六句遺跡　上田市大字秋和字六句

登秋霧原基神社の西北、標高４７０ｍ付近のテラス状の台地にあり、およそ2,５００㎡にわたって縄文期の石鏃、後・晩期の土師器などを出土している。

第7図　塩尻地区の遺跡景観

○３４４　風呂川遺跡

上田市大字秋和字風呂川

虚空蔵山東南麓の小扇状地扇端部にあり、およそ10,000㎡にわたって縄文中期の勝坂式・加曽利E式、彌生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器などを出土している。

○３４５　宮原遺跡　上田市大字秋和字宮原

秋和集落の西端部、上田面の段丘端にあり、およそ１０,０００㎡にわたって、縄文前期の上原式土器・石鏃・打製石斧、彌生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器の破片などを出土している。しかし、大部分が工場用地の造成で破壊された。

○３４６　姥石遺跡　上田市大字秋和字姥石

国道１８号線から旧道に入る秋和集落の西端部にあり、前期から後期にわたる土師・須恵器などを出土する。分布範囲は明らかでない。

○３４７　彌勒堂遺跡　上田市大字上塩尻字彌勒堂

塩尻小学校の北東約３００ｍの小扇状地の扇頂にあり、約2,５００㎡にわたって、後期の須恵器を出土する。

○３４８　越畑遺跡　上田市大字上塩尻字越畑

彌勒堂遺跡の西南に続く扇端の遺跡で、およそ2,０００㎡にわたって後・晩期の土師器を出土する。

○３４９　広見遺跡　上田市大字上塩尻字広見

塩尻農協の南方へ５０ｍほど進んだ集落西端部の遺跡で、中・後期の土師器を出土する。分布範囲は明確でない。

B 古　墳

○３０１　桜林塚　上田市大字上田字桜林

蛇沢集落東端の第１段丘面先端にあり、大石の上に祠がのっている。恐らく古墳ではあるまい。

○３０２～３０５　二子塚古墳・陪塚　上田市大字上田字秋葉裏

大星神社の東方に接した二子神社の社地内にある東信地方唯一の前方後円墳で、市指定文化財となり、１基の陪塚が北西隅に完存している。その他陪塚が四囲にあったといわれるが、東南隅の１基は明らかでない。前方後円墳の規模は、長軸４８ｍ、後円部径約２２ｍ、高さ４ｍ（南側５ｍ）、前方部幅約１８ｍ、高さ４ｍ、６Ｃの古墳と思われる。陪塚１号墳は、円墳で径１１ｍ、高さ4.5ｍである。

○３０６　藤ノ森古墳　上田市大字上田字藤ノ森

信大繊維学部の東方約３００ｍの上田面の段丘端にあったが、昭和初年に破壊されて現存しない。「小県郡史」によれば、墳丘の径は１６.５ｍ前後で、国司塚とも呼ばれたという。

○３０７　弥陀平古墳　上田市大字秋和字甲弥陀平

登秋露原基神社から登った虚空蔵山東南麓の標高６２０ｍ付近、東方のリンゴ園に対する道路西側の山地内にある。後期の円墳で、径１７.５ｍ、高さ３ｍ、ほぼ完存である。

○３０８　八幡大蔵京古墳　上田市大字秋和字大蔵京１３９１

秋和集落の西北端、登秋露原基神社の社地内にある方墳で、市指定文化財となっている。規模は基底の西辺２９ｍ、北辺２５.３ｍ、東辺２５.２ｍ、南辺３０.２ｍ、東西中軸３１.５ｍ、南北中軸３２ｍ、墳頂西辺6.1ｍ、北辺6.1ｍ、東辺6.4ｍ、南辺6.1ｍ、高さ6.1ｍである。

○３０９　風呂川古墳　上田市大字秋和字風呂川

八幡大蔵京古墳の西方およそ３００ｍの小扇状地扇央にあり、直刀などを出土したが、破壊されて僅かに塚畑という地名が残っている。

○３１０　宮原古墳　上田市大字秋和字宮原

秋和集落の西端、上田面の段丘端を塩尻小学校裏へ向う道路脇の段丘上にあったが、破壊された。直刀・鉄鏃・馬具・土器などを出土している。

○３１１　東山古墳　上田市大字上塩尻字東山

塩尻小学校の北東約４００ｍの虚空蔵山東南麓にあり、元文年間（１７３６～１７４１）に発掘され、勾玉などを出土したというが破壊されている。

○３１２　彌勒堂古墳　上田市大字上塩尻字彌勒堂

東山古墳の西南麓にあったが破壊された。勾玉・切子玉・金環などを出土している。

○３１３　持越古墳　上田市大字上塩尻字持越

塩尻小学校の北方約５００m、虚空蔵山南麓の標高５３０m付近の蚕養口大明神社地裏にあったが破壊されてた。宝暦年間（１７５１～１７６４）に発掘され、鉄鏃などを出土している。

c　特殊遺跡

○００２　上平窯址　上田市大字常磐城字上平

太郎山西南麓の標高５５０m付近のテラス状台地にあり、昭和４３年の発掘調査によって登り窯が発見された。窯址内から須恵器片のみを出土し、９～１０cのものと推定されている。

○０１５　唐臼廃寺址　上田市大字常磐城字唐臼

生塚からバイパスを入った上田面の段丘端にあり、「イボ石様」と土地の人びとに呼ばれる礎石の所在、瓦塔の出土などから、この地籍に寺院のあったことが推定される。

4.　城下・川辺地区の遺跡

小牧から岩鼻にかけて、千曲川の沖積氾濫原が続き、その南方の小牧から上田原にかけては、第２段丘面が続いている。西端の上田原台地は、産川の氾濫原と７～１０mの段丘崖によって接し、その北端は対岸の山口との間に、約 1Kmの狭窄部をつくり、そこで産川と浦野川が合流して、千曲川に注いでいる。

第２段丘面には、小牧山塊の小扇状地が発達し、神畑から築地地籍にかけては、産川と湯川・浦野川のつくる盆地性平野がつづいている。

千曲川の沖積氾濫原には、中之条地籍を中心に、彌生期から古墳・歴史時代の遺跡が分布し、第２段丘面の上田原台地には、縄文前期から歴史時代にわたる広範な遺跡が濃密に分布している。また、川西盆地の東北端部にあたる福田・築地地籍では、氾濫原の微高地や台地先端に、縄文中期から歴史時代にわたる遺跡が認められる。

この地区は、旧城下・川辺・福田・吉田の４か村全区にわたっている。城下村は、明治２２年に小牧・諏訪形・御所・中之条の４か村を併合して、大正１０年に上田市に合併した。川辺村は、明治２２年に下之条・上田原・神畑・築地４か村を併合して、昭和２９年に上田市へ、福田・吉田２か村は、明治２２年に小泉村とともに泉田村をつくり、昭和３１年に上田市に合併した。

(1) 縄文時代の遺跡

縄文時代の文化は、まず前期の南大原・下島期の遺跡が、上田原台地の西北端に分布し、中期の遺跡は、台地と川西盆地・小牧山塊の西麓に広がっている。後・晩期の文化については、いまのところ明らかでない。

(2) 弥生時代の遺跡

この地区の古代文化は、この時期に急速に発展し、中之条付近の千曲川沖積氾濫原・上田原台地の西北端、浦野川沿いなどに広く分布している。特に上田原台地の殿海道遺跡は、肥沃な沖積地を望む台地の先端にあり、出土遺物も多く、上田市内でも特筆すべき貴重な遺跡である。

(3) 古墳時代の遺跡

後期の小円墳が、同期の遺跡を望む小牧山塊の北麓に点在し、群集墳が上田原台地の北端部と小牧山塊の中央窪地西端の北麓に分布している。

古墳時代から歴史時代にわたる遺跡は、これらの古墳の前面や周辺に多く、特に中之条と上田原台地の西北端・福田・築地地籍には、対岸東方の常入・国分地籍と比肩できるほどの濃密度で分布している。

(4) 歴史時代の遺跡

土師後・晩期の遺跡は、古墳時代の遺跡と大部分が複合している。また、福田の東村遺跡からは、布目瓦が出土し、古代寺院の所在を伺わせる。また、この地籍と上田原の塚原からは、多量の五輪塔が出土し、戦国時代の遺跡と伝承が多く残っている。

A 遺 跡（遺物包蔵地）

○401 六句遺跡 上田市大字小牧字六句

小牧城跡の北西山麓の段丘上にあり、およそ5,000㎡にわたって後期の土師器が表採できる。

○402 高町遺跡 上田市大字諏訪形字高町

諏訪形集落の東端部に近い千曲川の沖積氾濫原にあり、およそ5,000㎡にわたって後期の土師器が表採された。

○４０３　中沢遺跡　上田市大字諏訪形字中沢

城下小学校の東方から須川へ登る地点の東北方約３０ｍのところで、井戸を掘っていたところ、地下約３ｍの第８層から、中期から晩期の土師器、後期の須恵器が出土した。この地点は須川の押出しによって形成された扇状地の扇端にあたる。

○４０４　木ノ下遺跡　上田市大字御所字木ノ下

御所公民館周辺の遺跡で、一部が宅地などによって破壊されているが、約１０,０００㎡にわたって、中期から晩期の土師器、後期の須恵器が出土している。

○４０５　横堰遺跡　上田市大字御所字横堰

市立五中の西方にある遺跡で、工事中に中期から晩期の土師器、後期の須恵器が出土した。分布範囲は明らかでない。

○４０６～４１４　東町・西町・宮方・上前田・中前田・下前田・西前田・関石・額面遺跡

上田市大字御所字東町・西町・宮方・上前田・中前田・下前田・西前田・関石・額面

中之条公民館の東方から、県道上田稲荷山線の北側に、東西およそ４００ｍ（東端は寺院裏付近）、南北およそ２００ｍにわたって、東から東町・西町・宮方の３遺跡があり、県道南側の畑および水田地帯に、東西およそ６００ｍ、南北およそ１００ｍにわたって、東から上前田・中前田・下前田・西前田の４遺跡が帯状に分布し、更に中前田遺跡の南方１５０ｍにわたって関石・額面の２遺跡がある。いずれも中期から晩期の土師器、後期の須恵器などを出土していることから、一体の遺跡と考えられる。

○４１５～４１９　柳堂・六工・金敷田・大畑・三反田遺跡

上田市大字中之条字柳堂・六工・金敷田・大畑・三反田

上田千曲高校の南方、県道上田稲荷山線北沿いの柳堂遺跡を東端として、六工・金敷田・大畑、県道南側にある西端の三反田遺跡まで、５遺跡が東西およそ４００ｍ、南北およそ２５０ｍにわたって分布している。出土遺物は弥生後期の箱清水式、前期から晩期にわたる土師器で、六工遺跡からは弥生期の遺物を表採できなかったが、５遺跡が一体のものと考えてよかろう。

○４２０～４２１　緑川・天神堂遺跡　上田市大字中之条字緑川・天神堂

上田千曲高校グラウンドの西隅から北西へ、およそ１５０ｍの緑川遺跡と、西方の天神堂遺跡が、東西およそ２００ｍ、南北およそ１００ｍにわたって分布し、ともに弥生後期の箱清水式土器などを出土する。これらは一体の遺跡と考えられるが、急速に宅地化が進み、破壊が憂慮される。

○４２２　赤坂遺跡　上田市大字上田原字赤坂

上田原集落の東北端にあたる第2段丘面の畑地にあり、およそ5,０００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式土器が豊富に表採される。

○４２３　殿海道遺跡　上田市大字上田原字殿海道

上田原集落北方の段丘端の畑地、およそ２５,０００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式土器、後・晩期の土師器が表採される。この遺跡は、千曲川の沖積氾濫原を望む地籍の代表的遺跡である。

○４２４～４２５　塚田・丁田遺跡　上田市大字上田原字塚田・丁田

上田原集落の東方にあり、段丘端に近い水田地帯に、東の塚田遺跡から西側の丁田遺跡まで、東西およそ２００m、南北およそ５０mにわたって、後・晩期の土師器と須恵器が出土している。

○４２６　中島遺跡　上田市大字上田原字中島

上田原集落の東北部にあたる宅地・畑地内およそ5,０００㎡にわたって、縄文前期の南大原式・下島式、中期の勝坂式・加曾利Ｅ式、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器の土器片、縄文期の石器類が出土している。

○４２７　前田遺跡　上田市大字上田原字前田

上田原集落東端部の畑地内にあり、約5,０００㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器片が表採される。

○４２８　塚原遺跡　上田市大字上田原字塚原

観音寺周辺の宅地と畑地およそ１５,０００㎡にわたって、縄文前期の南大原式・下島式、中期の勝坂式・加曾利Ｅ式の土器、石鏃・打製石斧・磨製石斧・凹石、後・晩期の土師・須恵器片などを出土している。また、この畑地内から多くの五輪塔を出土し、戦国時代の墳墓址と考えられる。

○４２９　本町遺跡　上田市大字上田原字本町

上田原集落の中央東側の宅地と畑地、およそ5,０００㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器を出土する。

○４３０　宮本遺跡　上田市大字上田原字宮本

石久摩神社周辺のおよそ3,０００㎡にわたって、縄文中期の勝坂式・加曾利Ｅ式、後・晩期の土師・須恵器を出土する。

○４３１　堀之内遺跡　上田市大字築地字堀之内

産川西岸の築地団地西北部にあり、後・晩期の土師・須恵器を出土する。団地造成のために破壊されて、範囲は不明である。

○４３２　浦田遺跡　上田市大字築地字浦田

築地集落の東北方畑地、およそ5,０００㎡にわたって、縄文中期の勝坂式・加曾利Ｅ式、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器などを出土する。

○４３３　蔵之台遺跡　上田市大字築地字蔵之台

築地集落の東北部の宅地、および畑地およそ5,０００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師器などが表採される。

○４３４　屋敷遺跡　上田市大字築地字屋敷

築地公民館の周辺の宅地と畑地、およそ5,０００㎡にわたって、縄文中期の勝坂式・加曾利Ｅ式、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器などを出土する。

○４３５　西沖遺跡　上田市大字築地字西沖

築地集落の西北端にある果樹園およそ3,000㎡にわたって、後期の土師・須恵器を出土する。

○４３６　鶏籠田遺跡　上田市大字築地字鶏籠田

築地集落の西南方にある桑畑・果樹園内、およそ4,０００㎡にわたって、縄文中期の加曾利Ｅ式土器を出土する。

○４３７　箕輪遺跡　上田市大字築地字箕輪

築地橋西方の山麓テラス状台地にあり、およそ5,０００㎡にわたって、縄文中期の加曾利Ｅ式、弥生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器を出土する。

○４３８　向村遺跡　上田市大字神畑字向村

産川にかかる向橋から南へ進んだ集落の東南部の宅地と畑、およそ2,０００㎡にわたって、前・中期の土師器を出土する。

○４３９　堀切遺跡　上田市大字神畑字堀切

県道上田塩田線と鹿教湯別所上田線が交差する地点の１００ｍ北方から東方へ２００ｍほど登った小扇状地の扇頂部畑地にあり、およそ2,５００㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器を出土する。

○４４０　惣明遺跡　上田市大字神畑字惣明

神畑集落の東南端山麓の畑地にあり、およそ3,０００㎡にわたって、縄文中期の勝坂式土器・石鏃・打製石斧・磨製石斧・凹石、弥生後期の箱清水式土器を出土する。

○４４１　宮脇遺跡　上田市大字宮島字宮脇

築地集落東南方の七社宮周辺の畑地にあり、およそ2,０００㎡にわたって、彌生後期の箱清水式、前期から晩期の土師器、後期の須恵器などを出土する。

○４４２　宮島遺跡　上田市大字宮島字宮島

築地集落の東南方にあり、およそ3,０００㎡にわたって、縄文中期の土器・打製石斧、彌生後期の箱清水式土器、前期から晩期の土師器、後期の須恵器などを出土する。

○４４３～４４７・４４９　下田・反田・迎湯川・東村・新屋・中村遺跡

上田市大字福田字下田・反田・迎湯川・東村・新屋・中村

国道１４３号線の南方から湯川の上流西岸沿いの約５００ｍにわたって、下田・反田・迎湯川の3遺跡が分布している。しかし、下田・反田の2遺跡は、圃場整備中に発見されたもので分布範囲は明らかでない。迎湯川遺跡の範囲は、およそ2,５００㎡である。また西方の吉田面先端部の福田集落東端から宝池の南部にかけて、東村・中村・新屋の3遺跡が、東西およそ２００ｍ、南北およそ１００ｍにわたって分布し、上記6遺跡は、いずれも前期から晩期の土師器、後期の須恵器などを出土している。少なくとも東村・中村・新屋の3遺跡は一体のものであろう。

○４４８　原田遺跡　上田市大字吉田字原田

新池東方の吉田面の畑地、およそ3,０００㎡にわたって、彌生後期の箱清水式、前期から晩期にわたる土師器、後期の須恵器などを出土している。

Ｂ　古　墳

○４０１　坂下古墳　上田市大字小牧字坂下

小牧城跡の東北方にあたる山麓の段丘上(標高480m付近)にあったが、完全に破壊された。

○４０２　六句古墳　上田市大字小牧字六句

小牧城跡の北麓段丘端にあり、松の木の根元に巨石が残り、祠が置かれている。直刀・土器などを出土したと伝えられる。

○４０３　初太郎古墳　上田市大字小牧字初太郎

小牧南方の標高６４０ｍ付近の山腹にあり、大正期まで墳丘・石室が現存し、径１１.５ｍほどの円墳で、玄室部奥行2.７ｍ、奥壁部幅１.２ｍほどであったが、昭和初年に破壊された。

○４０４　タタラ塚　上田市大字諏訪形字東山

県道田中須川上田線の大きなカーブから東へ５０ｍほど入った標高６３０ｍ付近の山腹の平

地にあり、径１４ｍ、高さ６ｍの円墳で、石室の奥行３.２ｍ、奥壁幅 1.４ｍ、高さ 1.２ｍでほぼ完存である。

○４０５～４０９　舟窪第１・２・３・４・５号墳　上田市大字諏訪形字西山

三好町から原峠の山頂へ登って、東へ４００ｍほど進むと尾根が２つに分れる。道を北東の尾根にとって３００ｍほど進むと、南麓の中腹、標高６２０ｍ付近に、およそ４０～５０ｍの間隔で、５基の古墳が並列している。１号墳は半壊しているが、残存部の径９.８ｍ、高さ 2.５ｍの円墳で、石室の奥行５.２ｍ、奥壁幅 1.４ｍ、高さ 1.２ｍ、主軸のプランはＳＷ２５°である。

第２号墳は径１３.２ｍ、高さ 2.４ｍ、石室の奥行 4.２ｍ、奥壁部幅 1.２ｍ、高さ 1.８ｍである。

第３号墳は破壊が進んでいる。石室の奥行 2.７ｍ、奥壁部幅 1.８ｍ、高さ 1.８ｍである。

第４号墳は径１５.２ｍ、高さ 2.８ｍの円墳で、石室の奥行５ｍ、奥壁部幅 1.３ｍである。

第５号墳は径１２.７ｍ、高さ３.２ｍ、石室の奥行 4.５ｍ、奥壁部幅 1.３ｍ、高さ 1.８ｍである。

○４１０～４１１　森ノ木第１・２号墳　上田市大字諏訪形字森ノ木

県道田中須川上田線沿いの信濃合金工場の南側にあったが、１号墳は破壊され、直刀・銀環などを出土した。２号墳は１号墳の北方約100ｍの六か村堰北側道添いの畑にあり、天井石を露出し、墳丘の基部は土中に埋没している。

○４１２　上平古墳　上田市大字諏訪形字上平

県道田中須川上田線から朝日ケ丘団地に入る道路を５０ｍほど登った台地の南側畑地にあり、径７.２ｍ、高さ 2.６ｍの円墳である。

○４１３・４１４　日天塚古墳・月天塚古墳　上田市大字御所字原堰上

三好町から原峠に登る道路の東側、標高510ｍ付近に日天塚古墳、そこから５０ｍほど登った標高５１５ｍ付近に月天塚古墳がある。日天塚は破壊され、僅かに墳丘を残しているが、残存部の径８.３ｍ、高さ２ｍである。月天塚は破

第８図　舟窪第４号墳

壊され、積石が残っている。残存部によって墳丘を推定すれば、径9.8m、高さ1.5mで、明治41年に発掘され、直刀・鉄鏃・馬具・勾玉・金環などを出土している。

○415　原峠古墳　上田市大字御所字原峠下

原峠の頂上から僅か下った標高610m付近にあり、一部積石を残している。「小県郡史」によれば、径およそ8mほどの円墳で、石室の奥行約2mであった。

○416　下河原古墳　上田市大字築地字下河原

築地橋から浦野川沿いに250mほど山口へ進んだ地点の山麓にあったが、山崩れによって埋没した。「小県郡史」

○417～421　塚原第1・2・3・4・5号墳　上田市大字上田原字塚原

上田原台地の段丘端に近い観音寺裏の畑と墓地内に点在している。

1号墳は観音寺の北西約150mの墓地脇の畑地段丘端にあったが、全壊して湮滅された。

2号墳は1号墳の南約100m、観音寺横の農道を200mほど進んだ地点の南脇30mの畑地内にあって、天井石などの一部を残している。出土遺物は直刀・鉄鏃・金環・勾玉などで、所在は明らかでない。

3号墳は観音寺の西方約90mの墓地入口にあり、石室の基礎の一部が残っている。

4号墳は観音寺の南西約80mの農道脇にあり、天井石一枚が残り、上に五輪塔がのっている。勾玉と金環などを出土している。

5号墳は観音寺の西方約50mの墓地内にあり、土が僅かに盛上がり、面影を残している。

1・3・5号墳は、ほぼ等間隔で東西に並び、2・4号墳も並列している。「長野県町村誌・東信篇」によれば6基並立とある。但し現在は1基の所在が不明である。

○422～424　手矢塚第1・2・3号墳　上田市大字神畑字手矢塚

加美畑神社の南隅にある1号墳を北端として、産川の氾濫原を望む上田原台地の西縁に、およそ50mの間隔で3基が南北に並列する。

1号墳は墳丘・石室ともに半壊し、大石が神社境内に置かれている。残存部径は22m、高さ約2mで、墳頂に祠がのっている。

2号墳は松井建蔵氏宅脇にあり、残存部と破壊部を復元した径はおよそ34.6m、高さ約3mで、墳頂に大石がのり、供養塔が置かれているが、内部構造は不明である。

3号墳は松井金一郎氏宅の庭先にあり、全壊されて石室の大石が庭石に使われている。なお、直刀・金環が出土して、松井義雄氏宅に保管されている。

○４２５　扇田古墳　上田市大字吉田字扇田

だいれん塚とも呼ばれ、一説に修験者の墓という説がある。

C　特殊遺跡

○０１６・０３４　東村布目瓦出土地・墳墓址　上田市大字福田字東村

吉田面の先端にあたる福田集落の東端にあり、奈良時代と推定される布目瓦を出土し、また大量の室町以後江戸初期にわたる五輪塔を出土している。古代寺院の所在が推定される。

5. 泉田・室賀・浦里地区の遺跡

旧川西村の全域にわたる地域で、青木付近を谷頭として、狭長な楔形に展開する浦野広谷と、室賀川の形成した狭長な堆積扇状地の室賀谷からなっている。

旧川西村は、昭和３２年に室賀・浦里・小泉区（上田市）が併合したもので、昭和４８年に上田市と合併した。室賀村は旧室賀村が、上室賀・下室賀２村に分村し、再び明治２２年に合併した。浦里村は明治２２年に浦野・岡・仁古田・越戸・当郷の５か村が合併してつくられたが、昭和３２年に当郷区が青木村へ分村合併している。また浦野村は、旧浦野・馬越２村が合併した馬越村が、更に浦野村と改称したものである。また、小泉区は旧小泉村であり、明治７年に町小泉村と日向小泉村が合併してつくられた。

(1) 縄文時代の遺跡

この地区の縄文期の遺跡は、２９遺跡であり、他地区に比して多い。上田市内で縄文早期の遺跡があるのは、この地区の谷鬼遺跡（茅山期）と別所の塩水遺跡の２遺跡である。前期の遺跡は、上室賀の谷鬼（有尾期）と小泉の和合（上原期）の２遺跡であり、更に中期になると下半過・日向小泉・下室賀・上室賀の山麓に広く分布し、また、石器のみを出土する遺跡も、これらの地籍に多くみられる。後期の遺跡は、現在のところ日向小泉の１遺跡のみで、晩期の様相については明らかでない。

(2) 弥生時代の遺跡

後期の箱清水式土器を出土する遺跡が、下半過・日向小泉・室賀・浦里などの各地に、２１遺跡が分布している。特に遺跡が多くみられるのは、浦野川の堆積による扇状地に形成された微高地と川沿いの山麓台地である。

第9図　浦野広谷の遺跡景観

(3)　古墳時代の遺跡

この地区には、半過と日向小泉の2つの群集墳がある。日向小泉古墳群は、浦野川の沖積扇状地を望む好所にあり、その他の八幡山・将軍塚・城・浦野塚など4基の古墳も、この浦野広谷に関係するものであろう。室賀谷の神宮寺・長谷塚の2古墳も同期の遺跡に対応する。上室賀の塚田古墳は、伝承だけで証明すべき痕跡がない。この点やや所在について不安は残るが、周辺にかなりの同期の遺跡が現存する。しかし、半過古墳群を形成する9基の古墳は、眼下に千曲川が流れ、所在地は高所で眺望もよい。しかし、この古墳群に関係すると思われる遺跡群が、眺望の範囲に見当らない。すなわち、千曲川対岸の塩尻・秋和地区には、遺跡群に対応すると思われる古墳があり、西方の南条地区も同様である。千曲川の流路が、古墳時代以後に大きく西南偏して、半過山麓の遺跡群を破壊したと考えれば、比較的説明は容易であるが、地質関係の研究に待ちたい。因に、千曲川左岸の沖積氾濫原（中之条付近）には、古墳時代の遺跡が広く分布しているが、対岸の常磐城・秋和・塩尻地区の氾濫原には、ほとんど遺跡が見当らない。また、別の角度から考えれば、中之条付近と上田原台地の広範な遺跡群に対応するのは、川辺地区の塚原（5基）と御所（日天塚など3基）の古墳だけで、やや少ないものと思われる。しかし、この場合は散布形の古墳を含めて考えれば、必ずしも不合理ではない。

なお、古墳時代の遺跡は、半過の山麓、浦野川と室賀川の堆積扇状地と、その縁辺の山麓に広く分布している。

(4)　歴史時代の遺跡

奈良時代以後の遺跡は、浦野川と室賀川の扇状地を中心にして、その山麓に分布するが、半過については確認できない。千曲川の流路の変化に伴って、耕地が流失したためであろうか。

「東鑑」によれば、この地区には小泉荘・浦野荘の２荘があり、小泉荘は小泉を本拠とし、一条大納言家領とされている。浦野荘は日吉社領とあり、「万葉集」には宇良野乃山、「和名抄」には浦野駅などの名がみえる。浦野駅家が、どの地籍にあったか明らかでない。馬越付近の精査が、今後の課題であろう。また、この地区には、泉・室賀両氏の支配地として、城跡も多い。

A　遺　跡（遺物包蔵地）

○５０１　下半過遺跡　上田市大字小泉字下半過

下半過集落の西南端から、更に２００ｍほど登った山麓にあり、縄文中期の加曾利Ｅ式土器を出土する。範囲は明確でないが、分布範囲は小さい。

○５０２　清水下遺跡　上田市大字小泉字清水下

下半過集落の西南端部、標高およそ４８０ｍ付近の畑、およそ2,５００㎡にわたって、縄文中期の加曾利Ｅ式、弥生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器を出土する。

○５０３　矢坂遺跡　上田市大字小泉字矢坂

下半過集落の南部山麓、標高およそ５４０ｍの畑と山林で、確認できる範囲は畑のおよそ1,０００㎡である。出土遺物は後期の土師・須恵器である。

○５０４　中ノ沢遺跡　上田市大字小泉字中ノ沢

上半過の公会堂から１５０ｍほど登った集落北方の山麓台地の畑、およそ5,０００㎡にわたって、後期の土師・須恵器を出土する。

○５０５　滝ノ沢遺跡　上田市大字小泉字滝ノ沢

上半過集落東南部の山麓台地上にある畑、およそ2,５００㎡にわたって、後期の土師・須恵器を出土する。

○５０６　駒場遺跡　上田市大字小泉字駒場

上半過の公会堂から、前沢の対岸南方へ１００ｍほど登った斜面の畑地、6,０００㎡にわたって、後期の土師・須恵器を出土する。

○５０７　古屋敷遺跡　上田市大字下之条字古屋敷

山口集落西南方の山麓畑地、およそ5,０００㎡にわたって、前・中期の土師器を出土する。

○５０８　八幡山遺跡　上田市大字小泉字八幡山

弓崎神社の西方段丘上の果樹園内、およそ5,０００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○５０９　早稲田遺跡　上田市大字小泉字早稲田

日向小泉集落東南端の段丘斜面にあり、およそ2,５００㎡にわたって、彌生後期の箱清水式土器が出土している。

○５１１　宮ノ入遺跡　上田市大字小泉字宮ノ入

日向小泉集落東北端の谷川東岸山麓畑地にあり、縄文期の打製石斧、後期の須恵器を出土している。分布範囲は遺物が微量のため、明らかでない。

○５１２　寺住平遺跡　上田市大字小泉字寺住平

日向小泉の高仙寺東岸の遺跡で、縄文中期の加曾利Ｅ式、彌生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器が出土している。分布範囲は明確でないが、５,０００㎡ほどと推定される。

○５１３　蛇川原入遺跡　上田市大字小泉字蛇川原入

高仙寺の北東約１００ｍの谷川東岸から、縄文期の打製石斧が単独出土している。

○５１４　朝日山遺跡　上田市大字小泉字朝日山

高仙寺西方の山麓台地から、縄文期の打製石斧、後期の土師器が、およそ2,０００㎡にわたって出土する。

○５１５～５１６　東寺畑・西寺畑遺跡　上田市大字小泉字東寺畑・西寺畑

高仙寺南方の東西およそ１００ｍ、南北５０ｍの範囲に、東寺畑・西寺畑の２遺跡が東西に並列し、ともに彌生後期の箱清水式、中・後期の土師器を出土している。一連の遺跡と考えられる。

○５１７　西ノ入遺跡　上田市大字小泉字西ノ入

日向小泉集落の西端から４００ｍほど小道を北西に登った山麓の東南斜面の畑にあり、中世の内耳土器などを微量出土する。分布範囲は明らかでない。

○５１８　東村遺跡　上田市大字小泉字東村

日向小泉集落東南部にあり、果樹園内から縄文期の石鏃、後・晩期の土師器などを出土している。分布範囲はおよそ2,５００㎡と推定される。

○５１９　中村遺跡　上田市大字小泉字中村

高仙寺へ登る道路に沿った集落のほぼ中央にあり、分布範囲は明らかでないが、縄文期の石鏃を出土している。

○５２０　西村遺跡　上田市大字小泉字西村

日向小泉集落の西南部にあり、宅地内のため分布範囲は明らかでないが、縄文期の打製石斧、後・晩期の土師器を出土している。

○５２１　横道下遺跡　上田市大字小泉字横道下

日向小泉集落の西北方傾斜地の畑、およそ2,５００㎡にわたって、縄文後期の堀之内式、弥生後期の箱清水式などの土器片が表採される。

○５２２　旗鉾遺跡　上田市大字小泉字旗鉾

日向小泉集落の西端、和合に向う道路北脇のテラス状台地、およそ2,０００㎡にわたって、縄文期の石鏃・磨製石斧、弥生後期の箱清水式、前期から晩期の土師器、後期の須恵器が出土している。

○５２３　鍛冶山遺跡　上田市大字小泉字鍛冶山

和合集落の東北方山麓の畑地から、縄文期の磨製石斧、中・後期の土師器が出土している。

○５２４　和合遺跡　上田市大字小泉字和合

和合集落の東部畑地、およそ１０,０００㎡にわたって、縄文前期の上原式、弥生後期の箱清水式、前期から晩期の土師器、後期の須恵器などが出土している。

○５２５～５２７　皮麦田・琵琶塚・町裏遺跡　上田市大字小泉字皮麦田・琵琶塚・町裏

日向小泉から日向橋を渡った地点の東方へ、東西約４００ｍ、南北約２００ｍの範囲で、東より皮麦田・琵琶塚・町裏の３遺跡が続き、ともに弥生後期の箱清水式、前期から晩期の土師器、後期の須恵器を出土している。

○５２８　桜町遺跡　上田市大字小泉字桜町

町小泉の東端部付近、およそ2,５００㎡にわたって、後期の須恵器を出土している。

○５２９　藤ノ木遺跡　上田市大字小泉字藤ノ木

町小泉集落の中央部、およそ3,000㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器を出土している。

○５３０　中田遺跡　上田市大字小泉字中田

町小泉の公民館周辺から、工事中に弥生後期の箱清水式土器を出土している。分布範囲は明らかでない。

○５３１　高田遺跡　上田市大字小泉字高田

町小泉集落西南部の畑、およそ4,０００㎡にわたって、縄文中期の加曽利Ｅ式、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師器、後期の須恵器などを出土している。

○５３２　長谷田遺跡　上田市大字小泉字長谷田

国道１４３号線の室賀入口の東北方約２５０ｍ付近を中心にして、工事中に弥生後期の箱清水式土器が出土している。分布範囲は明らかでない。

○５３３　岳之里遺跡　上田市大字下室賀字岳之里

県道真田新田線の和合橋から、北西へ１５０ｍほど進んだ南側の畑、およそ2,５００㎡にわたって、前期から後期の土師器、および後期の須恵器を出土している。

○５３４　岳之鼻遺跡　上田市大字下室賀字岳之鼻

岳ノ組の中央から県道南方へ１００ｍほど寄った室賀川段丘面の畑にあり、およそ2,０００㎡にわたって、縄文期の石鏃と中期の土師器を出土している。

○５３５　岳之本遺跡　上田市大字下室賀字岳之本

岳ノ組集落の中央北側の山麓にあり、畑と宅地のおよそ2,５００㎡にわたって、前期から晩期の土師器を出土している。

○５３６　樋之詰遺跡　上田市大字下室賀字樋之詰

樋之詰池の北方、約１００ｍ付近の小扇状地の扇端部畑地、およそ3,０００㎡にわたって、後期の土師器を出土している。

○５３７　神宮寺遺跡　上田市大字下室賀神宮寺

神宮寺組の公会堂の南方畑地にあり、およそ5,０００㎡にわたって、縄文期の石鏃、後期の土師器を出土している。

○５３８　寺前遺跡　上田市大字下室賀字寺前

押切集落西方の畑地、およそ6,０００㎡にわたって、縄文中期の勝坂式・加曾利Ｅ式、彌生中期、前・中期の土師器を出土している。

○５３９　押切前遺跡　上田市大字下室賀字押切

押切橋から兵庫集落に向って、約１５０ｍほど進んだ地点の南西段丘上の畑地にあり、およそ8,０００㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器、良質の施釉陶器を出土する。

○５４０　日影遺跡　上田市大字下室賀字日影

日影集落東南方の畑地から、縄文期の石棒などを出土している。

○５４１　原遺跡　上田市大字上室賀字原

本組橋から南東に登った山麓の原集落内、および周辺の畑地から、前期から後期の土師器、前期の須恵器などが出土している。

○５４２　日向遺跡　上田市大字上室賀字日向

本組東北方の山麓の畑地、およそ2,５００㎡にわたって、前・中期の土師器が出土する。

○５４３　三ツ頭遺跡　上田市大字上室賀字三ツ頭

中組から三ツ頭山腹へ８００ｍほど登った畑地に、縄文中期の土器片が出土している。分布

範囲は明らかでない。

○５４４～５４５　中畑・山脇遺跡　上田市大字上室賀字中畑・山脇

前松寺東北方の中畑と西方の山脇地籍にわたって、東西およそ１５０ｍ、南北およそ５０ｍの範囲に、中・後期の土師器が出土する。

○５４６　上洞遺跡　上田市大字上室賀字上洞

上洞集落の東南方にある五位塚南方の畑地、およそ3,０００㎡にわたって、中～後期の土師器を出土する。

○５４７　中島遺跡　上田市大字上室賀字中島

水上神社北方約１５０ｍの複合扇状地扇端部にあり、道路沿いの畑、および宅地およそ2,５００㎡から、後・晩期の土師・須恵器が出土する。

○５４８　片山遺跡　上田市大字上室賀字片山

中組集落西北端の水沢川右岸扇状地にあり、分布範囲は明らかでないが、縄文期の石鏃を出土している。

○５４９　藤庄遺跡　上田市大字上室賀字藤庄

中組集落の西端部、県道真田新田線の北側斜面にあり、彌生後期の箱清水式土器を出土している。

○５５０　谷鬼遺跡　上田市大字上室賀字谷鬼

県道真田新田線を安坂峠に登る途中の松尾地籍開拓地にあり、およそ5,０００㎡にわたって、縄文早期の茅山式、前期の有尾式、中期の加曾利Ｅ式などの土器片・黒曜石屑、彌生後期の箱水式、後・晩期の土師・須恵器を出土している。

○５５１　鷹野遺跡　上田市大字上室賀字鷹野

入組集落北端部の入の池西方付近に、縄文期の石鏃が出土している。分布範囲は明らかでない。

○５５２　宮原遺跡　上田市大字上室賀字宮原

入組集落のほぼ中央西側の畑地、およそ3,０００㎡にわたって、縄文期の石鏃を出土している。

○５５３～５５４　原・滝遺跡　上田市大字浦野原・滝

兵庫集落の西北部の原地籍から西方の滝地籍の山麓畑地、南北およそ２００ｍ、東西およそ５０ｍにわたって、縄文期の石鏃、後期の土師・須恵器を出土している。

○５５５　城遺跡　上田市大字浦野字城

岡城跡のある浦野川左岸の台地にあり、団地の造成によって、かなりの部分が破壊されている。前期から晩期の土師器、前期の須恵器が、およそ3,０００㎡にわたって出土している。

○５５６　久保遺跡　上田市大字浦野字久保

浦野川左岸の岡集落東南端の台地上にあり、およそ3,０００㎡にわたって、中・後期の土師器が出土する。

○５５７　古城遺跡　上田市大字浦野字古城

岡集落北部の宗安寺周辺、およそ5,０００㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○５５８　東之宮遺跡　上田市大字浦野字東之宮

馬背神社の東方２５０ｍ付近を東昌寺に向う道路の東側、浦野城跡の山麓に続く斜面の畑地、およそ2,０００㎡にわたって、彌生後期の箱清水式、後期の土師器を出土している。

○５５９　西之宮遺跡　上田市大字浦野字西之宮

馬背神社の東方畑地、およそ4,０００㎡にわたって、後期の土師・須恵器を出土している。

○５６０　中馬越遺跡　上田市大字浦野字中馬越

馬背神社裏の道を西北方へおよそ３５０ｍほど進んだ地点の山麓台地から、耕作中に縄文期の打製石斧を出土した。また、道路南脇の畑で井戸を堀った折に、石臼や椀などの木器を出土したという。宿場時代の遺跡と思われるが、今後の精査を望みたい。

○５６１　入馬越遺跡　上田市大字浦野字入馬越

浦野上町の西端から、山道を西北へ３００ｍほど登った東昌寺南麓の窪地にあり、およそ3,０００㎡にわたって、縄文期の打製石斧・石錐、前期から後期の土師器、後期の須恵器を出土している。

○５６２　下前沖遺跡　上田市大字浦野字下前沖

浦里小学校の東方約１００ｍ付近の水田地帯にあり、耕作中に彌生後期の箱清水式、前期から後期の土師器、後期の須恵器を出土している。分布範囲は明らかでない。

○５６３　前沖内堀遺跡　上田市大字浦野字前沖内堀

阿鳥川南岸の浦里小学校付近から、縄文期の打製石斧・磨製石斧・石匙を出土している。

○５６４　上前沖遺跡　上田市大字浦野字上前沖

上町と阿鳥川の中間にある畑地と水田、およそ3,０００㎡にわたって、後・晩期の土師器を出土している。

○５６５　藤之木遺跡　上田市大字浦里藤之木

上田市役所川西支所の西南方、およそ１５０ｍ付近の畑地から、耕作中に弥生後期の箱清水式、前期初頭の土師器を出土している。分布範囲は明らかでない。

○５６６　本村遺跡　上田市大字浦野字本村

仁古田の本村西南方の畑地、およそ3,０００㎡にわたって、後期の土師器を出土している。

○５６７　西沢遺跡　上田市大字浦野字西沢

越戸集落北端の畑地から、後期の土師器が散量出土している。分布範囲は明らかでない。

○５６８　長谷塚遺跡　上田市大字室賀字長谷塚

日影集落北方の山麓にある保育園付近から、後期の土師器が出土している。分布範囲は明らかでない。

Ｂ古　墳

○５０１～５０９　半過古墳群

上田市大字小泉字清水下・駒場・北沢・矢坂・彫通・中ノ沢・滝沢

千曲川左岸の山麓に点在する９基の古墳を、半過古墳群と呼ぶことにした。しかし、この古墳群は、古墳時代後期のものと思われるが、前に述べたとおり、いずれの遺跡群と関係するのか、今後の課題となろう。

１号墳は下半過集落の西北端から、８０ｍほど登った標高およそ４８０ｍ付近の山麓の畑地脇にあり、墳丘はほぼ全壊し、わずかに石室の大石を露出させている。大正期に発掘され、奥行約２ｍ、幅1.５ｍ、高さ３ｍほどの玄室部から、刀子・鉄鏃・銀環・小玉・須恵器（石井則氏蔵）、人骨３体などを出土している。

２号墳は上半過の公会堂の南方、前沢を越えた山麓の駒場(二)地籍にあったが、破壊された。

３号墳は上半過集落の西北端にあたる標高４６０ｍ付所の窪地斜面にあり、僅かに積石を残している。

４号墳は下半過集落の標高４５０ｍ付近から、東寄りの谷沿いの道を３００ｍほど登った山麓台地にあったが、完全に湮滅された。

５号墳は県道上田稲荷山線の下半過口付近から、２００ｍほど上半過に寄った山麓にあったが、大正１０年の道路開設の際に破壊された。出土遺物は直刀・馬具・雲珠・紡錘車・鉄鏃などであり、泉田博物館に保管されている。

６・７・８号墳は、上半過の公会堂南方の道を、舌状台地の東側にとって、１００ｍほど登

ると、6号墳が石井文雄氏宅地内にあり、玄室の一部を残している。また、7・8号墳は、直刀・鍔などを出土したが、全壊して天井石の一部を残している。

9号墳は上半過集落の東寄りの畑地を西南方へ登った集落南端の山麓にあったが、完全に破壊された。

○510　八幡山古墳　上田市大字小泉字八幡山

浦野川北岸の弓崎神社脇から150mほど東北方へ登った山麓にあり、墳丘は破壊されて、石室の北側壁と天井石の一部が残っている。明治3年に発掘され、直刀・鉄鏃などを出土している。

○511～517　日向小泉古墳群

上田市大字小泉字宮ノ入・東村・西村・寺住平・蛇川原入・旗鉾・琵琶塚

高仙寺付近と日向小泉集落内に点在する7基の古墳を、日向小泉古墳群と呼ぶことにした。いずれも古墳時代後期に比定される円墳である。

1号墳は日向橋を渡って、東寄りの道を川沿いに200mほど登り、更に東岸に渡って100mほど山麓に入った地点の荒地にあったが、全壊して形態は明らかでない。

2号墳は日向橋の北岸より東へ100mほど進み、更に50mほど北へ登った宅地裏の石垣に、奥壁の一部が残っている。

3号墳は日向橋の北岸から、村中を西へ150mほど進み、更に北へ100mほど登った地点にあり、大石が僅かに残る程度で、形態は不明である。

4号墳は大日堂北方の標高570m付近にあり、「小県郡史」によると、径6mほどの円墳で、石室は奥行2.7m、幅1.3mの横穴式とされているが、半壊で確認できない。

5号墳は大日堂の東方、およそ100mの山腹にあり、「じょうげ塚」とも呼ばれたが破壊された。

6号墳は和合に向う道路の北脇、日向小泉集落の西端部にある。道路開設の折に破壊されて、奥壁と側壁の一部を残している。

7号墳は「琵琶塚」とも呼ばれ、日向橋の南岸100m付近から、更に東へ80mほど進んだ畑地にあり、全壊したが微地形に墳丘の面影を残している。

○518　将軍塚古墳　上田市大字小泉字和合

和合橋の北岸の道を、約150m東へ進んだ地点の北側約50mにあり、径26.6m、高さ2.4mの円墳で、石室は破壊され、土拡状を呈している。剣2振が出土し、泉田博物館に保管されている。

○５１９　神宮寺古墳　上田市大字下室賀字神宮寺

神宮寺の公会堂から西方へ、小道を５０ｍほど進み、更に北西に分れて山道を約５０ｍほど登った標高５５０ｍ付近の山腹にある。この地方の代表的古墳で、墳丘の径18.5ｍ、高さ6.8ｍの古墳時代後期に比定される円墳で、石室は奥行き7.67ｍ、幅2.18ｍ、高さ2.2ｍの横穴式であり、東側壁に円文がある。

○５２０　長谷塚古墳　上田市大字下室賀字長谷塚

日影集落と北方山麓の保育園との中間地点にあったが、県道の開設によって破壊された。後期の円墳と考えられ、直刀2振を出土して、室賀小学校に保管されている。

○５２１　塚田古墳　上田市大字上室賀字塚田

中組と下洞への道路の分岐点から、下洞寄りに４０ｍほど入った地点の北側に、室賀氏墳墓址といわれる場所がある。古墳はこの付近にあって、直刀などを出土したと伝えられるが、現在は所在が明確でない。およそこの付近と推定される。

○５２２　五位塚　　上田市大字上室賀字原田１１０９－ロ

明治初年までは、この名称がなく、五位の木・五位様・ゴヨノキなどと呼ばれていたが、明治１４年の「上室賀村誌」以来、五位塚の名が用いられ、「長野県町村誌・東信篇」には、国造他田氏の墓とされている。しかし、この塚を古墳とすべき根拠は乏しく、鎌倉期の板碑の所在などから、供養塚の一種と考えるのが妥当であろう。

○５２３　城古墳　上田市大字浦里字城

岡城跡のある地籍の畑地から、勾玉・金環などが出土し、ここに古墳があったことが知られる。しかし、現在は全壊して、形態は明らかでない。

○５２４　浦野塚古墳　上田市大字浦里字峰組林

浦野の東部から山腹へ、約８００ｍほど登った標高およそ７４０ｍ付近にあり、墳丘と羨道の一部を破損しているが、玄室はよく保存されている。墳丘の径が7.３５ｍ、高さが3.５ｍ、石室は横穴式で、奥行が5.５ｍ、幅が2.４５ｍ、高さが1.８ｍである。

c　特殊遺跡

○００３　清水下窯址

下半過集落の西南端から、小川沿いに林道を８０ｍほど登った地点の北側斜面にあり、道路開設の折に発見され、須恵器などが出土したと伝えられる。形態・規模等は明らかでないが、上平窯址と同期ごろの登り窯と思われる。

塩田平の遺跡

塩田平は、旧塩田町の全域にわたっている。塩田平には、産川を中軸として、西山麓に湯川、東山麓に尾根川が流れ、その下流の縫合線を、西には追開沢川、東には尻無川が流れている。そして、産川系には砂質壌土、湯川系には強粘土、尾根川系には砂礫質壌土と三つの川は、土質の組成にも大きな役割を果してきた。

南方の独鈷山山麓には、西前山の扇状地をつくる塩野川、東前山の扇状地をつくる神戸川、現在も活発な動きをもって、扇端部の集落に被害を与え、最近圃場整備と併せて、改修工事の行われた石神川などがある。

また、尾根川の東には、雨吹川・駒瀬川が流れて、しだいに尾根川に合流し、更に、下流の東山山麓には、三郎川が西流して、これも尾根川に注いでいる。

塩田平は、これらの河川を骨組として、南方から北方に向って狭隘となる扇状を呈している。この周囲には、西部山地・独鈷山脈・小牧山塊などが連なり、内陸的な気象と山地の水脈の浅いことなどから、１００にもおよぶ溜池がつくられることとなった。

旧塩田町は、昭和３１年に西塩田・中塩田・東塩田・別所の４か村を合併して塩田町となり、昭和４５年に上田市と合併した。西塩田村は、明治２２年に十人・前山・手塚・山田・野倉の５か村を合併して成立したが、そのうち、前山村は明治７年に東前山・西前山の２村を、手塚村は明治８年に手塚・新町の２村を合併したものである。また、中塩田村は、明治２２年に本郷・五加・小島・保野・中野・舞田・八木沢の７か村を合併して誕生した。更に、東塩田村は、昭和24年に旧東塩田と富士山の２村を合併して生まれたが、以前ここは松本村と称し、その後、この村は西松本村と東松本村に分村した。西松本村は幕藩時代に、鈴子・石神・柳沢の３村に分かれ、再び平井寺村を加えて古安曽村となり、明治２２年に下之郷村と合併して東塩田村となった。また、東松本村は、幕藩時代に奈良尾・町屋の２村に分かれたが、再び明治７年に合併して富士山村となった。別所村は、こうした変遷の中で、ひとりそのままの姿を続けてきた。

(1) 縄文時代の遺跡

塩田平の縄文遺跡は、７８か所で、市内の同期遺跡のおよそ半数が、この地区に分布している。そして、分布の状態を地図の上で眺めれば、まず湯川の上流に、早期の塩水（茅山期）・比図樹（繊維土器）の２遺跡があり、前期の北浦遺跡がこれに続いている。産川流域では、中流の神戸遺跡の前期有尾期の文化にはじまり、中期になると、手塚・前山・新町・十人・上本郷・五加の各地籍に、流域両岸のほとんどを埋め、縄文全期の遺跡数の大半を占めている。そして、後期に

は、再び中流の梨ノ木（堀之内期）に下っているが、この時期から晩期にかけての様相は、いまのところ十分に解明されていない。次に、尾根川・雨吹川・駒瀬川の流域では、中期初頭のころにはじまり、勝坂・加曾利E期に、上流と中流の地籍に、多く分布している。この地籍でも、後・晩期の文化は明らかでない。

このように多くみられる遺跡も、いまのところ学術的な調査は、2・3の例にとどまり、圃場整備などによって、急激に破壊されていることは、まことに憂慮される事態である。

(2) 彌生時代の遺跡

この時期の遺跡は、91遺跡を数え、佐久の岩村田付近・神川流域と並んで、東信地方における彌生文化の一大中心地となっている。そして、箱清水式と呼ばれる後期の土器文化は、枠木遺跡・西光坊遺跡出土のかめ形土器の施文法をみると、器面にこまかく施された櫛描波状紋が、しだいに粗くなり、終末期の土器には、更に内面にも粗い斜線を描き、S字口縁と呼ばれる独特な口辺部をもつ五領1式土器に移行していくが、実際には、これらが同一面に伴出する場合が多い。

彌生期の遺跡の分布は、大部分が産川の流域に集中し、手塚・前山・上本郷・古安曾・五加などの地籍に広く発達している。また、尾根川・雨吹川・駒瀬川の中流地域にも、かなりの遺跡の分布がみられる。

そして、これらの遺跡は、現在畑になっているところはもちろん、水田地帯にも広く分布していることから、当時の農耕地は河川に沿った一部の低湿地に限られ、人口もかなり少なかったことが伺われる。しかし、最近これらの地域では、ほとんど全域にわたって圃場整備が実施され、宅地周辺以外の遺跡は、十分な調査を行われないままに消滅しつつある。

(3) 古墳時代の遺跡

新町の王子に、中期に比定される王子塚古墳があるほかは、すべてが後期の円墳で、南西面する小牧山塊の東山を中心に、東信最大級の古墳群を形成している。これらの古墳の分布は、Aクラスの古墳はないが、Bクラスの径20m前後の古墳を中心に、数基のCクラスの古墳がまとまり、更に全体としての東山古墳支群をつくり、更に北方の紅平山古墳支群、南方の雲雀古墳支群とともに、数十基の下之郷古墳群を形成している。しかし、これらも多くは破壊・湮滅されて、現在確認できるのは、わずかに49基に過ぎない。しかし、村の人びとの話を総合すれば、更に紅平山古墳支群に、20数基を加えることになり（現在までに確認されたものは4基である）、

全体としては７０基前後の群集墳であったと思われる。独鈷山脈の山麓にも、現在数基の古墳が点在している。しかし、この地域は、北面の山麓傾斜であるから、地形的に立地条件が悪く、分布の少ないことは予想される。しかし、湯川に沿った東・南麓に、わずか１０基前後の小円墳しか所在しないのはなぜだろうか。たしかにこの川の中・上流域には、彌生期の遺跡が極めて少なく、これに続く古墳時代の遺跡も貧弱である。これに対して、産川と尾根川の流域には、ほとんどの微高地や山麓の傾斜地に、遺跡が密集し、遺跡は数期にわたる複合遺跡を形成する場合が多い。しかし、この時期の遺跡も、学術的な発掘調査が行われたのは、僅かに諏訪畑・枠木・内畑・西光坊・向田・石原・天神・山田屋敷の７遺跡で、現在圃場整備による急激な破壊が進んでいる。

なお、この時期から歴史時代にかけて、国造他田氏に関する史・資料や伝承・文献が多く、遺跡と関連して考察する必要がある。しかし、本稿は分布調査の報告であり、また紙数の関係もあって、他日に譲ることとした。

(4) 歴史時代の遺跡

塩田平は、「信州の鎌倉」などとも呼ばれ、中世における遺跡や仏塔が多い。東鑑によれば、この地には最勝光院領の塩田荘があり、その後、鎌倉時代には、重時流の北条氏、すなわち義政を祖とする塩田氏が支配した。

また、古墳時代に続く土師器の晩期（奈良・平安時代）の遺跡は、後期の遺跡と同様に、産川と尾根川の流域に多く分布し、条里遺構も、主として産川の左岸を中心に分布しているものと考えられている。

6. 中塩田地区の遺跡

A 遺　跡（遺物包蔵地）

○６０１　菱池遺跡　上田市大字小島字菱池

下小島集落の北端から、西方へおよそ３００m寄った湯川沿いにあり、およそ5,０００㎡にわたって、縄文期の打製石斧、彌生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器が出土している。

○６０２　樋田遺跡　上田市大字小島字樋田

菱池遺跡と県道鹿教湯別所上田線の間にあり、およそ5,０００㎡にわたって、後期の土師・須恵器を出土する。

○６０３　前田遺跡　上田市大字小島字前田

上小島集落の北方約１００ｍの地籍にあり、およそ3,０００㎡にわたって、後期の土師器を出土する。

○６０４　起遺跡　上田市大字本郷字起

下小島集落の東北方約４００ｍの産川西岸にあり、およそ3,０００㎡にわたって、後・晩期の土師器を出土している。

○６０５　塩田遺跡　上田市大字本郷字塩田

下小島集落の北方約１００ｍ付近の畑、およそ2,５００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器を出土する。

○６０６　道添遺跡　上田市大字本郷字道添

下小島集落の東南方、産川東岸の県道沿い、およそ2,０００㎡にわたって、縄文期の石鏃・石皿・石棒、弥生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器を出土している。

○６０７～６０９　下川原・下窪・金鉾遺跡　上田市大字本郷字下川原・下窪・金鉾

下本郷集落の北端から、南北およそ３００ｍ、道路の東方約１００ｍの範囲に下川原、西方約２００ｍの範囲に北方の下窪、南方の金鉾の3遺跡がある。西方の2遺跡は、圃場整備で全壊状態である。いずれも後期の土師・須恵器を出土し、一連の遺跡と考えられる。

○６１０　善明遺跡　上田市大字本郷字善明

下本郷集落の中央部東南の地籍から、磨製石斧が単独出土している。

○６１１　神戸遺跡　上田市大字五加字神戸

南宮ノ宮から産川東岸に渡った大下の北東方、およそ8,０００㎡にわたって、縄文前期の有尾式、中期の勝坂式・加曽利Ｅ式、後期の堀之内式の土器片・土偶（脚部）・石鏃・打製石斧・磨製石斧・石錐・石匙・石皿・石錘・石棒、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○６１２　下川原遺跡　上田市大字五加字下川原

大下の北西部、産川東岸の微高地にあり、およそ5,０００㎡にわたって、後期の土師・須恵器を出土する。

○６１３　宮原遺跡　上田市大字五加字宮原

南宮ノ宮東北方の畑地、およそ5,０００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式、前期から後期の土師器、後期の須恵器を出土する。

○６１４　梅ノ木遺跡　上田市大字五加字梅ノ木

大下東南部の畑地、およそ5,０００㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器を出土する。

○６１５　内堀遺跡　上田市大字五加字梅ノ木

上田交通別所線中塩田駅から約３５０ｍほど下之郷に寄った地点の産川西岸にあり、およそ１０,０００㎡にわたって、彌生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器を出土する。この台地の周囲には堀がめぐらされ、地名の考証などからも、平安後期ごろの居館址の所在が推定される。しかし、産川西岸部から、県営住宅の団地造成が進められており、早急に保護対策が望まれる。

○６１６　北股遺跡　上田市大字五加字北股

五加集落東北方の上田交通別所線と産川にはさまれた畑地と水田地帯にあり、圃場整備により大部分が失われたが、およそ5,０００㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器を出土している。

○６１７　梨ノ木遺跡　上田市大字五加字梨ノ木

内堀と堀を隔てた北西方の道路沿いにあり、およそ８,０００㎡にわたって、縄文後期の堀之内式、彌生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器を出土している。

○６１８　富在家遺跡　上田市大字五加字富在家

五加集落の東北部の畑、および宅地内にあり、分布範囲は明らかでないが、彌生後期の箱清水式、前期から後期の土師器、後期の須恵器などを出土している。

○６１９　北在家遺跡　上田市大字五加字北在家

五加前池北方の県道塩田仁古田線の北沿いにあり、縄文期の打製石斧、後期の土師・須恵器を出土している。宅地化が進み、分布範囲は明らかでない。

○６２０　吹上遺跡　上田市大字五加字吹上

五加集落東方の上田交通別所線南沿いにあり、およそ5,０００㎡にわたって、縄文中期の勝坂式、後・晩の土師・須恵器を出土している。しかし、最近圃場整備により大部分が破壊された。

○６２１　南股遺跡　上田市大字五加字南股

尻無川と吹上遺跡の間にあり、およそ５,０００㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器を出土している。最近圃場整備により完全に破壊された。

○６２２　池下遺跡　上田市大字五加字池下

五加池の東方約７,０００㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器を出土する。最近圃場整備により、大部分が破壊された。

○６２３～６２４　石原・水口在家遺跡　上田市大字五加字石原・水口在家

五加前池の南方の水口在家から、石原遺跡の東限まで、東西およそ４００m、南の長丁遺跡（632）、古安曾の各遺跡（839・846～851）を含む南北およそ４００mの広大な遺跡であるが、石原遺跡と上向田遺跡（848）の一部が発掘調査[1]されただけで、圃場整備により、ほとんど全遺跡が破壊された。出土遺物は彌生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器である。

○６２５　南在家遺跡　上田市大字五加字南在家

五加前池の西方集落内にあり、分布範囲は明らかでないが、縄文期の打製石斧・彌生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器を出土している。

○６２６　八丁遺跡　上田市大字五加字八丁

塩田支所の東北方約２５０m付近の水田地帯にあり、およそ2,５００㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器を出土している。

○６２７　宮浦遺跡　上田市大字上本郷字宮浦

塩田支所の東側の道路と八丁遺跡の中間にある水田地帯、およそ3,０００㎡にわたって、彌生後期の箱清水式、後期の土師器などを出土している。

○６２８　長畝遺跡　上田市大字上本郷字長畝

上本郷集落東北方の畑地、およそ6,０００㎡にわたって、縄文期の打製石斧、彌生後期の箱清水式、前期から晩期の土師器、後期の須恵器を出土している。

○６２９　西村遺跡　上田市大字上本郷字西村

上本郷集落の西北部にあり、分布範囲は明らかでないが、縄文期の石錘・石棒を出土している。

○６３０　諏訪畑遺跡　上田市大字上本郷字諏訪畑

上本郷集落の西北方の畑地、およそ3,０００㎡にわたって、縄文中期の加曾利E式土器・打製石斧・石匙、彌生後期の箱清水式、前期から晩期の土師器、後期の須恵器が出土している。

○６３１　枠木遺跡　上田市大字上本郷字枠木

産川東岸のオルガン針本社付近で、神戸川が合流して、周辺よりやや高い堆積地形をつくっているが、遺跡はこの合流点の東沿いにあり、彌生後期の箱清水式土器、前期から晩期の土師器、後期の須恵器が出土[2]している。圃場整備により、大部分が破壊された。

○６３２　長丁遺跡　上田市大字上本郷字長丁

五加前池の南方約２００m付近にあり、前に述べた水口在家（624）などと一連の遺跡と考えられる。出土遺物は彌生後期の箱清水式、前期から晩期の土師器、後期の須恵器などである。

○６３３～６３４　才光坊・幅合遺跡　上田市大字上本郷字才光坊・幅合

上本郷集落の東方に隣接し、南北およそ２５０ｍ、東西およそ２００ｍの範囲にわたって、北の才光坊と南の幅合の２遺跡が並列し、ともに彌生後期の箱清水式、前期から晩期の土師器、後期の須恵器が出土[(3)]している。２遺跡は圃場整備により大部分が破壊された。

○６３５～６３７　中井・青木・下宿遺跡　上田市大字保野字中井・青木・下宿

保野集落の東部から、湯川の西岸段丘面を北東に向って帯状に、長さおよそ７００ｍ、幅50～６０ｍの範囲にわたって、彌生後期の箱清水式、前・中期の土師器、後期の須恵器が出土している。３遺跡は沿岸に展開された一連の遺跡であろう。

○６３８　上宿遺跡　上田市大字保野字上宿

保野集落の西部にあり、分布範囲は明らかでないが、前・中期の土師器、後期の須恵器を出土している。この遺跡も下宿遺跡と一連の古墳時代の遺跡であろう。

○６３９　元屋敷遺跡　上田市大字保野字元屋敷

宮ノ入集落中央の湯川沿いにあり、分布範囲は明らかでないが、後期の土師・須恵器を出土している。

○６４０　久保遺跡　上田市大字中野字久保

湯川と追開沢川が合流する地点の西南部、追開沢川東岸にあり、彌生後期の箱清水式土器・太形蛤刃石斧を出土している。学海団地の造成によって破壊され、分布範囲は明らかでない。

○６４１　新田遺跡　上田市大字中野字新田

塩田中学校の南方にあり、およそ6,０００㎡にわたって、後期の土師・須恵器が出土する。

第１０図　才光坊遺跡の住居址（土師後期）

○６４２　鍛冶屋敷遺跡　上田市大字中野字鍛冶屋敷

追開沢川東岸の中野前池と共有池の堰堤中間地点にあり、分布範囲は明らかでないが、縄文期の石鏃が出土している。

○６４３　和手遺跡　上田市大字中野字和手

上平池の東方約３００ｍ付近にあり、およそ5,000

㎡にわたって、後・晩期の土師器、後期の須恵器が出土している。

○644　飯縄腰遺跡　上田市大字中野字飯縄腰

舞田集落東北方、湯川の北岸山麓にあり、小範囲から縄文期の石鏃を出土する。

○645　塩野入遺跡　上田市大字中野字塩野入

舞田集落の西北端、仁古田に通ずる道路の東沿いにあり、およそ6,000㎡にわたって、縄文期の石鏃、後期の土師器を出土している。

○646～647　上平・柳堂遺跡　上田市大字中野字上平、大字八木沢字柳堂

上平池南方の畑地にあり、南北およそ300m、東西およそ80mの範囲に南（柳堂）北（上平）に並列し、後期の土師・須恵器を出土している。2遺跡は一体のものと考えられる。

○648～649　上丸田・中丸田遺跡　上田市大字八木沢字上丸田・中丸田

上田交通別所線の八木沢駅東方約300m付近から北方へ、南北およそ100m、東西およそ100mの範囲で南（上丸田）北（中丸田）に並列し、縄文期の石鏃・石錐を出土している。

○650　表田中遺跡　上田市大字八木沢字表田中

上田交通別所線の八木沢駅東北方約100mにあり、分布範囲は明らかでないが、前期から後期の土師器、後期の須恵器が出土している。

○651　塚田遺跡　上田市大字八木沢字塚田

上田交通別所線の八木沢駅南方約300mの水田地帯にあり、およそ5,000㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器を出土している。

○652～653　砂畑・馬場遺跡　上田市大字八木沢字砂畑・馬場

八木沢公民館の付近を北端として、湯川の南岸約150mの範囲に、北岸の砂畑遺跡と南岸の馬場遺跡が、およそ50～60mの幅で南北に並列する。出土遺物はともに弥生後期の箱清水式、前期から後期の土師器、後期の須恵器である。地形的に問題は残るが、一連の遺跡と思われる。

○654　池田口遺跡　上田市大字八木沢字池田口

山田池西北岸の山麓にあり、およそ3,000㎡にわたって、後期の土師・須恵器が出土する。

○655　北山越遺跡　上田市大字本郷字北山越

下小島集落の北方約200mの道路沿いにあり、およそ5,000㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器を出土する。

○656　上原遺跡　上田市大字本郷字上原

上原池西北方の水田地帯にあり、後期の土師・須恵器が出土している。最近圃場整備によっ

て破壊され、分布範囲は明らかでない。

○６５７　屋敷遺跡　上田市大字小島字屋敷

上小島公民館付近の集落内にあり、分布範囲は明らかでないが、後期の土師・須恵器を出土している。

註１　小林幹男　川上　元　「西光坊・向田　・石原遺跡緊急発掘調査報告」　上田市教委　昭４７

註２　川上　元　小林幹男　「長野県小県郡塩田町枠木遺跡緊急発掘調査報告」　信濃２２－８　昭４５

註３　註１に同じ

Ｂ　古　　墳

○６０１　神戸古墳　上田市大字五加字神戸

南宮ノ宮から産川の東岸へ渡った大下の北東にあり、勾玉が出土した。既に破壊されていて、形態は明らかでない。

○６０２　西行塚　上田市大字中野字槻ノ木

中野集落の西方、追開沢川東岸の道路東脇にあり、墳頂に多重塔がのっている。墳丘はほとんど全壊し、残存部の径が８ｍ、高さ1.2ｍであり、古墳とするには疑問が残る。

○６０３～６０５　池田山第１・２・３号墳　上田市大字八木沢字向池田

山田峠頂上の東側山林内に１・２号墳が並列している。１号墳は径１７ｍ、高さ４ｍの円墳で、ほぼ完存して石室の一部を露出し、２号墳は破壊されて積石の一部を残している。３号墳は山麓の山田池西北岸にあったが、湮滅されて形態は不明である。

○６０６　口明塚古墳　上田市大字保野字口明塚

横山集落の南端から１５０ｍほど塩吹池の方向に進んで、更に１００ｍほど畑地を西方に登った地点にある。最近までほぼ完全な状態にあったが、現在は天井石を失い、半壊の状態となっている。墳丘は径１６ｍ、高さ４ｍの円墳である。

○６０７　富士塚　上田市大字保野字富士塚

塩吹池の西岸から、尾根の小道を北西に３００ｍほど登った山頂部にある。墳丘の径が4.9ｍ、高さが1.5ｍの円墳である。古墳とするには疑問があり、信仰塚の一種であろう。

○６０８　入山塚　上田市大字八木沢字入山

舞田集落の北端部から、仁古田に向って約４００ｍほど進んだくの字形のカーブの旧道沿い

にあり、修験塚と伝承されている。

7. 別所・西塩田地区の遺跡

A 遺　跡（遺物包蔵地）

○７０１　宮ノ前遺跡　上田市大字別所字宮ノ前

八木沢集落西端部の北方約２００ｍの山麓にあり、およそ5,０００㎡にわたって、縄文期の石鏃、後期の土師・須恵器が出土している。

○７０２　中曾根遺跡　上田市大字別所字中曾根

別所小学校の北東約６００ｍの山麓の畑地、およそ3,０００㎡にわたって、後期の土師器が出土している。

○７０３　比隅樹遺跡　上田市大字別所字比隅樹

別所小学校の北方に造成された団地付近から、縄文早期の繊維土器・打製石斧・磨製石斧・石匙が出土している。分布範囲は判然としない。

○７０３　欠下遺跡　上田市大字別所字欠下

別所小学校の裏地から、縄文期の打製石斧が出土している。

○７０４・０１７　北谷遺跡　上田市大字別所字北谷

安楽寺の東脇の山道を６００ｍほど北方へ登った山腹のテラス状の台地にあり、後期の須恵器、厚手の布目瓦を出土している。古代寺院の所在が考えられる。

○７０６　弁財遺跡　上田市大字別所字弁財

安楽寺の門前を、西方に走る谷沿いの小道に従って、８００ｍほど登った山麓の畑地にあり、2,５００㎡にわたって、後期の須恵器が出土している。

○７０７　北浦遺跡　上田市大字別所字北浦

別所温泉から西方の日向に登って、更に西端部から北西方に小道を約１㎞進んだ山腹の畑地にあり、範囲は判然としないが、縄文前期の南大原式の土器が出土している。

○７０８　塩水遺跡　上田市大字別所字塩水

日向の西端から更に１㎞ほど西方に登った山腹の畑地にあり、範囲は判然としないが、縄文早期の茅山式土器・石鏃・打製石斧が出土している。

○７０９　嶽之尾遺跡　上田市大字別所字嶽尾

日影の西端から山麓の道を西南方へ約９００ｍ登った地点の畑地にあり、縄文期の石鏃が出

土している。

第１１図　西塩田・中塩田の遺跡景観

○７１０　宮ノ上遺跡

上田市大字野倉字宮ノ上

野倉中央神社裏の東面の山麓から、縄文期の石鏃が出土している。

○７１１　湯小路遺跡

上田市大字野倉字湯小路

野倉中央の南面の麓から、縄文期の石鏃、中世の内耳土器が出土している。

○７１２　荒井遺跡　上田市大字野倉字荒井

野倉集落の東部山麓の畑地から、縄文期の石鏃・打製石斧、後期の須恵器、中世の内耳土器が出土している。分布範囲は明らかでない。

○７１３　中ノ洞遺跡　上田市大字野倉字中ノ洞

野倉集落の東端部山麓の畑地から、縄文期の石鏃、後期の土師器が出土している。

○７１４・０１８　穴平遺跡　上田市大字野倉字穴平

穴平集落の東北方約１５０ｍの畑地、およそ5,０００㎡にわたって、後期の土師・須恵器、奈良時代から平安時代にわたる布目瓦が出土している。古代寺院の所在が考えられる。

○７１５　池下遺跡　上田市大字十人字池下

甲田池北方の畑と水田地帯にまたがり、およそ5,０００㎡にわたって、後期の土師・須恵器が出土する。

○７１６～７１７　下村・中村遺跡　上田市大字十人字下村・中村

甲田池の南方約１００ｍ付近から、南北およそ１５０ｍ、東西およそ１５０ｍの範囲にわたって、東北に下村、西南に中村の２遺跡が並列し、彌生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器が出土している。

○７１８　前田遺跡　上田市大字十人字前田

甲田池の西南方にあり、およそ5,０００㎡にわたって、後期の土師・須恵器が出土している。

○７１９　古屋敷遺跡　上田市大字十人字古屋敷

甲田池の西方約１５０ｍ付近を中心に、およそ8,０００㎡の範囲にわたって、縄文中期の加曾利Ｅ式、後期の土師・須恵器が出土する。

○７２０　玉影遺跡　上田市大字十人字玉影

中之前池と荒池のほぼ中間付近にあり、およそ5,０００㎡にわたって、縄文期の打製石斧、弥生後期の箱清水式土器・石庖丁、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○７２１　軒民遺跡　上田市大字十人字軒民

荒池の南東にあり、およそ１０,０００㎡にわたって、縄文中期の勝坂式、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○７２２　加生遺跡　上田市大字十人字加生

上田交通別所線の舞田駅南東約２００ｍ付近の線路沿いにあり、小範囲にわたって、縄文期の石匙、弥生後期の箱清水式土器が出土している。

○７２３　西沖遺跡　上田市大字十人字西沖

上田交通別所線の舞田駅南東方約３００ｍの水田地帯にあり、およそ5,０００㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○７２４　深町遺跡　上田市大字新町字深町

甲田池の西方約５００ｍの水田地帯にあり、およそ6,０００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○７２５　細江場遺跡　上田市大字新町字細江場

荒池の西方約３００ｍの水田地帯にあり、約8,０００㎡にわたって、縄文中期の勝坂式、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○７２６　中村遺跡　上田市大字新町字中村

王子神社の北方約２５０ｍの畑地にあり、およそ5,０００㎡にわたって、縄文期の磨製石斧、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○７２７　王子遺跡　上田市大字新町字王子

王子神社南方の畑地、およそ１０,０００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○７２８　加坂遺跡　上田市大字手塚字加坂

上田交通別所線の舞田駅南方約４００ｍの追開沢川東岸にあり、およそ2,５００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式、後期の須恵器が出土している。

○７２９　東長畑遺跡　上田市大字手塚字東長畑

荒池の西方約５００ｍの水田地帯にあり、およそ5,０００㎡にわたって、縄文期の打製石斧、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○７３０　縄手遺跡　上田市大字手塚字縄手

王子神社の北西方約１５０ｍの水田地帯にあり、およそ5,０００㎡にわたって、後・晩期のの土師・須恵器が出土している。

○７３１　五反田遺跡　上田市大字手塚字五反田

西塩田小学校北方の畑地と水田地帯にあり、およそ8,０００㎡にわたって、縄文中期の初頭型式・加曾利Ｅ式、弥生後期の箱清水式土器が出土する。

○７３２～７３３　堰口ノ一・堰口ノ二遺跡　上田市大字手塚字堰口ノ一・堰口ノ二

西塩田小学校の東方から、南北およそ２００ｍ、東西およそ８０ｍにわたって、南側の堰口ノ一、北側の堰口ノ二の２遺跡が並列し、縄文中期の勝坂式・加曾利Ｅ式（堰口ノ二遺跡には、中期初頭型式を含む）の土器・石鏃・打製石斧・磨製石斧・石錐・石匙・石皿・凹石・砥石・石錘・石棒、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○７３４・０１９　堰口ノ三遺跡　上田市大字手塚字堰口ノ三

王子神社の西方にあり、およそ６００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器・奈良時代と推定される布目瓦が出土している。布目瓦が出土していることから、古代寺院の存在が考えられる。

○７３５～７３６　立石・東紺屋村遺跡　上田市大字手塚字立石・東紺屋村

西塩田小学校の東南方にあり、南北約２００ｍ、東西約１００ｍにわたって、北方に立石、南方に東紺屋村の２遺跡が並列し、ともに縄文中期の勝坂式・加曾利Ｅ式、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○７３７　樋ノ口遺跡　上田市大字手塚字樋ノ口

樋ノ口集落の北部畑地にあり、およそ5,０００㎡にわたって、縄文中期の加曾利Ｅ式土器・石棒、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○７３８　滝沢遺跡　上田市大字手塚字滝沢

手塚集落の西南方の水田地帯にあり、分布範囲は明らかでないが、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○７３９　西紺屋村遺跡　上田市大字手塚字西紺屋村

西塩田小学校の西南方の畑地と水田地帯にあり、およそ4,０００㎡にわたって、縄文中期の

勝坂式・加曾利E式、彌生後期の箱清水式、後・晩期の土師器が出土している。

○７４０　金井遺跡　上田市大字手塚字金井

金井集落の東北部畑地にあり、およそ2,５００㎡にわたって、彌生後期の箱清水式土器が出土している。

○７４１　塚田遺跡　上田市大字手塚字塚田

荒池集落の西方約２００ｍの水田地帯にあり、およそ5,０００㎡にわたって、彌生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器が出土している。

○７４２　沢山遺跡　上田市大字前山字沢山

沢山湖の南岸から、縄文期の石鏃が出土している。

○７４３　検田見遺跡　上田市大字前山字検田見

荒池の東南方約１５０ｍの段丘端付近にあり、およそ5,０００㎡にわたって、縄文中期の勝坂式土器・土偶・打製石斧・磨製石斧・石棒・石鏃・石皿、彌生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○７４４　甲田遺跡　上田市大字前山字甲田

産川東岸のオルガン針本社敷地内にあり、分布範囲は判然としないが、後期の土師器が出土している。

○７４５　下城戸遺跡　上田市大字前山字下城戸

オルガン針工場の南方の畑地、およそ2,５００㎡にわたって、縄文期の打製石斧・磨製石斧、彌生後期の箱清水式、後期の土師器が出土している。

○７４６　藤ノ木遺跡　上田市大字前山字藤ノ木

オルガン針工場の西南方、産川の東岸にあり、およそ3,０００㎡にわたって、縄文中期の加曾利E式土器・石鏃・磨製石斧、彌生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器が出土している。

○７４７　道成遺跡　上田市大字前山字道成

東前山集落の北端部、県道別所丸子線から１５０ｍほど南方に入った畑地と宅地にあり、およそ3,０００㎡にわたって、縄文中期の加曾利E式土器・磨製石斧、彌生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器が出土している。

○７４８　箱田遺跡　上田市大字前山字箱田

道成遺跡の西方約２００ｍの産川東岸の扇状地にあり、およそ２0,０００㎡にわたって、彌生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器が出土する。

○７４９～７５１　上神戸・立町・上町遺跡　上田市大字前山字上神戸・立町・上町

東前山集落の縁辺に、北東方の上神戸・西方の立町、南方の上町の３遺跡が点在し、いずれも2,５００～3,０００㎡の範囲に、縄文期の石鏃や石斧、弥生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器が出土している。宅地で分断されているため、一連の遺跡かどうか判然としない。

○７５２　中島遺跡　上田市大字前山字中島

東前山集落の南部から、手塚方向に１５０ｍほど進んだ道路の北方にあり、約１０,０００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式、後期の土師器が出土している。

○７５３～７５４　入海道・塩野間遺跡　上田市大字前山字入海道・塩野間

塩野池の北西方から、東前山と手塚をつなぐ道路の南方にかけて、南北およそ３５０ｍ、東西は南端で約４０ｍ、北端部で約１００ｍの幅に、北方の入海道と南方の塩野間の２遺跡が並列し、ともに後期の土師器を出土している。

○７５５　銀杏木遺跡　上田市大字前山字銀杏木

塩野川が産川に注ぐ地点の東岸段丘上にあり、およそ１５,０００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式土器・太形蛤刃石斧、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○７５６　下原遺跡　上田市大字前山字下原

産川と塩野川が合流する地点の南方、中間の台地上にあり、およそ2,５００㎡にわたって、縄文期の石鏃・打製石斧、弥生後期の箱清水式土器・石庖丁、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○７５７　宮原遺跡　上田市大字前山字宮原

塩野神社の北方約４００ｍの塩野川東岸扇状地にあり、およそ5,０００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器が出土している。

○７５８　中原遺跡　上田市大字前山字中原

塩野川西岸の西前山集落北西方にあり、およそ１０,０００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式土器・太形蛤刃石斧・石庖丁、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○７５９　上原遺跡　上田市大字前山字上原

西前山集落の公民館の北西方約１５０ｍの畑地にあり、およそ5,０００㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○７６０　東馬場遺跡　上田市大字前山字東馬場

西前山集落公民館の西方約３５０ｍ付近の畑地にあり、およそ5,０００㎡にわたって、縄文期の打製石斧・石錐・有孔石錘、弥生後期の箱清水式土器・磨製石鏃、後期の須恵器が出土し

ている。

○７６１　西馬場遺跡　上田市大字前山字西馬場

塩野神社の西方約５００ｍの産川東岸の段丘端にあり、およそ2,５００㎡にわたって、後期の土師・須恵器が出土する。

○７６２　前矢ノ倉遺跡　上田市大字前山字矢ノ倉

中禅寺北西方の畑地にあり、およそ3,０００㎡にわたって、縄文期の石鏃・打製石斧、弥生後期の箱清水式土器・石庖丁が出土している。

○７６３　西村遺跡　上田市大字山田字西村

山田集落の西北部の畑地にあり、およそ2,500㎡にわたって、後期の土師器が表採される。

○７６４　塚田遺跡　上田市大字山田字塚田

山田池の東方約３００ｍの水田地帯、およそ5,０００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器が出土している。

○７６５　原田遺跡　上田市大字山田字原田

山田池東方の畑地と水田地帯、およそ3,０００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式、後期の須恵器が出土している。

○７６６　竹ノ裏遺跡　上田市大字山田字竹ノ裏

山田集落の西北方から、山田池の南方にのびる舌状の台地上にあり、およそ4,０００㎡にわたって、縄文期の磨製石斧、後期の須恵器が出土している。

○７６７　槻ノ木遺跡　上田市大字山田字槻ノ木

山田集落西南方の畑地にあり、およそ3,０００㎡にわたって、縄文期の石鏃、後期の土師器が出土している。

○７６８　上打越遺跡　上田市大字山田字上打越

山田集落の東方から、南の山麓へ４００ｍほど登った畑地にあり、分布範囲は判然としないが、縄文期の石鏃が出土している。

○７６９　西大湯遺跡　上田市大字別所字大湯

別所温泉の大湯から、野倉に向って２５０ｍほど登った別所観光ホテル敷地内にあり、分布範囲は判然としないが、工事中に後期の土師器が出土している。

○７７０　日影遺跡　上田市大字別所字日影

別所温泉の西端から、南麓沿いに３００ｍほど登った地点にあり、分布範囲は明らかでないが、後期の土師・須恵器が出土している。

B 古　墳

○７０１～７０６　六部塚第１・２・３・４・５・６号　上田市大字野倉字ジッカブ

穴平集落の東南端から、山道を東方へ４００ｍほど登った山頂にあり、中央の１基を取りまくように、５基が円形に並んでいる。かつては南部にもう１基があり、計７基であったという。この部分だけが等間隔でなく、大きく間をあけていることから、事実と考えてよかろう。いずれも墳丘の径が７ｍ～９ｍ、高さが1.5ｍほどの円墳で、石室[1]はなく、古墳とは考えられない。

○７０７・７０８　宮原第１・２号　上田市大字前山字宮原・鉄杏木

１号墳は塩野池の西方約１００ｍの竹やぶの中にあり、墳丘は径が１０.８ｍ、高さが２ｍの円墳である。石室の存在は明らかでない。２号墳は、東前山から手塚に通ずる道路沿いの塩野川東岸にあり、勾玉・管玉などを出土しているが、完全に破壊された。

○７０９～７１０　上ノ山塚第１・２号　上田市大字山田字下打越

山田集落の東南方約１００ｍから、南方の山麓に向って小道をおよそ１５０ｍほど登った地点に２基が並列していた。しかし、２号墳は全壊し、１号墳のみが現存している。古墳とするには疑問が残る。

○７１１　北ノ沢古墳　上田市大字山田字北ノ沢

山田峠の頂上、道路の南側にあったが、完全に破壊され、柿の木がその地点にある。

○７１２　横山塚　上田市大字山田字竹ノ裏

山田集落の北西部から、山田池の南方に舌状にのびる台地上にあり、墳丘は道路や耕作の折に半壊されている。石室の存在は不明である。

○７１３　皇子塚古墳　上田市大字手塚字王子塚

金井集落の西南方、不動池の西方山麓の標高約５３０ｍの台地上にある。墳丘の径は14およそ16.6ｍ、高さ3.3ｍの円墳で、石室は奥行き6.4ｍ、奥壁部幅2.2ｍ、高さ2.16ｍの袖無型横穴式であり、ほぼ完存する終末期の古墳として市指定文化財になっている。

○７１４　クチアケ塚古墳　上田市大字手塚字滝沢

無量寺参道入口の樋口集落北端部にあったが、全壊して積石が石橋などに使われている。

○７１５　王子塚古墳　上田市大字新町字王子

王子神社の境内にあり、塩田平最大規模の古墳で、市指定文化財になっている。墳丘の形態は、西方からみれば前方後円墳の形状を呈し、帆立貝型前方後円墳とされている。しかし、前方部は半壊し、形態的にもやや疑問が残るので、今後の精査を期待したい。後円部の径は、南北３2.5ｍ、東西３4.2ｍ、高さが６ｍで、古墳時代中期後半（前・後期の２期に区分すれば

後期Ⅰ）のものと推定される。

○７１６　東紺屋村古墳　上田市大字手塚字東紺屋村

西塩田小学校の南南東約２００ｍ、産川西岸段丘端に近い手塚集落の東側畑地にあり、全壊して積石の一部が残っている。横穴式の後期の円墳と考えられる。

○７１７　将軍塚古墳　上田市大字別所字将軍塚

上田交通別所温泉駅から北側の道路を２００ｍほど入った道沿いにあり、半壊状態で天井石が露出している。墳丘は東西の径が１５ｍ、南北の径が１５.３ｍ、高さ２.８ｍの円墳であり、墳頂に多重塔がのっている。

○７１８　上塚古墳　上田市大字別所字東町

別所温泉の郵便局西南方約８０ｍの地点で、西北方に小道を入った長谷川政雄氏宅の庭先にある。全壊して積石の一部が残り、出土した馬具は常楽寺に保管されている。

○７１９　大塚古墳　上田市大字別所字大塚

八木沢集落の西端から、県道鹿教湯別所上田線を西南方へ１００ｍほど進んだ地点の南沿いにあったが、道路開設の際に全壊し、路傍に馬頭観音の碑が立っている。

○７２０～７２１　上平第１・２号墳　上田市大字山田字上平

山田集落の南端から、女神岳の北麓に向って３００ｍほど登った神社の境内と東南の山麓に２基が並列していた。社殿をつくる際に、２基の古墳から直刀が出土した。

○７２２　ヒワ塚　上田市大字山田字下打越

山田集落東南方の畑地内にあったが、破壊されている。古墳とは断定し難い。

註１　五十嵐幹雄　塩田町野倉六部塚　信濃１６－１０

c　特殊遺跡

○０１７　北谷布目瓦出土地　上田市大字別所字北谷

遺跡７０５の項参照

○０１８　穴平布目瓦出土地　上田市大字野倉字穴平

遺跡７１４の項参照

○０１９　堰ノ口三布目瓦出土地　上田市大字手塚字堰ノ口三

遺跡７３４の項参照

8. 東塩田地区の遺跡

A 遺　跡（遺物包蔵地）

○８０１　小森山遺跡　上田市大字下之郷字小森山

小牧山塊の東山南麓に所在する。他田塚古墳の西方約２００ｍ付近にあり、彌生期の太形蛤刃石斧が単独出土している。

○８０２　塚穴原遺跡　上田市大字下之郷字塚穴原

他田塚古墳の周辺畑地、およそ5,０００㎡にわたって、縄文期の石鏃・打製石斧、彌生後期の箱清水、後期の須恵器が出土している。

○８０３～８０４　十火矢・下迎原遺跡　上田市大字下之郷字十火矢・下迎原

駒瀬川に注ぐ地点の三郎川南北両岸にわたり、南北約２５０ｍ、東西約７０～８０ｍの範囲に、後期の土師・須恵器が出土している。

○８０５　東原田遺跡　上田市大字下之郷字東原田

長福寺の北方約１００ｍの微高地付近から、県道上田塩田線の東方約８０ｍの畑地と宅地にかけて、南北約６０ｍ、東西約１５０ｍの範囲に、後期の土師・須恵器が出土する。

○８０６・８１７～８１８　一本木・西又・東村遺跡

上田市大字下之郷字一本木、大字富士山字西又・東村

新池の東北方約８０ｍの畑地から、尾根川の東岸にわたる東西約１５０ｍ、北方の集落内にわたる南北約２００ｍの範囲に、後・晩期の土師・須恵器が出土している。３遺跡は集落内の一本木、東岸の西又、西岸の東村とかなり広範囲にわたるが、一連の遺跡と考えられよう。

○８０７　絵堂遺跡　上田市大字下之郷字絵堂

五加前池の東方約３００ｍ、尻無川西岸の水田地帯にあり、およそ5,０００㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器が出土している。遺跡は圃場整備により全滅したものと思われる。

○８０８　西沖遺跡　上田市大字下之郷字西沖

絵堂遺跡の南方に隣接し、水田地帯およそ3,０００㎡にわたって、彌生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○８０９　下居守沢遺跡　上田市大字富士山字下居守沢

下組集落公民館の約２５０ｍ北方から、東北方の山麓へ８００ｍほど登った地点の畑地にあり、彌生後期の箱清水式土器が微量出土し、太形蛤刃石斧も検出されている。

○８１０　塚原遺跡　上田市大字富士山字塚原

下居守沢遺跡の北西方約２００ｍの山麓畑地にあり、小範囲にわたって、後期の土師器が出土している。

○８１１　入雲雀遺跡　上田市大字富士山字入雲雀

浅間池から山麓線を南東に４００ｍほど迂回した、標高４９０ｍ付近の山麓畑地にあり、およそ3,０００㎡にわたって、縄文期の打製石斧、弥生後期の箱清水式、後期の須恵器が出土している。

○８１２　中雲雀遺跡　上田市大字富士山中雲雀

浅間池から山麓線を南方へ、約２００ｍほど迂回した山麓畑地にあり、およそ5,０００㎡にわたって、後期の土師器が出土している。

○８１３　笹塚遺跡　上田市大字富士山字笹塚

入雲雀遺跡の東方約２００ｍの山麓畑地にあり、およそ3,０００㎡にわたって、後期の須恵器が出土している。

○８１４　下川原遺跡　上田市大字富士山字下河原

下之郷公民館の南脇の道を、下組に向って約７００ｍほど進んだ道路沿いの畑地、およそ3,０００㎡にわたって、後期の土師・須恵器が出土している。

○８１５～８１６　山田屋敷・天神遺跡　上田市大字富士山字山田屋敷・天神

下之郷公民館の南脇の道路を、約３００ｍ進んだ下之郷集落の東北方畑地にあり、山田屋敷遺跡の南端から、天神遺跡の北端まで、南北約２００ｍ、東西約５０ｍの範囲で、弥生後期の箱清水式、前期から晩期の土師器、後期の須恵器が出土している。この遺跡は、昭和４８年度事業として、緊急調査の後に、圃場整備により水田化される予定である。

○８１９　下大吹遺跡　上田市大字富士山字下大吹

新池東方の尾根川の東岸にあり、およそ5,０００㎡にわたって、後期の土師・須恵器が出土している。

○８２０　源方遺跡跡　上田市大字富士山字源方

源方の集落中央から北東の畑地にかけて、縄文期の打製石斧、弥生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器が出土している。

○８２１　下刈又遺跡　上田市大字富士山字下刈又

下組公民館の南方、雨吹川の東岸にあり、分布範囲は判然としないが、縄文中期の土器、後期の土師・須恵器が出土している。

○８２２　中村遺跡　上田市大字富士山字中村

中村集落の北東部にあり、およそ5,０００㎡にわたって、縄文中期の加曾利Ｅ式、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○８２３　三門寺遺跡　上田市大字富士山字三門寺

西光寺周辺の畑地にあり、およそ5,０００㎡にわたって、縄文中期の勝坂式・加曾利Ｅ式、後期の加曾利Ｂ式の土器・石鏃・打製石斧・磨製石斧・石匙・凹石・石剣・石棒、弥生後期の箱清水式土器・磨製石鏃、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○８２４　下節月遺跡　上田市大字富士山字下節月

西光寺の南方約２００ｍの畑地にあり、およそ3,０００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師器が出土している。

○８２５～８２７　中二ツ木・東又六・馬場遺跡　上田市大字富士山字中二ツ木・東又六・馬場

馬場集落の北辺から南辺の畑地にかけて、南北約４００ｍ、東西約２００ｍの範囲で、後期の土師・須恵器が出土している。3遺跡は、北東の中二ツ木、西北の東又六の2遺跡が東西に並列し、集落の中心部をはさんで南方に馬場遺跡が続いている。

○８２８　町屋二遺跡　上田市大字富士山字町屋二

町屋集落の東南方、県道別所丸子線の南沿いにあり、およそ3,０００㎡にわたって、縄文期の打製石斧・磨製石斧・凹石、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○８２９　上節月遺跡　上田市大字富士山字上節月

町屋二遺跡の西方に並列し、尾根川の東岸台地上にある。およそ5,０００㎡にわたって、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○８３０～８３１　郷士田・下大郷遺跡　上田市大字富士山字郷士田・下大郷

水沢池の西方約２００ｍ付近の郷士田遺跡と、道路をはさんだ南側の下大郷遺跡が南北に並列している。分布範囲は南北およそ２００ｍ、東西約１００ｍで、縄文中期の初頭型式・勝坂式・加曾利Ｅ式の土器・石鏃・打製石斧・石匙・凹石、弥生後期の箱清水式土器・磨製石鏃、後期の土師・須恵器が出土している。

○８３２　西奈良尾遺跡　上田市大字富士山字西奈良尾

西奈良尾集落の中央部の西方約４００ｍ、尾根川の東岸台地上の畑地にあり、およそ5,０００㎡にわたって、弥生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器が出土している。

○８３３　城光寺遺跡　上田市大字富士山字城光寺

東奈良尾集落の東南方、駒瀬川の西岸山麓台地上にあり、分布範囲は判然としないが、縄文

期の石鏃、彌生後期の箱清水式土器・磨製石鏃が出土している。

○８３４　栗尾遺跡　上田市大字古安曾字栗尾

平井寺集落の南端にある神社の手前から、西南の道をとおって、約６００mほど登った畑地にあり、縄文期の打製石斧・石棒などが出土している。

○８３５　神田遺跡　上田市大字古安曾字神田

平井寺集落の北端部、尾根川西岸の畑地にあり、およそ3,０００㎡にわたって、彌生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器が出土している。

○８３６　下宿在家遺跡　上田市大字古安曾字下宿在家

東塩田小学校南方の畑地にあり、およそ5,０００㎡にわたって、後期の土師・須恵器が出土している。

○８３７　大六遺跡　上田市大字古安曾字大六

東塩田小学校の西北方にあり、およそ5,０００㎡にわたって、縄文中期の加曾利E式、彌生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

○８３８　中池東遺跡　上田市大字下之郷字中池東

新池北方の畑地にあり、分布範囲は判然としないが、後期の土師器が出土している。

○８３９～８４４　下絵堂・上絵堂・中田・屋原・戸一丁・穴田

上田市大字古安曾字下絵堂・上絵堂・中田・屋原・戸一丁・穴田

五加前池の東南方約２５０m付近から、尻無川の西岸にかけて、北端中央の下絵堂、東部の北から南方へ、上絵堂・中田・屋原、西側の北から戸一丁・穴田の６遺跡が、南北約２５０m、東西約２００mの範囲に分布し、ともに後・晩期の土師・須恵器を出土している。しかし、これらの遺跡は、未調査のまま圃場整備により消滅された。

○８４５～８５１　酒開・下向田・中向田・上向田・飯塚・横捲・北亦

上田市大字古安曾字酒開・下向田・中向田・上向田・飯塚・横捲・北亦

五加前池の南方付近から、南北約４００m、東西約４００mの広大な範囲にわたって分布し、五加地籍の石原（623）・水口在家（624）・長丁（632）などの３遺跡も、前述のとおりこの中に含まれるものと考えられる。東部南端の酒開遺跡は、彌生後期の箱清水式土器のみを出土するが、その他の遺跡は、彌生後期の箱清水式土器と後・晩期の土師・須恵器が出土している。五加前池の東南方から西方に向って、北部より下向田、その南に上向田・中向田・飯塚、南端に横捲・北亦の６遺跡が並列している。

○８５２　宮下遺跡　上田市大字古安曾字宮下

石神集落西北部の畑地にあり、分布範囲は判然としないが、後期の土師器が出土している。

○８５３～８５５　下吉沢・東吉沢・西吉沢遺跡

上田市大字古安曾字下吉沢・東吉沢・西吉沢

安曾神社の東方にあり、石神川（尻無川の上流）の氾濫によって、表採はほとんどできないが、北端の下吉沢遺跡と南部に並列する東吉沢と西吉沢の３遺跡にわたって、縄文期の打製石斧、弥生後期の箱清水式、前期から中期の土師器、後期の須恵器が出土している。

○８５６　浅間遺跡　上田市大字古安曾字浅間

安曾神社の南方山麓の畑地にあり、縄文期の石鏃、弥生後期の箱清水式土器・磨製石鏃が出土している。

○８５７　東畑遺跡　上田市大字古安曾字東畑

柳沢集落東方の尻無川西岸にあり、およそ5,０００㎡にわたって、後期の土師器が出土している。

○８５８　下久根遺跡　上田市大字古安曾字下久根

手洗池の北東方約１００ｍ、柳沢集落の西北部にあり、およそ3,０００㎡にわたって、後期の土師器が出土している。

○８５９　西畑道下遺跡　上田市大字古安曾字西畑道下

手洗池西北方の道路沿いの畑地にあり、およそ5,０００㎡にわたって、縄文期の石鏃、弥生後期の箱清水式土器が出土している。

○８６０　大道上遺跡

上田市大字古安曾字大道上

手洗池西方の畑地にあり、およそ6,000㎡にわたって、後期の土師・須恵器が出土している。

○８６１　東安曾岡遺跡

上田市大字古安曾字東安曾岡

手洗池の東方から、南方山麓への道を約７００ｍほど登った台地にあり、およそ3,000

第１２図　東安曾岡遺跡と東塩田の遺跡景観

㎡にわたって、縄文期の石鏃・打製石斧・磨製石斧、弥生後期の箱清水式土器・磨製石鏃が出土している。

○８６２～８６３　上清水・下清水遺跡　上田市大字古安曾字上清水・下清水

東塩田小学校北方の畑地にあり、南北およそ１５０ｍ、東西およそ８０ｍの範囲に、南の上清水と北側の下清水の２遺跡が、南北に並列して、ともに縄文期の加曾利Ｅ式、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器が出土している。

Ｂ　古　墳

○８０１～８０３　紅平山第１・２・３号墳　上田市大字下之郷字紅平山

長野大学の南方約１００ｍの地点から、東方に向う山道を約1,２００ｍほど登った標高530ｍの山腹にあり、３基が３０ｍ前後の間隔で並列している。北端の１号墳は、墳丘残存部の径が8.２ｍ、高さが1.５ｍで、石室の存在は明らかでない。中央の２号墳は、径が１２.５ｍ、高さが２ｍである。３号墳は石積の一部と思われる大石が残るだけである。地元の人の話では、この付近に更に５～６基があったといわれ、また山頂にも横穴式石室があったといわれる。これらを合わせると、１０基前後の群集墳があり、下堂寺の群集墳（１０基前後と推定）、上田女子短大裏の１基を合せて、２０数基の紅平山古墳支群を形成していたものと思われる。

○８０４　下堂寺古墳　上田市大字下之郷字下堂寺

長野大学の南方約１００ｍの地点から、更に小川沿いに南方山麓への道を約1Kmほど登った畑地にあったが、ブルトーザーで整地した際に破壊したといわれる。現状は数個所に古墳のものと思われる大石が残っている。

○８０５～８３９　東山古墳支群　上田市大字下之郷字東山・塚穴原

生島足島神社の東参道から、下之郷須川線に沿って、約２Km登ると、昭和４７年６月に市指定文化財となり、８月に発掘調査が行われた他田塚古墳に至る。この付近にある他田塚(８０６)・塚穴原１号(８０７)・同２号(８０８)・同３号(８０９)・同４号(８１０)の５基の古墳を西端とし、山頂部（標高７００ｍ）付近の東山古墳（半壊・径6.４ｍ）を東端部最高地点として、計３５基の古墳が山沢と山腹・山麓に点在している。

他田塚古墳は、南北の径１８.５ｍ、東西の径１７.２ｍ、高さ約４ｍ（南西側）の盛土円墳であり、石室は奥行９９５㎝、奥壁部幅１６５㎝、高さ２５０㎝の袖無型横穴式で、７c初どろの築造と考えられる。調査時の出土遺物は、勾玉・管玉・切子玉・白玉・丸玉・小玉・銅環・鉄鏃・鉄製直刀（大刀・刀子）・鐙・辻金具・くつわ金具・土師器（鬼高Ⅱ）・須恵器・人骨

などであり、市立博物館に保管されている。

塚穴原1号墳は、他田塚の北東約40mにあり、墳丘の一部が崩され、天井石が露出している。墳丘の径は27.2m、高さが3.2mである。2号墳は1号墳の西南に並列し、墳丘の径は16.5m、高さが1.7mである。3号墳は他田塚の南方約50mにあり、側壁の一部を残している。4号墳は他田塚の北西方約50mにあり、すでに全壊している。

明神平1号墳(811)は、他田塚の東方約600mの道路北脇の山沢にあり、こわれ塚とも呼ばれ、径9.5m、高さ1.6mの円墳で石室は全壊している。同2号墳は、1号墳の北方約30mにあり、径9m、高さ1.7mである。3号墳以下29号墳までの27基は、21号墳がわずかに石室の形態を残すのみで、盗掘後に庭石や石橋用などとして、積石や天井石が搬出され、残余の積石や村の人びとの話などによって、ようやく所在を確認したものである。以下その所在だけを略述する。3・4号墳は1・2号墳の南方約50m、標高およそ580m付近に並列し、5・6・7号墳は、2号墳の北方約30m、標高およそ603m付近に3基が南北に並列している。8・9・10号墳は、その南方約50mの標高およそ595m付近に3基が並列し、更にその南方約30mの標高およそ580m付近に、11・12・13・14号墳が並び、12号墳の約50m南方に15号墳が、その40mほど南方に16・17号墳が、更にその南方約40～50mに、18・19号墳が並列している。また15号墳の北方約80mの山麓に、20・21号墳がある。21号墳は天井石の上に扇がのり、墳丘の径が約18mと推定される。22・23・24・25号墳はその約50m南方に、26・27・28・29号墳は、更にその南方の標高およそ550m付近に4基が並列している。上記古墳の分布を概観すると、およそ10mの等高線に沿って、2～4基の古墳が並列し、これらは更に10基前後のまとまりをもち、大きくは山沢部と尾根・山麓部の3群を形成して、東山古墳支群を構成している。

この東山古墳支群には、およそ40数基の古墳が点在していたといわれ、大正期ごろまでは、数基の古墳が墳丘・石室を残していたと記録されている。しかし、現在所在が知られるのは、35基であり、いずれも後期の横穴式石室をもつ円墳である。

○840～841　宮原第1・2号墳　上田市大字下之郷字宮原

他田塚古墳の西方約300mの御旅所にあり、1号墳は径7.2m、高さ1.4m、2号墳は径が7m、高さ1.3mの円墳であるが、石室の存在が明らかでなく、古墳とするには疑問が残る。

○842～844　上雲雀第1・2・3号墳　上田市大字下之郷字上雲雀

浅間池の東東南方約300mの丘陵上にあり、1号墳は墳丘の径8.3m、高さ1.9mで、天井石を失い、奥壁と右側壁の一部を露出している。2号墳は1号墳の南方約15mにあり、側

かに側壁の基礎石2枚を残している。3号墳は1号墳の約60m西方にあり、側壁と奥壁の一部を残している。

○845　中雲雀古墳　上田市大字下之郷字中雲雀

浅間池の西方約150mの丘陵上にあり、径7.2m、高さ1.6mの円墳である。墳丘はほぼ完存しているが、石室の存在は明らかでない。

○846　浅間原古墳　上田市大字下之郷字浅間原

上雲雀1号墳の東北方約100mの山麓畑地にあり、昭和30年に破壊された。土地所有者の話を総合すると、中規模の横穴式石室があり、すでに墳丘は失われていたらしい。

○847　笹塚古墳　上田市大字富士山字笹塚

上雲雀1号墳の南方約150mの山麓にあり、大正期ごろまでは、石室の一部が残り、奥行約4.5m、幅1.8mと記録されている。しかし、現在は完全に破壊され、痕跡もとどめない。

○848～849　塚原第1・2号墳　上田市大字富士山字塚原

笹塚古墳の東方約300mの山麓畑地にあり、いずれも全壊して、側壁の基礎石を一部残している。1号墳は大正期ごろの記録によれば、奥行2.7m、幅1.8mの横穴式石室をもち、そのころすでに大部分が破壊されていたらしい。2号墳は1号墳の西南方約50mにあり、須恵器などを出土している。

○850　三門寺古墳　上田市大字富士山字三門寺

西光寺の北方約50mの畑地にあり、墳丘・石室ともに破壊されて、その上に竹・雑木などが茂っている。

○851　町屋古墳　上田市大字富士山字町屋

旧富士山小学校東方の墓地内にあり、勾玉などを出土しているが、すでに全壊して、周囲の土地より僅かに高くなり、上に五輪塔（巴山吹五輪塔）や墓石がのっている。

○852　平井寺古墳　上田市大字古安曾字神外

平井寺集落の東端、道路沿いにあり、墳丘は道路開設の折に破壊されて、天井石が露出している。終末期の横穴式石室をもつ円墳と思われる。

○853　向山古墳　上田市大字古安曾字向山

手洗池の東側の道路を、約600mほど登った山麓にあり、墳丘は半壊しているが、径10m、高さ2mの円墳と思われる。

○854　三ツ井古墳　上田市大字古安曾字三ツ井

石神集落西北部の道路脇北方約40mの畑地にあり、墳丘・石室は破壊されて、僅かに天井

石と思われる大石が残り、上に祠がのっている。墳丘残存部の径は12.8m、高さ2mである。

c　特殊遺跡

○011　平井寺窯業址　上田市大字古安曾字神明前

幕末期の比較的短期間にわたって、林東馬が築窯・操業したもので、製品は東馬焼の名で知られている。窯址は平井寺集落南部の明神前地籍・東面山麓の裾部にあり、現在は竹林になっている。昭和29[1]年の発掘調査によって、20度の傾斜をもつ6段[2]の半地下連房式登り窯であることが解明された。

註1　安藤裕「郷土の工芸　染屋焼・東馬焼」上田市立博物館によると、昭和26年とあるが、長野県教委の「長野県埋蔵文化財発掘調査要覧」によった。

註2　註1上掲書は7段とあるが、県教委「同報告書」では、6段とある。実測図でみると、焼成室6段、燃焼室・煙出部各1段の8房よりなっているように思われる。

Ⅲ　調査のまとめ

昭和４６年度から着手した上田市全域の埋蔵文化財の分布調査は、３年余の歳月を費して、ようやく完了した。この報告書は、あくまでも表面採集と既出遺物によったもので、地下に埋蔵する文化財との若干の相違はやむを得ないと思われる。今後、これらの内容を補正して、より完全なものにするよう努力していきたい。そして、この調査が、埋蔵文化財の保護と、上田市を中心にする考古学的研究、古代史の解明のために、少しでも役立てば、調査担当者として、望外の喜びである。

なお、本書の構成は、上田市全域・地区全域の埋蔵文化の様相を、できるだけ巨視的に概観し、更にその後に、各論ともいうべき各遺跡の説明を加えた。当初の予定では、各遺跡の説明を、もう少し詳細に行い、特殊遺跡についても、相当のページ数をさくつもりであった。しかし、遺跡数（埋蔵文化財包蔵地）４４６個所、古墳およびその他の高塚２１１基、窯業址（含窯址）１１個所、墳墓址（含五輪塔・宝篋印塔所在地）、廃寺跡（含布目瓦出土地）、城跡などを詳細に述べるためには、更にかなりのページ数を加える必要があり、今回は遺跡の概要を示すことにとどめ、特殊遺跡については、今後の研究の便宜のために、地名表を用いることにした。

遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の分布調査は、「信濃史料」を基礎にし、古墳・布目瓦出土地・城跡の分布は、「小県郡史」、窯業址・墳墓址（五輪塔・宝篋印塔所在地）の分布は、最近の調査を基礎にして、新発見の遺跡をこれに加えた。また、五輪塔・宝篋印塔所在地の遺跡番号は、市指定物件・同候補物件、多数が一個所にまとまっているものにとどめ、城跡の遺跡番号も、「小県郡史」所載のものに、ほぼ限定し、その他のものは、いずれも分布図に記号だけを載せた。

本書の図版に使用した写真のうち、第１図版の２枚が上田市教育委員会、第２図版の上田原台地と千曲川氾濫原を写した１枚が、上田市立博物館の川上元氏から借用した。その他の図版・挿図の写真、本書の執筆・編集は、上田市教育委員会と連携をとりながら、すべて小林が担当した。

本調査を実施するにあたっては、教育委員会事務局の文化財係、上田市文化財調査委員会の諸氏、地元の皆さん、上小考古学研究会員、上田高校郷土班、上田染谷丘高校歴史班、丸子実業高校地歴班の諸君にご協力をいただいた。併せてここに心から謝意と敬意し、本書の結びとしたい。

昭和４９年３月　　小林幹男

〔追　録〕

ここに収録した遺跡は、昭和４９年４月１日以降に確認したもので、分布図には示されていない。

5. 泉田・室賀・浦里地区

○５２５　日向小泉第８号墳　上田市大字小泉字中村

日向橋の北西約３００ｍの道路脇にあり、消防庫をつくる際に破壊し、直刀などが出土した。現在は消防庫脇の２本のけやきの木の根元に、わずかに大石が残るだけで、形態は不明である。

○５２６　上之平古墳　上田市大字下室賀字上之平

神宮寺公会堂の北東約２５０ｍ付近の城山山麓にあり、昭和初年まで、横穴式石室が残っていた。その後破壊されて、付近に積石の一部が散在している。

8. 東塩田地区

○８５５　前中山古墳　上田市大字下之郷字前中山

上田女子短期大学の北方にあたる標高およそ４８５ｍの小高い丘陵の頂上にあり、松の大木の根元にある祠付近から直刀が出土し、盛土の基部と推定される径約１５ｍ、高さ約1.5ｍの墳丘が認められる。また、この地点から南東方約２５ｍに、横穴式石室の奥壁基礎と推定される大石が残り、塩田平を眺望する山頂に、２基の後期古墳が所在したものと考えられる。

〔付録〕　上田市考古学関係文献目録

編集者	題名	書名・(発行者)	発行年
小県郡役所	先史時代他	小県郡史	大正11
長野県	道場古墳(国分)	長野県町村誌東信篇	昭和11
〃	国分寺(〃)	〃	〃
〃	正明寺跡(〃)	〃	〃
〃	権現塚(〃)	〃	〃
〃	ヤンカ塚(〃)	〃	〃
〃	石経塚(〃)	〃	〃
〃	花古屋の碧址(上田)	〃	〃
〃	上田城址(〃)	〃	〃
〃	北林城址(常磐城)	〃	〃
〃	小泉曲輪址(〃)	〃	〃
〃	牛伏城址(〃)	〃	〃
〃	乗越ノ関跡(秋和)	〃	〃
〃	彌陀平(〃)	〃	〃
〃	飯綱山城址(〃)	〃	〃
〃	千人塚(〃)	〃	〃
〃	虚空蔵城址(上塩尻)	〃	〃
〃	信福寺跡(〃)	〃	〃
〃	舎人島(〃)	〃	〃
〃	和合ノ城址(〃)	〃	〃
〃	矢沢氏城址(殿城)	〃	〃
〃	矢沢氏支城址(〃)	〃	〃
〃	将軍塚(〃)	〃	〃
〃	上ノ城址(小牧)	〃	〃
〃	下ノ城址(〃)	〃	〃
〃	古城址(〃)	〃	〃
〃	古墳・5基(諏訪形)	〃	〃

長野県	日天・月天塚（御所）	長野県町村誌東信篇	昭和11
〃	浦野氏城址（馬越）	〃	〃
〃	古城址（岡）	〃	〃
〃	古墳（福田）	〃	〃
〃	塚原古墳・6基（上田原）	〃	〃
〃	旗塚（〃）	〃	〃
〃	須々貴城址（下之条）	〃	〃
〃	物見塚（〃）	〃	〃
〃	古沢城址（古安曾）	〃	〃
〃	塚・他田塚（下之郷）	〃	〃
〃	勢至塚（五加）	〃	〃
〃	古城跡（前山）	〃	〃
〃	古城跡（〃）	〃	〃
〃	王子塚（手塚）	〃	〃
〃	口明塚（〃）	〃	〃
〃	皇子塚（〃）	〃	〃
〃	維茂塚（別所）	〃	〃
〃	口明塚（保野）	〃	〃
〃	本国国造他田氏の墳墓（上室賀）	〃	〃
〃	室賀氏墳墓（〃）	〃	〃
〃	伊勢崎城山（〃）	〃	〃
〃	笹洞城山（〃）	〃	〃
〃	跡部城山（〃）	〃	〃
〃	室賀氏城跡（〃）	〃	〃
〃	古塚穴・古墳（〃）	〃	〃
〃	小泉城址（下室賀）	〃	〃
〃	砥石城址（上野）	〃	〃
〃	伊勢崎城址（〃）	〃	〃
〃	柏山古城址（住吉）	〃	〃
〃	米山城址（〃）	〃	〃

藤沢 直枝	信濃国分寺	史蹟名勝天然記念物報告書 1	
〃	上田城	〃 〃	
〃	上田原古戦場	〃 〃	
〃	戸石城	〃 〃	
小山 真夫	上田市二子塚	〃 〃	
〃	小県郡西塩田村王子塚	〃 〃	
藤沢 直枝	小松姫之墓	〃 3	
小山 真夫	小県郡室賀村五位塚	〃 9	
〃	小県郡塩田平条里制度の遺跡	〃 10	
〃	小県郡条里制度の遺跡	〃 〃	
〃	殿城村将軍塚	〃 14	
藤沢 直枝	上代の上田地方他	上田市史上	昭和15
山浦 政	建築上より見た古墳の一考察	信濃 24－8	〃 24
五十嵐幹雄	信州大学繊維学部保存の彌生式土器	〃 Ⅲ2－12	〃 25
〃	長野県小県郡上田地方における石鏃の一考察	〃 Ⅲ6－4	〃 29
〃	獣骨を出した長野県上田市北上田遺跡	〃 Ⅲ9－11	〃 32
長野県教委	信濃国分寺	長野県文化財修理工事報告書 9	〃 36
小林 幹男	長野県小県郡塩田町検田見遺跡	信濃 Ⅲ13－6	〃
長野県教委	上田城	長野県指定文化財報告 I	〃 37
小林 幹男	長野県上田市新田と諏訪形出土の土器	信濃 Ⅲ15－2	〃 38
上田市教委	信濃国分寺跡・発掘調査速報	〃 Ⅲ15－6	〃
宮下 真澄	信濃国分尼寺址考	〃 Ⅲ15-11	〃
上田染谷丘高校歴史班	染屋焼の研究(1)	あづまや I	〃
〃	上小に於ける原始・古代文化の考古学研究	〃	〃
〃	国分寺の究	〃	〃
小林 幹男	上田市の民芸陶器「染屋焼」の研究	奨励研究4・S.B.C	〃 40

内藤政恒他	信濃国分寺跡	上田市教委	昭和40
上田染谷丘高校歴史班	染屋焼の研究(2)	あづまや Ⅱ	〃
〃	道場廃寺址の調査	〃	〃
〃	弥陀平古墳の測量調査	〃	〃
塩田支会学校職員会	塩田平の文化財と歴史	塩田支会学校職員会	〃 41
上田市教委	信濃国分寺跡第二次緊急発掘調査概報	吉川弘文館	〃
斉藤忠他	〃	信濃 Ⅲ18－12	〃
文化保護委員会	全国遺跡地図(長野県)	文化財保護委員会 長野県教育委員会	〃 42
上田市教委	信濃国分寺第三次発掘調査概報	上田市教委	〃
五十嵐幹雄	長野県小県郡塩田町内堀遺跡調査概報	信濃 Ⅲ 19－4	〃
塩田町	信州の鎌倉 塩田	塩田町	〃
大川清	信濃国分寺瓦窯探訪記	考古学ジャーナル 1968－1	〃 43
五十嵐幹雄	長野県上田市正明寺廃寺址	考古学年報 16	〃
白井恒文	上田市東郊染屋台の条里遺構について	信濃 20－8	〃
内藤政恒他	長野県上田市信濃国分寺址	考古学年報 16	〃
神科村誌編集委員会	神科村誌	神科村誌刊行会	〃
米山一政	二子塚古墳	指定文化財報告 1	〃
〃	赤坂将軍塚古墳	〃	〃
小林幹男	上小地方における古墳の構造的研究	奨励研究 6 S B C	〃
上田市教委	信濃国分寺跡史跡保存環境整備事業に伴う発掘調査の報告(昭和44)	上田市教委	〃 44
福田善雄	灰釉四耳壺	指定文化財報告 2	〃
米山一政	下青木吉田原古墳	〃 4	〃
〃	秋和八幡宮大蔵京古墳	〃	〃
木下平八郎	信濃国分寺出土の陶片	考古学会誌 7	〃
米山一政	上田市上平遺跡	信濃考古 27	〃

関　孝一	長野県上田市塩尻出土の古銭	考古学会誌　7	昭和44
米山一政他	小松姫の墓	指定文化財報告　5	〃 45
川上　元	上田市上平遺跡緊急調査報告	考古学会誌　8	〃
川上　元 小林幹男	長野県小県郡塩田町枠木遺跡緊急調査報告	信濃Ⅲ　22－8	〃
黒坂勝他	長野県上田市塩田城跡発掘調査概報	〃	〃
五十嵐幹雄	長野県上田市上の平古墳	考古学年報18	〃
小林幹男 川上　元	長野県上田市信大繊維学部敷地遺跡調査概報	考古学会誌　9	〃
川上　元	枠木遺跡	〃　10	〃
上田市教委	上田市の文化財	上田市教委	〃
上田市史編纂委員会	上田近代史	上田市	〃
五十嵐幹雄	長野県上田市信大敷地遺跡	考古学年報19	〃 46
川上　元	土師式土器集成（信大繊維学部敷地遺跡）	東京堂出版	〃
五十嵐幹雄	長野県小県郡塩田町内堀遺跡	〃	〃
〃	長野県上田市国分水野遺跡	考古学年報19	〃
白井恒文	長野県上田盆地の条里考	長野県地理　1	〃
滝沢武登 東川多寿男	王子塚	指定文化財報告　7	〃
米山一政	寒松院（真田昌幸室）墓	〃	〃
上田市教委	史跡信濃国分寺跡及び堂西遺跡調査報告	上田市教委	〃
小林幹男 川上　元	上田市西光坊・向田Ⅱ・石原遺跡の調査	上小考古　1	〃
川上　元	上田・小県の古代文化	〃　1・2	〃
五十嵐幹雄	上田撚糸所遺跡	長野県埋蔵文化財発掘調査要覧	〃
〃	東馬古墳	〃	〃
小林幹男	検田見遺跡	〃	〃
内藤政恒	上田国分寺址	〃	〃

五十嵐幹雄	道場廃寺址	長野県埋蔵文化財発掘調査要覧	昭和46
小林 幹男	染屋古窯	〃	〃
五十嵐幹雄	六部塚古墳	〃	〃
斉藤 忠	上田国分寺址	〃	〃
上田市教委	上田市の文化財	上田市教委	〃 47
小林 幹男 川上 元	西光坊・向田Ⅱ・石原遺跡緊急発掘調査報告	〃	〃
小林 幹男	他田塚古墳	指定文化財報告 8	〃
五十嵐幹雄	水野遺跡	長野県埋蔵文化財発掘調査要覧	〃
〃	西町田遺跡	〃	〃
斉藤 忠	国分寺・国分尼寺址	〃	〃
米山 一政	二子塚古墳陪塚	〃	〃
〃	上の平窯址	〃	〃
斉藤 忠	上田国分寺跡	〃	〃
黒坂 周平	塩田城跡	〃	〃
五十嵐幹雄	枠木遺跡	〃	〃
斉藤 忠	信濃国分尼寺址	〃	〃
米山 一政	塩田城跡	〃	〃
斉藤 忠	信濃国分寺(僧寺)址	〃	〃
五十嵐幹雄	西光坊・石原・向田Ⅱ遺跡	〃	〃
斉藤 忠	信濃国分寺址	〃	〃
〃	堂西遺跡	〃	〃
小林 幹男	他田塚古墳発掘調査報告書	上田田市教委	〃 48
〃	明神前遺跡	考古学年報 24	〃
〃	西沖遺跡	〃	〃
〃	上田市明神前遺跡の調査	上小考古 2	〃
〃	他田塚古墳の調査	〃	〃
石川 好一	上小の石造文化	〃 3	〃
白井 恒文	上田市近郊の条里遺構について	〃	〃

岩佐今朝人	上田・小県の古代文化	上小考古 3～5	昭和48
大井文雄他	岡城跡	指定文化財報告 9	〃
〃	五位塚の板碑	〃	〃
小林幹男	新屋塚古墳	〃	〃
〃	皇子塚古墳	〃	〃
〃 他	上田市下郷窯業址の調査	上小考古 4	〃
〃 他	上田市の民芸陶器染屋焼	〃 4～	〃
川上元	上田市唐臼出土の瓦塔	〃 5	〃
高橋今朝男	東信地方出土の古瓦	〃	〃
小林幹男	長野県上田市西光坊・向田Ⅱ	考古学会誌15	〃
川上元	石原遺跡緊急発掘調査報告		〃
上田市教委	条里遺構分布調査概報 染屋台地区	上田市教委	〃
川上元	上田市諏訪部唐臼出土の瓦塔について	上田小県誌歴史研究紀要 1	〃
滝沢武登	上小地方の内堀と堀の内	〃	〃
土屋保男	塩田の廃寺について	〃	〃
小林幹男	長野県上田市下郷窯業址発掘調査報告	考古学会誌17	〃 49

註　考古学会誌……長野県考古学会誌　　考古学年報……日本考古学年報

指定文化財報告……上田市指定文化財報告

「上田市埋蔵文化財分布調査報告書」によせて

上田市文化財調査委員会委員長　遠　藤　宏　三

上田市教育委員会では、文化財調査委員会が昭和４２年３月に設置された当初から、市内の遺跡や古墳の保護に力を注いで来た。そして、昭和４５年４月に塩田町が合併したのに伴い、同町教委が指定した多数の古墳を市の指定文化財としたため、調査対象が急激に増加した。特に塩田の東山古墳群は、長野市の大室古墳群につぐ県下屈指の大古墳群であるが、過去の長年月の間に無意識の破壊が行なわれていた。そこで上田市文化財調査委員会は、これら古墳と遺跡の徹底した調査の必要性を感じ、市教委もこれに取り組むことになった。作業は主として文化財調査委員の上田染谷丘高校教諭小林幹男氏が当ることになったが、上小考古学研究会長でもある氏は、３年間に亘りくまなく現地を踏査され、或は地元の協力者に案内をたのみ、或は古老について過去の古墳や遺跡の出土品の聞き込みや、破壊された古墳の位置や形・包蔵地の分布などについても調査し、ここに上田市所在の遺跡・古墳の分布図、同一覧表を付して、８冊の上田市埋蔵文化財包蔵地台帳にまとめ、また報告書として詳しく記録されたのである。

文化財の保護は、その所在と状態を明らかにすることからはじまるが、遺跡や古墳においてはその性質上からも社会の現況からも、最も重要な問題である。

文化財保護の重要性が広く社会に認められつつある中で、古墳や埋蔵文化財ほど一般人からおろそかにされているものは少ない。はなはだしい例では、文化財保護の責任者である教育委員会が、古墳所在の土地所有者がその重要性を認めて残すことに賛成しているのに、農地の開発を理由に破壊をきめた町があるというありさまである。だから大衆が古墳が千数百年も前の先祖の墓であり、古代史研究の重要な遺構であることを知らないのは無理からぬことである。金になる事業や便利になる開発計画のために、かけがえのない資料が永久に消え去ることを防止することは、文化財保護の目下の急務である。

県下にさきがけた上田市のこの遺跡・古墳の分布調査は、この意味において極めて貴重なものとして、今後の遺跡・古墳保護と研究に役立つであろうし、役立たせねばならない。

ここに小林氏のご労苦に対し深甚の敬意と感謝の意を表するものである。

上田市埋蔵文化財調査報告書
昭和４９年３月　１日印刷
昭和４９年３月１０日発行
発行者　上田市教育委員会
印刷所　金　井　印　刷　所
（非売品）

長野県松本市旭3丁目1番1号(〒390)
信州大学人文学部